TOA

設置説明書

IP コミュニケーションシステム
CX-1000 シリーズ

このたびは、TOA IP コミュニケーションシステムをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの設置説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目　次

第 1 章　システムの概要

安全上のご注意 1-2

概　要 1-6

特　長 1-6

システム例 1-7
- システムを構成する機器の概要 1-7
- システム例 1-8

第 2 章　各部の名称とはたらき

システムマネージャー CX-SM1000 2-2
- 前面 2-2
- 後面 2-3
- 機器の表示についての説明 2-3

ビデオ多機能端末 CX-OP1700 2-4
- 操作面 2-4
- 左側面 2-5
- 底面 2-6
- 機器の表示についての説明 2-7

ビデオドア端末 CX-CL1750 2-8
- 前面 2-8
- 右側面 2-8
- 後面 2-9
- 底面 2-9
- 機器の表示についての説明 2-10

標準端末 CX-OP1500 2-11
- 操作面 2-11
- 左側面 2-12
- 底面 2-13
- 機器の表示についての説明 2-14

ドア端末 CX-CL1550 2-15
- 前面 2-15
- 後面 2-15
- 底面 2-16
- 機器の表示についての説明 2-16

タッチパネルリモコン CX-RM1700 2-17

操作面 2-17
左側面 2-18
底面 2-18
機器の表示についての説明 2-19

音声インターフェース 6 入力 2 出力 CX-AF1062 2-20
前面 2-20
後面 2-21
機器の表示についての説明 2-22

アンプ 120/240W 10 回線 CX-PA1120/PA1240 2-23
前面 2-23
後面 2-25
機器の表示についての説明 2-26

制御入出力ユニット CX-CC1016 2-27
前面 2-27
後面 2-27
底面 2-28
機器の表示についての説明 2-28

第 3 章　設置と接続のしかた

キャビネットラックに取り付けるとき 3-2
使用可能なキャビネットラック 3-2
設置スペース 3-2

CX-SM1000 の設置 3-3
キャビネットラックへの取り付けかた 3-3
卓上に置くとき 3-4
壁に取り付けるとき 3-5

CX-OP1700 の設置 3-6
カメラ角度の調節 3-6
卓上に置くとき 3-7
壁に取り付けるとき 3-10

CX-CL1750/CL1550 の設置 3-13
カメラ角度の調節（CX-CL1750 のみ） 3-13
3 個用スイッチボックスを使用して壁に埋め込むとき 3-14
露出ボックスを使用して壁に取り付けるとき 3-15

CX-OP1500 の設置 3-16
卓上に置くとき 3-16
壁に取り付けるとき 3-17

CX-AF1062 の設置 3-20
キャビネットラックに取り付けるとき 3-20

卓上に置くとき 3-21
壁に取り付けるとき 3-21

CX-PA1120/PA1240 の設置 3-23
設置上のご注意 3-23
キャビネットラックに取り付けるとき 3-24
卓上に置くとき 3-24
壁に取り付けるとき 3-25

CX-CC1016 の設置 3-26
キャビネットラックに取り付けるとき 3-26
卓上に置くとき 3-27
壁に取り付けるとき 3-28

接続のしかた 3-29
着脱式ターミナルプラグの接続のしかた 3-29
プッシュ式ターミナルの接続のしかた 3-31
CX-SM1000 の接続 3-32
CX-OP1700 の接続 3-34
CX-CL1750/CL1550 の接続 3-36
CX-OP1500 の接続 3-38
CX-RM1700 の接続 3-40
CX-AF1062 の接続 3-42
CX-PA1120/PA1240 の接続 3-45
CX-CC1016 の接続 3-51

第 4 章　付　録

付属品一覧 4-2

第１章

システムの概要

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号			行為を強制する記号		
分解禁止	禁　止	接触禁止	強　制	電源プラグを抜け	アース線を接続せよ

⚠ 警告　誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

水にぬらさない（CX-CL1750/CL1550 を除く）

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

電源コードを傷つけない（CX-PA1120/PA1240 のみ）

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

電源のアース接続をする（CX-PA1120/PA1240 のみ）

アース接続をしないと、感電の原因となります。
アース接続は、必ず主電源プラグを主電源に接続する前に行ってください。
また、アース接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行ってください。

アース線を接続せよ

不安定な場所に置かない（卓上設置の場合のみ）

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

禁　止

⚠ 警告　誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

設置場所の強度を確認する（壁設置の場合）

取付金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。
十分な強度がないと落下して、けがの原因となります。

強　制

屋外に設置しない（CX-CL1750/CL1550 を除く）

本機は、屋内専用品です。
屋外に設置すると、部品の劣化により、機器が落下して、けがの原因となります。
また、雨などがかかると、感電の原因となります。

禁　止

塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない

（壁設置の場合）

部品の劣化により、落下して、けがの原因となります。

禁　止

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、電源の供給を止めて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）（CX-PA1120/PA1240 のみ）
- 音が出ないとき
- 画面が映らないとき

強　制

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

禁　止

雷が鳴ったらさわらない（CX-PA1120/PA1240 のみ）

雷が鳴り出したら、電源プラグにはさわらないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

裸火を上に置かない

たとえば火のついたローソクのような、裸火を本機の上に置かないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

⚠注意　誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

電源コードを引っ張らない（CX-PA1120/PA1240 のみ）

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

禁　止

移動させるときは電源プラグを抜く

（CX-PA1120/PA1240 のみ）

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

通風口をふさがない（CX-PA1120/PA1240 のみ）

通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。また、通風口にほこりがたまらないよう定期的に掃除をしてください。

禁　止

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

禁　止

配線はアンプの電源を切ってから行う

（CX-PA1120/PA1240 のみ）

電源を入れたまま配線すると、感電の原因となることがあります。

強　制

ラックに取り付けるときの注意

（CX-SM1000/AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 のみ）

次のことを必ずお守りください。
守らないと、火災・けがの原因となることがあります。

- ラックは安定したところに据え付け、アンカーボルトなどで転倒・移動防止の処置を行うこと。
- 電源コードをコンセントに接続するときは、コンセントの許容電流を超えないこと。
- ラックに取り付けるねじは、付属していません。ラックに合ったねじをご使用ください。

強　制

使用するとき

上に重いものを置かない（壁設置の場合）

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

電源を入れる前には音量を最小にする

（CX-PA1120/PA1240 のみ）

音量を上げたまま電源を入れると、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

強　制

⚠注意　誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

使用するとき

長時間、音が歪んだ状態で使わない
（CX-PA1120/PA1240 のみ）

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁　止

AC アダプターは指定のものを使用する
（CX-PA1120/PA1240 を除く）

指定以外のものを使用すると、火災の原因となることがあります。

強　制

定期的に内部の掃除をする（CX-PA1120/PA1240 のみ）

内部の掃除については、販売店にご相談ください。
内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災の原因となることがあります。

強　制

電源プラグやコンセント部の掃除をする
（CX-PA1120/PA1240 のみ）

電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、電源プラグは根元まで差し込んでください。

強　制

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意
（CX-PA1120/PA1240 のみ）

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
守らないと、感電・火災の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

製品の上に乗らない（壁設置の場合）

本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。
倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

警告
本装置を住宅環境で使用すると無線障害を引き起こす可能性があります。

警告（CX-PA1120/PA1240 のみ）
記号 ⚠ がついている端子には高電圧がかかっていますので、触れると感電の原因となります。

（CX-PA1120/PA1240 のみ）
本機は電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ（遮断装置）へ容易に手が届くようにしてください。

本製品は電気通信事業者（移動通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど）の通信回線（公衆無線 LAN を含む）に直接接続することができません。

（CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550/RM1700 のみ）
腐食性ガスが発生する環境で使用する場合は、PoE で給電を行ってください。

概　要

ビデオ通話と放送を統合した IP ネットワークコミュニケーションシステムです。
ビデオインターカムシステムと多元業務放送システムを融合したシステムを構築することができます。

特　長

- 最大 3000 回線への出力が可能な多元業務放送システムです。
- システム内に最大 3000 台の機器を接続することができます。
- 汎用 IP ネットワークを利用し、システムの分散配置が可能です。
- 故障検知機能により、信頼性の高いシステムを構築できます。
- SIP プロトコルに対応しているので、汎用 SIP 電話から通話が可能です。
- ONVIF® プロトコルに対応したネットワークカメラの映像を端末で確認することができます。
- アンプ付きスピーカーセレクターユニットを使用することで、多回線の放送システムを構築できます。

※ ONVIF は ONVIF Inc. の登録商標です。

システム例

■ システムを構成する機器の概要

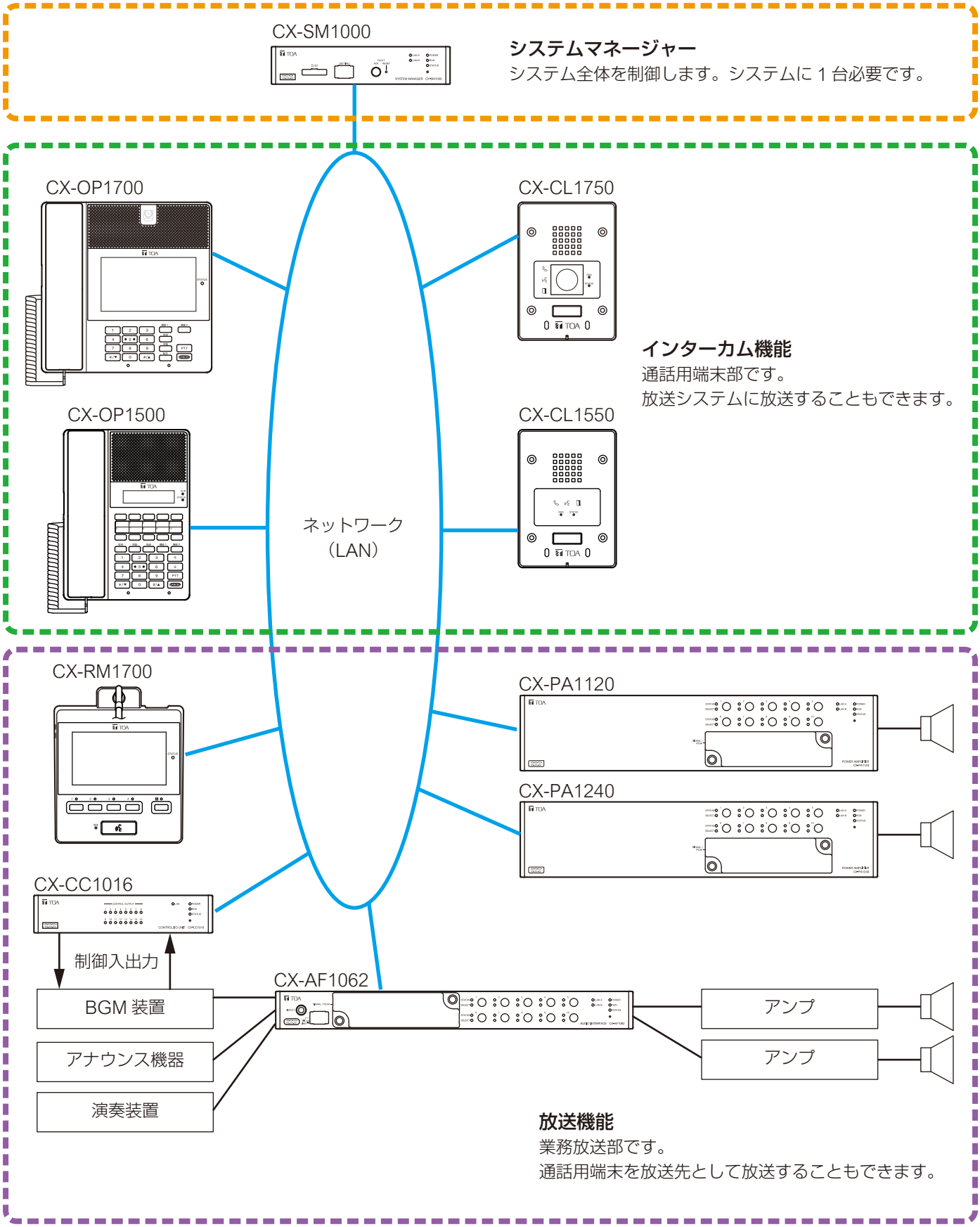
品番	品名	機能概要	1 システム当たりの接続最大台数
CX-SM1000	システムマネージャー	CX-1000 システムを制御するための中央制御機器です。システムに 1 台必要です。	1
CX-OP1700	ビデオ多機能端末	液晶操作パネルを装備した、多機能端末です。端末間の通話のほか、カメラ映像の表示、放送や外部機器の制御ができます。	100
CX-CL1750	ビデオドア端末	カメラを装備したドア端末です。通話先のビデオ多機能端末に映像を表示しながら通話することができます。	3000
CX-OP1500	標準端末	キー操作によって通話ができる標準端末です。端末間の通話のほか、放送や外部機器の制御ができます。	3000
CX-CL1550	ドア端末	標準的なドア端末です。	3000
CX-RM1700	タッチパネルリモコン	液晶操作パネルを装備した、放送用のリモートマイクです。	100
CX-AF1062	音声インターフェース 6 入力 2 出力	外部の音源やアンプを接続するための音声インターフェースです。6 音声入力、2 音声出力を装備しています。また、前面にダイレクトキーを装備し、放送の起動や外部機器の制御ができます。	300
CX-PA1120	アンプ 120W 10 回線	120 W のアンプを内蔵した音声出力インターフェースです。10 回線のスピーカーセレクターを装備し、前面のダイレクトキーを操作することで、放送の起動や外部機器の制御ができます。	300
CX-PA1240	アンプ 240W 10 回線	240 W のアンプを内蔵した音声出力インターフェースです。10 回線のスピーカーセレクターを装備し、前面のダイレクトキーを操作することで、放送の起動や外部機器の制御ができます。	300
CX-CC1016	制御入出力ユニット	16 制御入力、16 制御出力を装備した制御入出力ユニットです。外部機器を接続することによって、放送の起動や外部機器の制御ができます。	100

システム全体（各機器仕様の総和）で、音声入力数 3000、音声出力数 3000、制御入力数 12000、制御出力数 15000、スピーカー回線出力数 3000 まで、かつ各機器の最大接続台数を超えない範囲で構成が可能です。

ご注意

機器の組み合わせによって、最大接続台数を超えない範囲でも構成できない場合があります。
詳しくは、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「システムマネージャー以外の機器の登録」をお読みください。

■ システム例

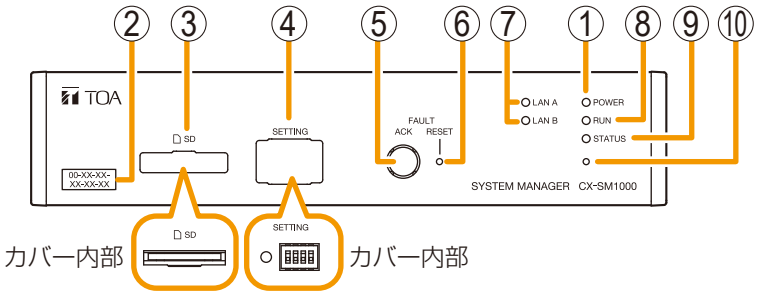

CX-SM1000
システムマネージャー
システム全体を制御します。システムに 1 台必要です。
CX-OP1700
CX-CL1750
インターカム機能
通話用端末部です。
放送システムに放送することもできます。
CX-OP1500
CX-CL1550
ネットワーク
（LAN）
CX-RM1700
CX-PA1120
CX-PA1240
CX-CC1016
制御入出力
CX-AF1062
BGM 装置
アナウンス機器
演奏装置
アンプ
アンプ
放送機能
業務放送部です。
通話用端末を放送先として放送することもできます。

第２章

各部の名称とはたらき

システムマネージャー CX-SM1000

[前面]



① 電源表示灯［POWER］（緑）

電源を入れると点灯します。

② MAC アドレス

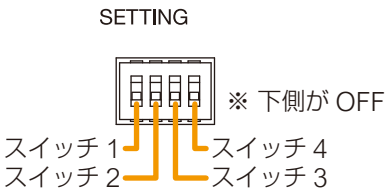
本機の MAC アドレスです。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

③ SD カードスロット［SD］

SD カードを挿入します。
設定データの転送をするとき、および動作履歴・故障履歴を CX-SM1000 本体から読み込むときに使用します。
（☞ 別冊の操作説明書「SD カードを使ったアップロードとダウンロード」）

SD、SDHC および SDXC ロゴは、SD-3C LLC の商標です。

④ 設定スイッチ［SETTING］



（工場出荷時：すべて OFF）

ご注意

カバーを取り外すとき、強く引っ張らないでください。
カバーが本体から抜け落ちたり、破損する恐れがあります。

- **スイッチ 1**
  本機に SD カードを挿入し、このスイッチを操作することで、ログと設定データの保存ができます。（☞ 別冊の操作説明書「CX-SM1000 から SD カードへダウンロードするとき」）
- **スイッチ 2**
  本機に SD カードを挿入し、このスイッチを操作することで、設定データを本機にアップロードできます。（☞ 別冊の操作説明書「SD カードから CX-SM1000 へアップロードするとき」）
- **スイッチ 3**
  CX-1000 システム内での故障発生時および発生中のブザー音について設定します。
  OFF：ブザー音が鳴ります。（工場出荷時）
  ON ：ブザー音は鳴りません。
- **スイッチ 4**
  使用しません。

⑤ 故障受理キー［FAULT ACK］

システムの異常を検出した場合、ブザー音が鳴ります。このキーを押すことで、ブザー音が停止します。
ブザー音が発生しないようにするためには、設定スイッチ④のスイッチ 3 で設定します。

⑥ 故障リセットキー［FAULT RESET］

このキーを押すと、システムの故障検知状態がリセットされます。

⑦ LAN A/B 表示灯［LAN A/B］（緑）

本機をネットワークに接続すると点灯し、データを送受信中は点滅します。

⑧ 作動表示灯［RUN］（緑）

本機が正常に動作しているか、示します。
（☞ 別冊の操作説明書「作動表示灯の状態」）

⑨ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）

本機のイベント状態を表示します。
（☞ 別冊の操作説明書「状態表示灯の状態」）

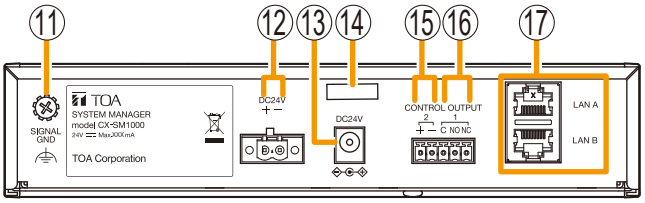
⑩ リセットキー

このキーを押すと、本機は再起動します。

ご注意

システム稼働中に本機を再起動すると、その間はシステムが停止します。

[後面]



⑪ 機能アース端子［SIGNAL GND］

必ず接地してください。

※ 安全アースではありません。

⑫ DC 電源入力端子［DC24V］

着脱式ターミナルブロック*

電源は 24 V を使用します。

⑬ AC アダプター接続端子［DC24V］

別売の AC アダプター AD-246 を接続します。

⑭ コードクランプ

コードを固定するときに使用します。コードをコードクランプに挟み込み、固定してください。

（☞ P. 3-32「CX-SM1000 の接続」）

⑮ 制御出力端子 2［CONTROL OUTPUT 2］

着脱式ターミナルブロック*

オープンコレクター出力（極性あり）

耐電圧 :DC30 V

許容電流 :100 mA

表示器などの外部機器に接続できます。

⑯ 制御出力端子 1［CONTROL OUTPUT 1］

着脱式ターミナルブロック*

リレー接点出力（c 接点）

耐電圧　：DC30 V

許容電流：1 A

システムの状態を外部機器に出力したいときに、外部機器と接続して使用します。

⑰ ネットワーク接続端子［LAN A/B］

イーサネット RJ45 ジャック

100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。

* 付属の着脱式ターミナルプラグを使用して接続します。

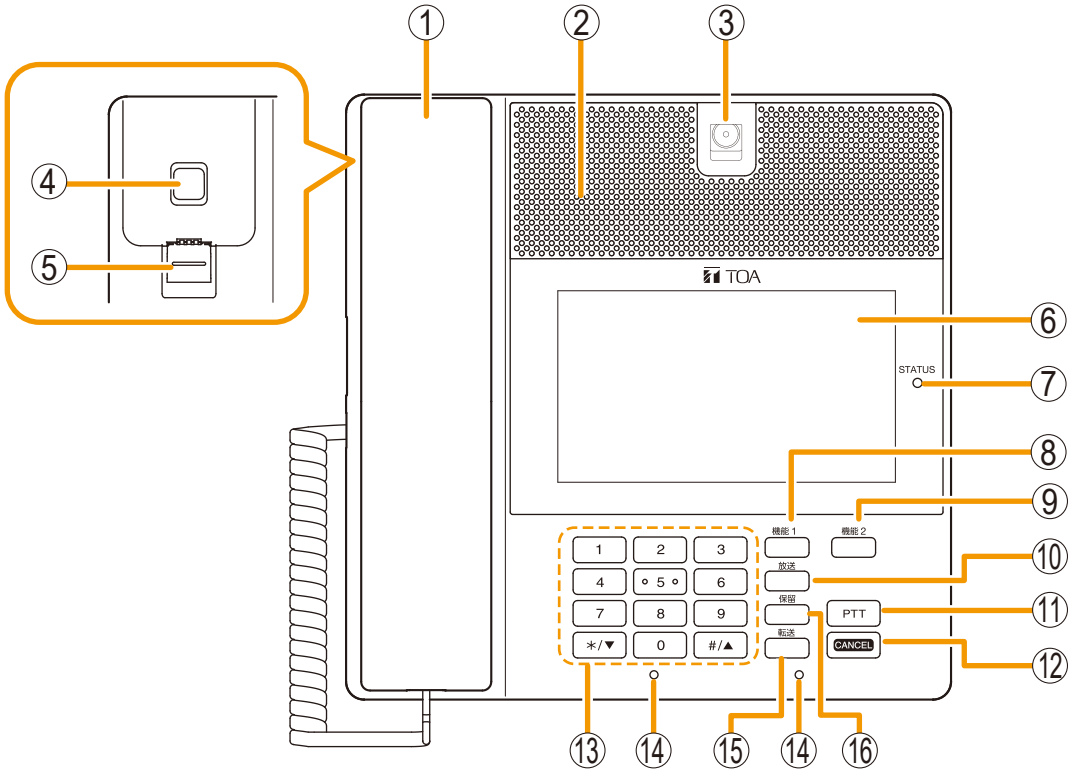
着脱式ターミナルプラグの接続のしかたについては、P. 3-29 をお読みください。

[機器の表示についての説明]

機器の表示	表示位置	説明
⏚	後面	機能アース端子を示します。 **ご注意** 安全アースではありません。
⊖◎⊕	後面	AC アダプター入力端子の極性を示します。 センターピンがプラス、外側がマイナスです。
⎓	後面	DC 電源を示します。
	後面	リサイクルへの協力要請を示します。本機を一般の廃棄物と一緒に処理しないでください。

ビデオ多機能端末 CX-OP1700

[操作面]



① ハンドセット
ハンドセット通話やマイク放送時に使用します。

② スピーカー
放送・通話用のスピーカーです。受信した放送の拡声、信号音の再生、ハンズフリー通話に使用します。

③ カメラ
設定に応じて、通話時、相手に映像を映します。

④ フックスイッチ
ハンドセットのオンフック、オフフックの状態を検知します。

⑤ ハンドセットフック
ハンドセットを引っ掛けます。外して向きを変えることができます。爪のある方を上向きにすると、端末に傾きがあるときにハンドセットが落下しにくくなります。（☞ P. 3-10「ハンドセットフックの向きの変えかた」）

⑥ 液晶画面
タッチ操作に対応した液晶画面です。
文字、画像（動画）、および機器の状態を表示し、タッチ入力で各種イベントを操作します。

⑦ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）
本機のイベント状態を表示します。
（☞ 別冊の操作説明書「状態表示灯の状態」）

⑧ 機能 1 キー
転送先の設定や、ドアリモートの操作時に使用します。

⑨ 機能 2 キー
使用しません。

⑩ 放送キー
放送をするときに使用します。

⑪ PTT キー

ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になり、離すと相手側からの一方向通話になります。
着信中に押すことで、通話を開始します。
（☞ 別冊の操作説明書「通話機能と操作のしかた」）

⑫ キャンセルキー

操作の取り消しや終話などに使用します。

⑬ ダイヤルキー

通話相手の呼び出しや機能の設定などに使用します。

⑭ マイク

ハンズフリー通話やマイク放送時に使用します。

ご注意

マイクをふさがないでください。通話品質に支障を来す可能性があります。

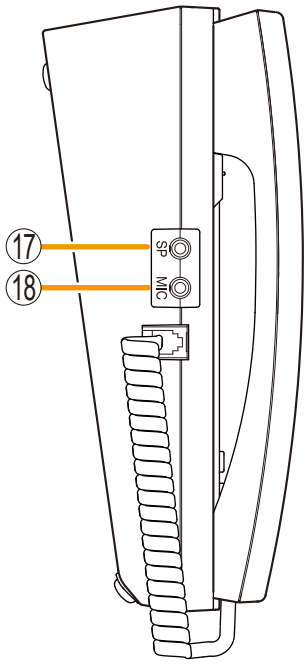
⑮ 転送キー

通話を他の端末に転送するときに使用します。
（☞ 別冊の操作説明書「転送」）

⑯ 保留キー

通話を一時保留するときに使用します。
（☞ 別冊の操作説明書「保留」）

[左側面]



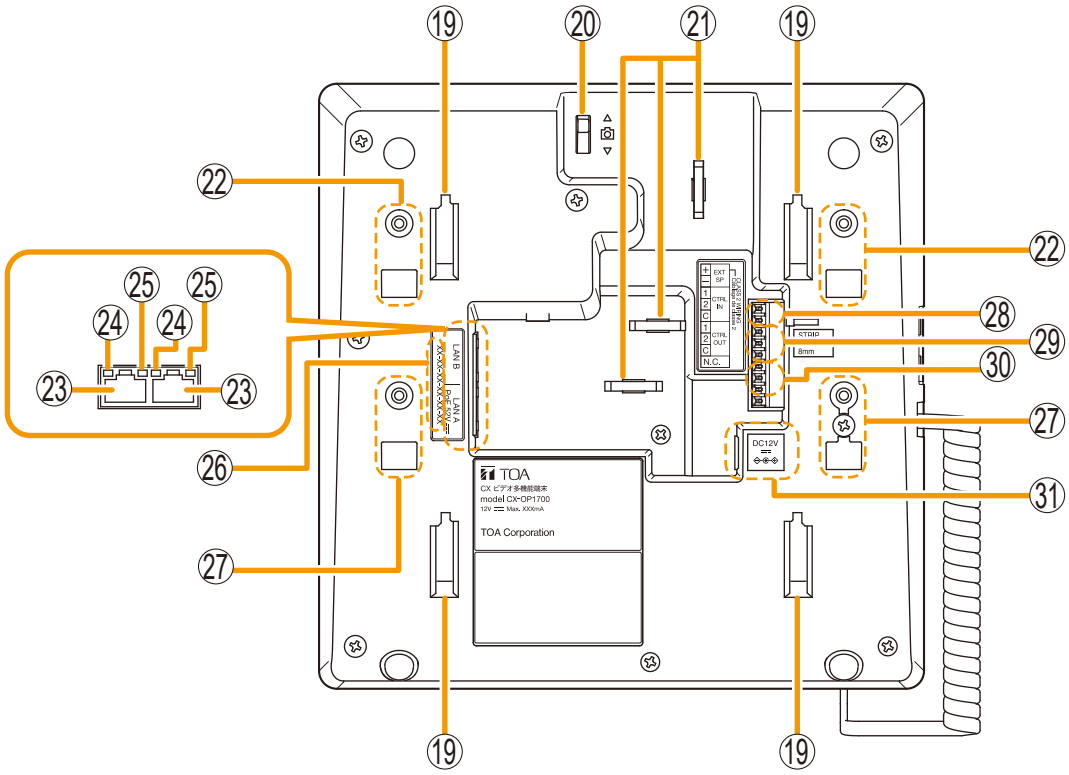
⑰ ヘッドセット用スピーカー接続端子［SP］

3.5 mm のヘッドセットスピーカー端子を接続できます。

⑱ ヘッドセット用マイク接続端子［MIC］

3.5 mm のヘッドセットマイク端子を接続できます。

[底面]



⑲ 壁掛金具取付穴

別売の壁掛金具 YC-1001 を使用するとき、金具のフックをここに挿入します。
（☞ P. 3-11「壁への取り付けかた」）

⑳ カメラ角度調節レバー

カメラの角度を調節できます。（☞ P. 3-6「カメラ角度の調節」）

㉑ 配線固定用穴

配線をバインドするときに使用します。
（☞ P. 3-7「配線のしかた」、P. 3-12「[露出配線するとき]」）

㉒ スタンド取付部（45˚上向き用）

付属のスタンドを固定するときに使用します。
スタンドをこの位置に取り付けることで、本機の角度を 45° 上向きにすることができます。
（☞ P. 3-8「スタンドの取り付けかた」）

㉓ ネットワーク接続端子［LAN A/B］

イーサネット RJ45 ジャック
100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
LAN A のみ PoE 給電に対応しており、LAN A を PoE（Power over Ethernet）に対応したスイッチングハブに接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。

㉔ LINK/ACT 表示灯（緑）

データの送受信時に点滅します。

㉕ SPEED 表示灯（緑）

100BASE-TX で接続しているときに点灯します。

㉖ MAC アドレス

本機の MAC アドレスです。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

㉗ スタンド取付部（60˚上向き用）

付属のスタンドを固定するときに使用します。
スタンドをこの位置に取り付けることで、本機の角度を 60° 上向きにすることができます。
（☞ P. 3-8「スタンドの取り付けかた」）

㉘ 外部スピーカー出力端子［EXT SP］

プッシュ式ターミナル*
外部スピーカー（8 Ω、2 W 以上）を接続できます。
（☞ P. 3-34「CX-OP1700 の接続」）

㉙ 制御入力端子［CTRL IN 1/2］

プッシュ式ターミナル*
無電圧メイク接点入力
開放電圧：DC12 V
短絡電流：5 mA
スイッチ、センサーなどの外部機器に接続できます。

㉚ 制御出力端子［CTRL OUT 1/2］

プッシュ式ターミナル*
オープンコレクター出力（極性あり）
耐電圧　：DC30 V
許容電流：100 mA
表示器などの外部機器に接続できます。

㉛ AC アダプター接続端子

別売の AC アダプター AD-1215P を接続します。

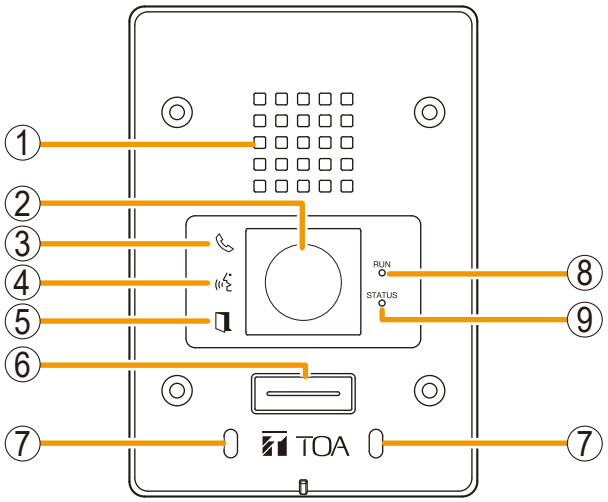
* プッシュ式ターミナルの接続のしかたについては、P. 3-31 をお読みください。

［機器の表示についての説明］

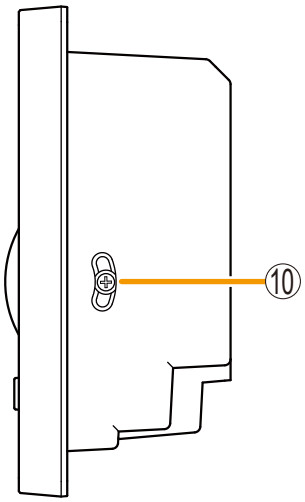
機器の表示	表示位置	説明
	底面	AC アダプター入力端子の極性を示します。 センターピンがプラス、外側がマイナスです。
⎓	底面	DC 電源を示します。

ビデオドア端末 CX-CL1750

[前面]



[右側面]



① スピーカー

放送・通話用のスピーカーです。受信した放送の拡声、信号音の再生、通話に使用します。

② カメラ

設定に応じて、通話時、相手に映像を映します。

③ 呼出表示灯（黄）

呼び出しているときに点灯します。
（☞ 別冊の操作説明書「アイコン一覧」）
あらかじめ端末番号を設定し、ダイレクトキーに呼び出し先を登録しておいてください。

④ 通話表示灯（緑）

通話しているときに点灯します。
（☞ 別冊の操作説明書「アイコン一覧」）

⑤ 解錠表示灯（緑）

ドアが解錠されたときに点灯します。
（☞ 別冊の操作説明書「アイコン一覧」）

⑥ ダイレクトキー／カメラ用照明

このキーを押すと、キーに割り当てられている機能が実行されます。
設定により、必要なときに話者を照らすことができます。
キーへの機能の割り当ておよびカメラ用照明の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」「照明の設定」）

⑦ マイク

ハンズフリー通話に使用します。

ご注意

マイクをふさがないでください。通話品質に支障を来す可能性があります。

⑧ 作動表示灯［RUN］（緑）

本機が正常に動作しているか、示します。
（☞ 別冊の操作説明書「作動表示灯の状態」）

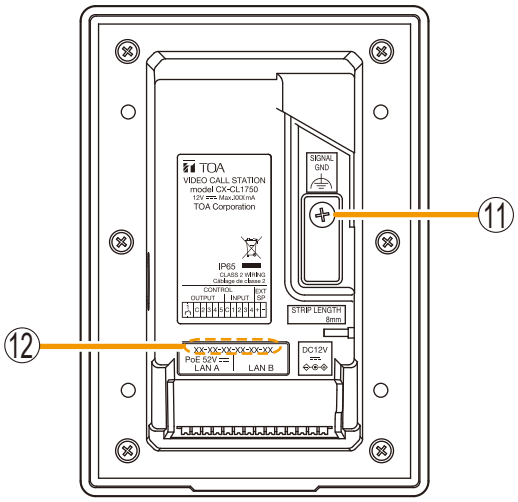
⑨ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）

本機のイベント状態を表示します。
（☞ 別冊の操作説明書「状態表示灯の状態」）

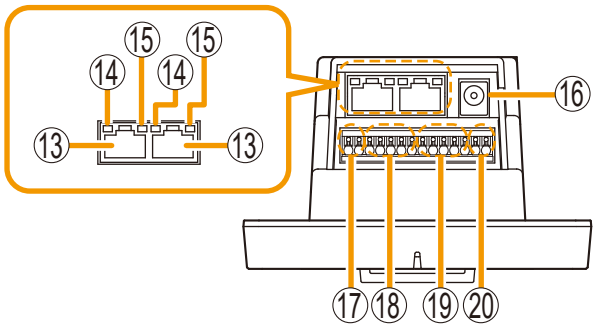
⑩ カメラ角度調節ねじ

カメラの角度を調節できます。（☞ P. 3-13）

[後面]



[底面]



⑪ 機能アース端子［SIGNAL GND］

必ず接地してください。
※ 安全アースではありません。

⑫ MAC アドレス

本機の MAC アドレスです。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

⑬ ネットワーク接続端子［LAN A/B］

イーサネット RJ45 ジャック
100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
LAN A のみ PoE 給電に対応しており、LAN A を PoE（Power over Ethernet）に対応したスイッチングハブに接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。

⑭ LINK/ACT 表示灯（緑）

データの送受信時に点滅します。

⑮ SPEED 表示灯（緑）

100BASE-TX で接続しているときに点灯します。

⑯ AC アダプター接続端子

別売の AC アダプター AD-1215P を接続します。

⑰ 制御出力端子 1［CONTROL OUTPUT 1］

プッシュ式ターミナル*
リレー接点出力
耐電圧　：DC30 V
許容電流：1 A
電気錠などの外部機器に接続できます。

⑱ 制御出力端子 2 ～ 5［CONTROL OUTPUT 2 ～ 5］

プッシュ式ターミナル*
オープンコレクター出力（極性あり）
耐電圧　：DC30 V
許容電流：100 mA
表示器などの外部機器に接続できます。

⑲ 制御入力端子［CONTROL INPUT 1 ～ 4］

プッシュ式ターミナル*
無電圧メイク接点入力
開放電圧：DC12 V
短絡電流：5 mA
スイッチ、センサーなどの外部機器に接続できます。

⑳ 外部スピーカー出力端子［EXT SP］

プッシュ式ターミナル*
外部スピーカー（8 Ω、2 W 以上）を接続できます。
（☞ P. 3-36「CX-CL1750/CL1550 の接続」）

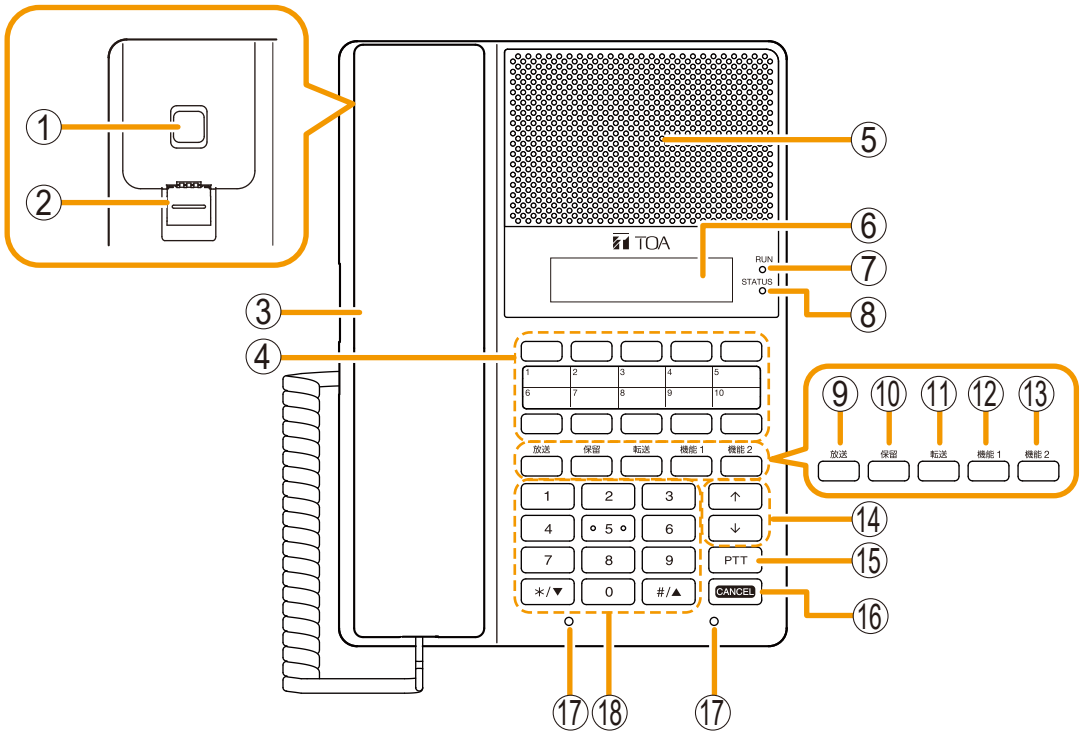
* プッシュ式ターミナルの接続のしかたについては、P. 3-31 をお読みください。

[機器の表示についての説明]

機器の表示	表示位置	説明
	前面	通話の呼び出し状態を示します。
	前面	通話中の状態を示します。
	前面	ドアの解錠状態を示します。
	後面	機能アース端子を示します。 **ご注意** 安全アースではありません。
	後面	AC アダプター入力端子の極性を示します。 センターピンがプラス、外側がマイナスです。
⎓	後面	DC 電源を示します。
	後面	リサイクルへの協力要請を示します。本機を一般の廃棄物と一緒に処理しないでください。

標準端末 CX-OP1500

[操作面]



① フックスイッチ
ハンドセットのオンフック、オフフックの状態を検知します。

② ハンドセットフック
ハンドセットを引っ掛けます。外して向きを変えることができます。爪のある方を上向きにすると、端末に傾きがあるときにハンドセットが落下しにくくなります。（☞ P. 3-17「ハンドセットフックの向きの変えかた」）

③ ハンドセット
ハンドセット通話やマイク放送時に使用します。

④ ダイレクトキー
各キーを押すと、そのキーに割り当てられている機能が実行されます。各キーへの機能の割り当ては、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

⑤ スピーカー
放送・通話用のスピーカーです。受信した放送の拡声、信号音の再生、ハンズフリー通話に使用します。

⑥ 液晶画面
16 桁 × 2 行の表示で、操作ダイヤルや通話相手の番号などを表示します。

⑦ 作動表示灯［RUN］（緑）
本機が正常に動作しているか、示します。
（☞ 別冊の操作説明書「作動表示灯の状態」）

⑧ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）
本機のイベント状態を表示します。
（☞ 別冊の操作説明書「状態表示灯の状態」）

⑨ 放送キー
放送をするときに使用します。

⑩ 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。
（☞ 別冊の操作説明書「保留」）

⑪ 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。
（☞ 別冊の操作説明書「転送」）

⑫ 機能 1 キー
転送先の設定や、ドアリモートの操作時に使用します。

⑬ 機能 2 キー
液晶画面⑥にメニューを表示するときに使用します。

⑭ 矢印キー
システム設定（☞ 別冊の操作説明書「CX-OP1500 のメニュー画面」）をするときに使用します。

⑮ PTT キー
ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。
着信中に押すことで、通話を開始します。
（☞ 別冊の操作説明書「通話機能と操作のしかた」）

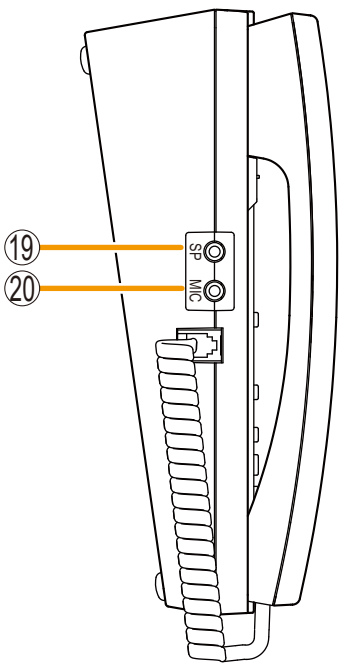
⑯ キャンセルキー
操作の取り消しや終話などに使用します。

⑰ マイク
ハンズフリー通話やマイク放送時に使用します。

ご注意
マイクをふさがないでください。通話品質に支障を来す可能性があります。

⑱ ダイヤルキー
通話相手の呼び出しや機能の設定などに使用します。

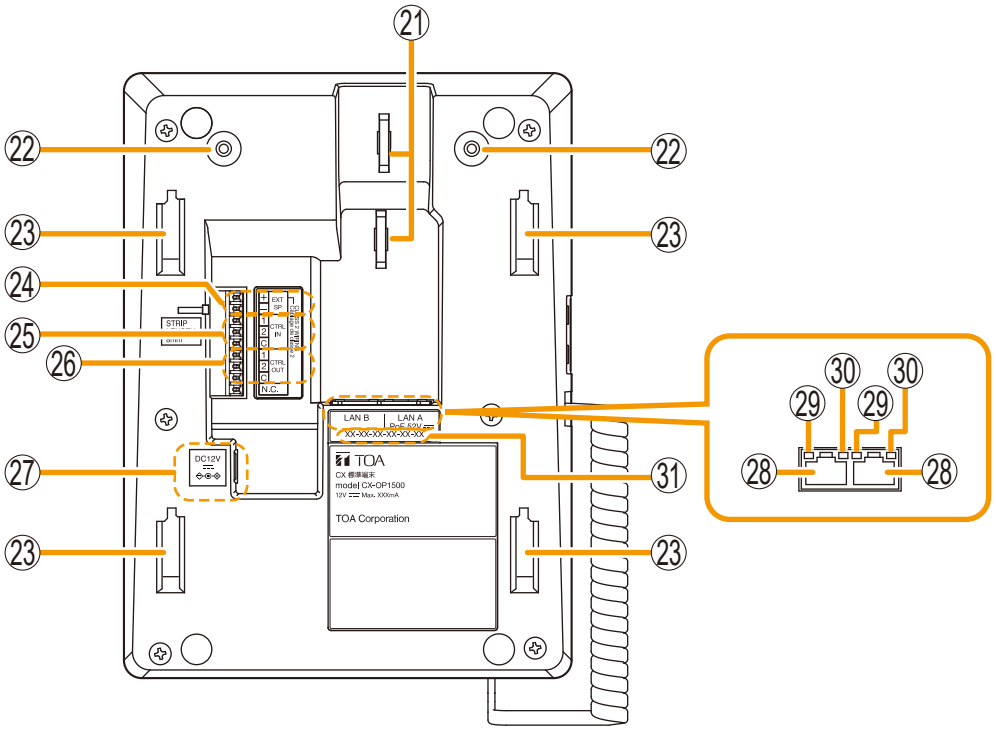
[左側面]



⑲ ヘッドセット用スピーカー接続端子［SP］
3.5 mm のヘッドセットスピーカー端子を接続できます。

⑳ ヘッドセット用マイク接続端子［MIC］
3.5 mm のヘッドセットマイク端子を接続できます。

[底面]



㉑ 配線固定用穴

配線をバインドするときに使用します。
（☞ P. 3-16「配線のしかた」、P. 3-19「[露出配線するとき]」）

㉒ スタンド取付部

付属のスタンドを固定することに使用します。
スタンドを底面に取り付けることで、本機の角度を調節することができます。
（☞ P. 3-16「スタンドの取り付けかた」）

㉓ 壁掛金具取付穴

別売の壁掛金具 YC-1001 を使用するとき、金具のフックをここに挿入します。
（☞ P. 3-18「壁への取り付けかた」）

㉔ 外部スピーカー出力端子［EXT SP］

プッシュ式ターミナル*
外部スピーカー（8 Ω、2 W 以上）を接続できます。
（☞ P. 3-38「CX-OP1500 の接続」）

㉕ 制御入力端子［CTRL IN 1/2］

プッシュ式ターミナル*
無電圧メイク接点入力
開放電圧：DC12 V
短絡電流：5 mA
スイッチ、センサーなどの外部機器に接続できます。

㉖ 制御出力端子［CTRL OUT 1/2］

プッシュ式ターミナル*
オープンコレクター出力（極性あり）
耐電圧　：DC30 V
許容電流：100 mA
表示器などの外部機器に接続できます。

㉗ AC アダプター接続端子

別売の AC アダプター AD-1215P を接続します。

㉘ ネットワーク接続端子［LAN A/B］

イーサネット RJ45 ジャック
100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
LAN A のみ PoE 給電に対応しており、LAN A を PoE（Power over Ethernet）に対応したスイッチングハブに接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。

㉙ LINK/ACT 表示灯（緑）

データの送受信時に点滅します。

㉚ SPEED 表示灯（緑）

100BASE-TX で接続しているときに点灯します。

* プッシュ式ターミナルの接続のしかたについては、P. 3-31 をお読みください。

㉛ MAC アドレス

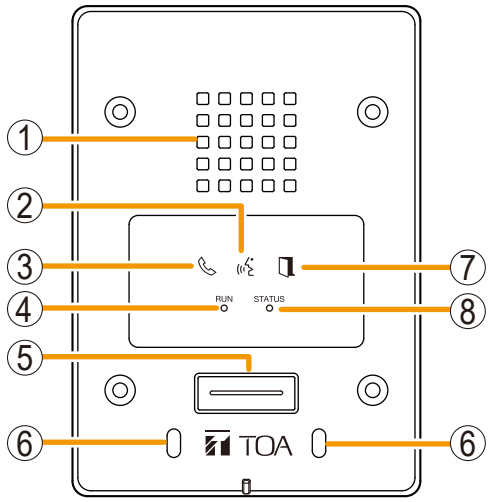
本機の MAC アドレスです。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

[機器の表示についての説明]

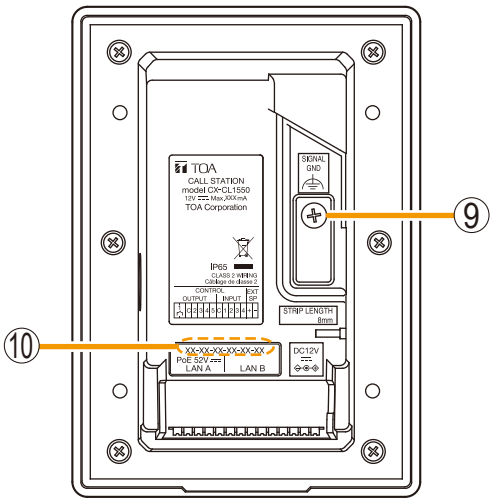
機器の表示	表示位置	説明
	底面	AC アダプター入力端子の極性を示します。 センターピンがプラス、外側がマイナスです。
⎓	底面	DC 電源を示します。

ドア端末 CX-CL1550

[前面]



[後面]



① スピーカー

放送・通話用のスピーカーです。受信した放送の拡声、信号音の再生、ハンズフリー通話に使用します。

② 通話表示灯（緑）

通話しているときに点灯します。
（☞ 別冊の操作説明書「アイコン一覧」）

③ 呼出表示灯（黄）

呼び出しているときに点灯します。
（☞ 別冊の操作説明書「アイコン一覧」）
あらかじめ端末番号を設定し、ダイレクトキーに呼び出し先を登録しておいてください。

④ 作動表示灯［RUN］（緑）

本機が正常に動作しているか、示します。
（☞ 別冊の操作説明書「作動表示灯の状態」）

⑤ ダイレクトキー

このキーを押すと、キーに割り当てられている機能が実行されます。キーへの機能の割り当ては、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）
このキーは、設定により照光させることができます。設定は CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「照明の設定」）

⑥ マイク

ハンズフリー通話に使用します。

ご注意

マイクをふさがないでください。通話品質に支障を来す可能性があります。

⑦ 解錠表示灯（緑）

ドアが解錠されたときに点灯します。
（☞ 別冊の操作説明書「アイコン一覧」）

⑧ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）

本機のイベント状態を表示します。
（☞ 別冊の操作説明書「状態表示灯の状態」）

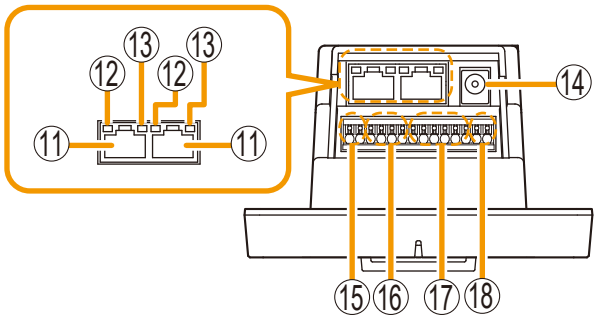
⑨ 機能アース端子［SIGNAL GND］

必ず接地してください。
※ 安全アースではありません。

⑩ MAC アドレス

本機の MAC アドレスです。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

[底面]



⑪ ネットワーク接続端子［LAN A/B］

イーサネット RJ45 ジャック
100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
LAN A のみ PoE 給電に対応しており、LAN A を PoE（Power over Ethernet）に対応したスイッチングハブに接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。

⑫ LINK/ACT 表示灯（緑）

データの送受信時に点滅します。

⑬ SPEED 表示灯（緑）

100BASE-TX で接続しているときに点灯します。

⑭ AC アダプター接続端子

別売の AC アダプター AD-1215P を接続します。

⑮ 制御出力端子 1［CONTROL OUTPUT 1］

プッシュ式ターミナル*
リレー接点出力
耐電圧　：DC30 V
許容電流：1 A
電気錠などの外部機器に接続できます。

⑯ 制御出力端子 2 ～ 5［CONTROL OUTPUT 2 ～ 5］

プッシュ式ターミナル*
オープンコレクター出力（極性あり）
耐電圧　：DC30 V
許容電流：100 mA
表示器などの外部機器に接続できます。

⑰ 制御入力端子［CONTROL INPUT 1 ～ 4］

プッシュ式ターミナル*
無電圧メイク接点入力
開放電圧：DC12 V
短絡電流：5 mA
スイッチ、センサーなどの外部機器に接続できます。

⑱ 外部スピーカー出力端子［EXT SP］

プッシュ式ターミナル*
外部スピーカー（8 Ω、2 W 以上）を接続できます。
（☞ P. 3-36「CX-CL1750/CL1550 の接続」）

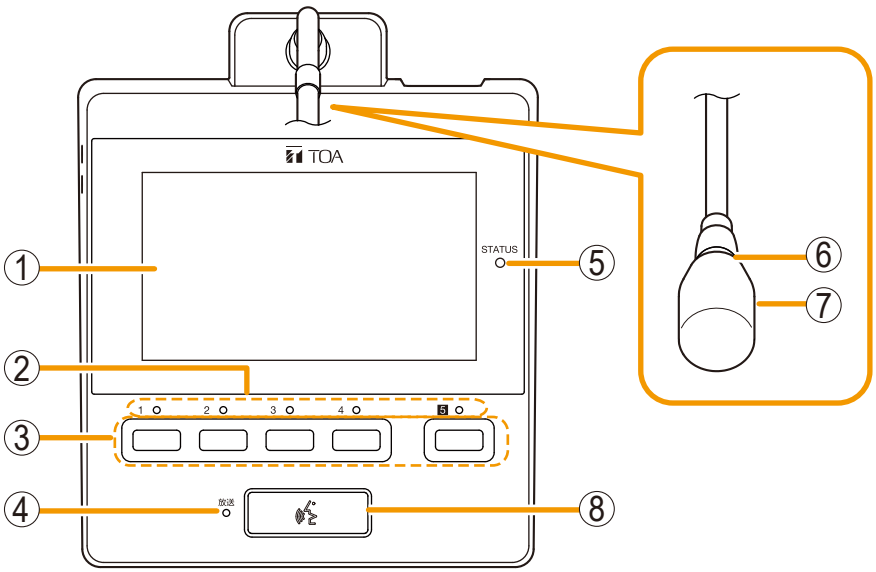
* プッシュ式ターミナルの接続のしかたについては、P. 3-31 をお読みください。

[機器の表示についての説明]

機器の表示	表示位置	説明
	前面	通話の呼び出し状態を示します。
	前面	通話中の状態を示します。
	前面	ドアの解錠状態を示します。
	後面	機能アース端子を示します。 **ご注意** 安全アースではありません。
	後面	AC アダプター入力端子の極性を示します。 センターピンがプラス、外側がマイナスです。
⎓	後面	DC 電源を示します。
	後面	リサイクルへの協力要請を示します。本機を一般の廃棄物と一緒に処理しないでください。

タッチパネルリモコン CX-RM1700

[操作面]



① 液晶画面

タッチ操作に対応した液晶画面です。
文字、画像、動画、および機器の状態を表示し、タッチ入力で各種イベントを操作します。

② 選択表示灯［1 ～ 5］（緑）

ダイレクトキーの操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。
（☞ 別冊の操作説明書「ダイレクトキーと放送キーの表示灯の状態」）

③ ダイレクトキー［1 ～ 5］

各キーを押すと、そのキーに割り当てられている機能が実行されます。
各キーへの機能の割り当ては、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

ご注意

これらのダイレクトキー 1 ～ 5 は、CX-1000 設定ソフトウェア上でのキー種別「ダイレクトキー 101 ～ 105」に対応します。

④ 放送表示灯［放送］（緑）

放送キーの操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。
（☞ 別冊の操作説明書「放送キーの表示灯」）

⑤ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）

本機のイベント状態を表示します。
（☞ 別冊の操作説明書「状態表示灯の状態」）

⑥ マイク表示灯（緑）

設定により、放送表示灯④と連動させることができます。
設定は本機の液晶画面で行います。（☞ 別冊の操作説明書「音量制御設定画面（CX-RM1700 のみ）」

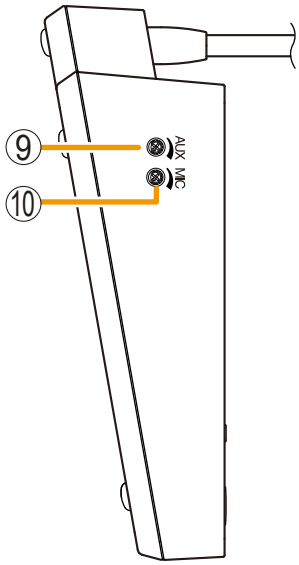
⑦ マイク

マイク放送時に使用します。
マイクの音量は、マイク音量調節器⑩で調節できます。

⑧ 放送キー

マイク放送時に使用します。
PTT 式に設定されているときは、キーを押している間のみ放送することができます。
ロック式に設定されているときは、押すと放送が開始され、もう一度押すと放送が終了します。
放送キーの動作の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）

[左側面]



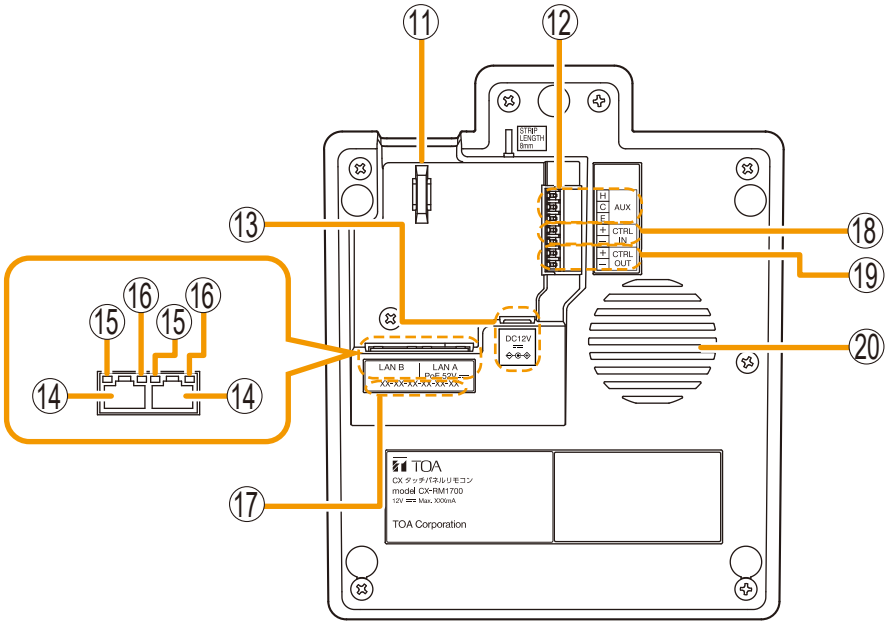
⑨ AUX 音量調節器［AUX］

AUX 入力⑫の音量を調節します。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。液晶画面①のメニュー画面で入力レベルを設定できます。
（☞ 別冊の操作説明書「CX-OP1700/RM1700 のメニュー画面」）

⑩ マイク音量調節器［MIC］

マイク⑦の音量を調節します。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

[底面]



⑪ 配線固定用穴

配線をバインドするときに使用します。

⑫ AUX 入力端子［AUX］

プッシュ式ターミナル* 1
ラインレベル入力設定時：–20 dB * 2
マイクレベル入力設定時：–60 dB * 2
600 Ω、トランス平衡
入力レベルは、液晶画面①のメニュー画面で設定します。
（工場出荷時：ラインレベル）
外部音源機器、外部マイクなどを接続します。

⑬ AC アダプター接続端子

別売の AC アダプター AD-1215P を接続します。

⑭ ネットワーク接続端子［LAN A/B］

イーサネット RJ45 ジャック
100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
LAN A のみ PoE 給電に対応しており、LAN A を PoE（Power over Ethernet）に対応したスイッチングハブに接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。

⑮ LINK/ACT 表示灯（緑）

データの送受信時に点滅します。

⑯ SPEED 表示灯（緑）

100BASE-TX で接続しているときに点灯します。

⑰ MAC アドレス

本機の MAC アドレスです。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

⑱ 制御入力端子［CTRL IN］

プッシュ式ターミナル*1
無電圧メイク接点入力
開放電圧：DC12 V
短絡電流：5 mA
スイッチ、センサーなどの外部機器に接続できます。

⑲ 制御出力端子［CTRL OUT］

プッシュ式ターミナル*1
オープンコレクター出力（極性あり）
耐電圧　：DC30 V
許容電流：100 mA
表示器などの外部機器に接続できます。

⑳ スピーカー

ボイススタック使用時の録音音声、キー操作音、故障発生時のブザーを鳴動します。

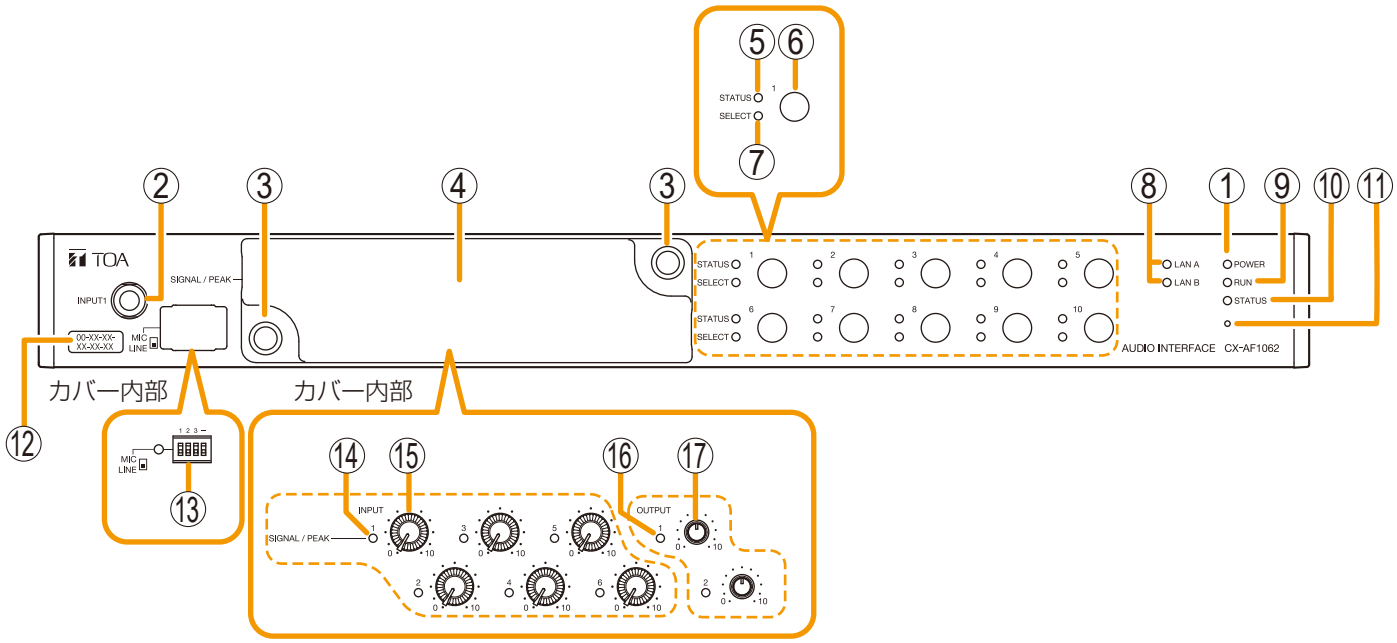
*1 プッシュ式ターミナルの接続のしかたについては、P. 3-31 をお読みください。
*2 0 dB = 1 V

［機器の表示についての説明］

機器の表示	表示位置	説明
	操作面	マイクによる放送を行うことを意味します。
	左側面	音量調節器：ドライバーで時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。
	底面	AC アダプター入力端子の極性を示します。 センターピンがプラス、外側がマイナスです。
⎓	底面	DC 電源を示します。

音声インターフェース 6 入力 2 出力 CX-AF1062

[前面]



① 電源表示灯［POWER］（緑）
電源を入れると点灯します。

② 音声入力端子 1［INPUT 1］
マイクのホーンプラグを差し込みます。
この音声入力 1 は、後面部の同じ音声入力 1 ㉗に対して優先の機能を持っています。この端子にホーンプラグを差し込むことにより、後面の音声入力端子㉗の音声入力 1 が切れます。

③ 音量調節部カバーつまみ
両方のつまみを引くと、音量調節部カバー④が取り外せます。

④ 音量調節部カバー
このカバー内部に各入出力の音量調節器があります。

⑤ 状態表示灯［STATUS 1 ～ 10］（緑、赤、黄）
ダイレクトキー⑥に割り当てられた機能の状態に連動して、点灯、点滅、または消灯します。
（☞ 別冊の操作説明書「ダイレクトキーと放送キーの表示灯の状態」）

⑥ ダイレクトキー［1 ～ 10］
各キーを押すと、そのキーに割り当てられている機能が実行されます。
各キーへの機能の割り当ては、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

⑦ 選択表示灯［SELECT 1 ～ 10］（緑）
ダイレクトキー⑥の操作状態に連動して、点灯または消灯します。
（☞ 別冊の操作説明書「ダイレクトキーと放送キーの表示灯の状態」）

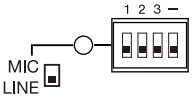
⑧ LAN A/B 表示灯［LAN A/B］（緑）
本機をネットワークに接続すると点灯し、データを送受信中は点滅します。

⑨ 作動表示灯［RUN］（緑）
本機が正常に動作しているか、示します。
（☞ 別冊の操作説明書「作動表示灯の状態」）

⑩ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）
本機のイベント状態を表示します。
（☞ 別冊の操作説明書「状態表示灯の状態」）

⑪ リセットキー
このキーを押すと、本機は再起動します。

⑫ MAC アドレス
本機の MAC アドレスです。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

⑬ 入力レベル設定スイッチ


音声入力 1 ～ 3 の入力レベルをラインレベル（0 dB *）かマイクレベル（–60 dB *）に切り換えることができます。
スイッチ 4 は使用しません。
（工場出荷時：すべて下側）

ご注意

カバーを取り外すとき、強く引っ張らないでください。
カバーが本体から抜け落ちたり、破損する恐れがあります。

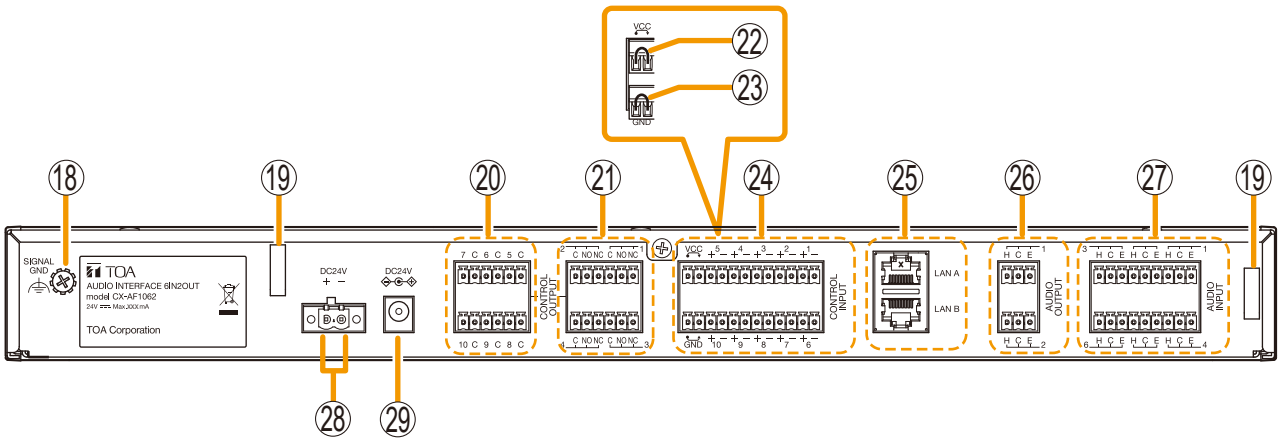
⑭ 音声入力信号表示灯［INPUT 1 ～ 6、SIGNAL/PEAK］（緑、赤）
音声入力用音量調節器⑮に設定されている入力の状態を表示します。
入力チャンネルに音声が入力されると緑色に点灯し、音声入力が過入力になると赤色に点灯します。

⑮ 音声入力用音量調節器［INPUT 1 ～ 6］
各音声入力の音量調節器です。左から音声入力 1 ～音声入力 6 の順に配置されています。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

⑯ 音声出力信号表示灯［OUTPUT 1/2］（緑、赤）
音声出力用音量調節器⑰に設定されている出力の状態を表示します。
出力チャンネルから音声が出力されると緑色に点灯し、音声出力が定格レベルを超えると赤色に点灯します。

⑰ 音声出力用音量調節器［OUTPUT 1/2］
各音声出力の音量調節器です。左から音声出力 1、音声出力 2 の順に配置されています。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

* 0 dB = 1 V

［後面］


⑱ 機能アース端子［SIGNAL GND］
必ず接地してください。
※ 安全アースではありません。

⑲ コードクランプ
コードを固定するときに使用します。コードをコードクランプに挟み込み、固定してください。
（☞ P. 3-42「CX-AF1062 の接続」）

⑳ 制御出力端子［CONTROL OUTPUT 5 ～ 10］

着脱式ターミナルブロック*1
オープンコレクター出力（極性あり）
耐電圧　：DC30 V
許容電流：100 mA
表示器などの外部機器に接続できます。

㉑ 制御出力端子[CONTROL OUTPUT 1 ～4]

着脱式ターミナルブロック*1
リレー接点出力（c 接点）
耐電圧　：DC30 V
許容電流：1 A
電気錠などの外部機器に接続できます。

㉒ 給電ジャンパー

工場出荷時は着脱式ターミナルプラグにジャンパーが装着されています。
（☞ P. 3-42「CX-AF1062 の接続」）

㉓ 絶縁ジャンパー

工場出荷時は着脱式ターミナルプラグにジャンパーが装着されています。
（☞ P. 3-42「CX-AF1062 の接続」）

㉔ 制御入力端子 [CONTROL INPUT 1 ～ 10]

着脱式ターミナルブロック*1
無電圧メイク接点入力
開放電圧：DC24 V
短絡電流：5 mA
演奏機器などの制御出力を接続して、業務放送を行うときに使用します。

ご注意

制御入力端子 1 ～ 10 の－側端子は、相互に接続されています。

㉕ ネットワーク接続端子［LAN A/B］

イーサネット RJ45 ジャック
100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。

㉖ 音声出力端子［AUDIO OUTPUT 1/2］

着脱式ターミナルブロック*1
音声信号は、最大 0 dB*2、10 kΩ以下、平衡型です。
録音機器やアンプなどの外部機器を接続できます。

㉗ 音声入力端子［AUDIO INPUT 1 ～ 6］

着脱式ターミナルブロック*1
音声入力 1 ～ 3 ： –60/0 dB*2 切り換え、600 Ω、トランス平衡
音声入力 4 ～ 6 ： 0 dB*2、10 kΩ、電子平衡
マイク、音源機器などを接続します。
音声入力 1 ～ 3 は、入力レベル設定スイッチ⑬で、ライン入力またはマイク入力が選択できます。

㉘ DC 電源入力端子［DC24V］

着脱式ターミナルブロック*1
電源は 24 V を使用します。

㉙ AC アダプター接続端子［DC24V］

別売の AC アダプター AD-246 を接続します。

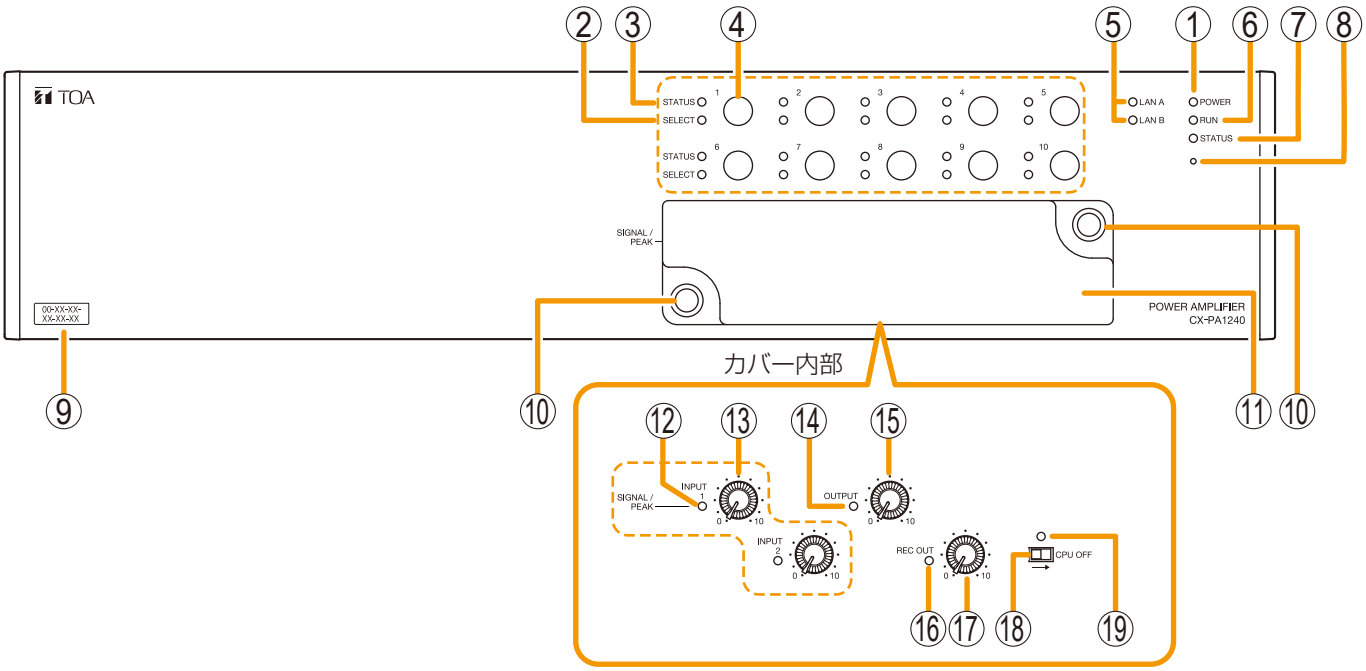
*1　付属の着脱式ターミナルプラグを使用して接続します。
着脱式ターミナルプラグの接続のしかたについては、P. 3-29 をお読みください。
*2　0 dB = 1 V

［機器の表示についての説明］

機器の表示	表示位置	説明
	後面	機能アース端子を示します。 **ご注意** 安全アースではありません。
	後面	AC アダプター入力端子の極性を示します。 センターピンがプラス、外側がマイナスです。
	後面	DC 電源を示します。
	後面	リサイクルへの協力要請を示します。本機を一般の廃棄物と一緒に処理しないでください。

アンプ 120/240W 10 回線 CX-PA1120/PA1240

[前面]



※ 図は CX-PA1240 です。

① 電源表示灯［POWER］（緑）
電源を入れると点灯します。

② 選択表示灯［SELECT］（緑）
ダイレクトキー④の操作状態に連動して、点灯または消灯します。
（☞ 別冊の操作説明書「ダイレクトキーと放送キーの表示灯の状態」）

③ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）
ダイレクトキー④に割り当てられた機能の状態に連動して、点灯、点滅、または消灯します。
（☞ 別冊の操作説明書「ダイレクトキーと放送キーの表示灯の状態」）

④ ダイレクトキー［1 ～ 10］
各キーを押すと、そのキーに割り当てられている機能が実行されます。
各キーへの機能の割り当ては、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

⑤ LAN A/B 表示灯［LAN A/B］（緑）
本機をネットワークに接続すると点灯し、データを送受信中は点滅します。

⑥ 作動表示灯［RUN］（緑）
本機が正常に動作しているか、示します。
（☞ 別冊の操作説明書「作動表示灯の状態」）

⑦ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）
本機のイベント状態を表示します。
（☞ 別冊の操作説明書「状態表示灯の状態」）

⑧ リセットキー
このキーを押すと、本機は再起動します。

⑨ MAC アドレス
本機の MAC アドレスです。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

⑩ 音量調節部カバーつまみ
両方のつまみを引くと、音量調節部カバー⑪が取り外せます。

⑪ 音量調節部カバー
このカバー内部に各入出力の音量調節器があります。

⑫ 音声入力信号表示灯［INPUT 1/2、SIGNAL/PEAK］（緑、赤）

音声入力用音量調節器⑬に設定されている入力の状態を表示します。
入力チャンネルに音声が入力されると緑色に点灯し、音声入力が過入力になると赤色に点灯します。

⑬ 音声入力用音量調節器［INPUT 1/2］

各音声入力の音量調節器です。左から音声入力 1、音声入力 2 の順に配置されています。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

⑭ スピーカー出力信号表示灯［OUTPUT］（緑、赤）

スピーカー出力用音量調節器⑮に設定されているスピーカー出力の状態を表示します。
スピーカー出力から音声が出力されると緑色に点灯し、音声出力が定格レベルを超えると赤色に点灯します。

⑮ スピーカー出力用音量調節器［OUTPUT］

スピーカー音声出力の音量調節器です。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

⑯ 録音出力信号表示灯［REC OUT］（緑、赤）

録音出力用音量調節器⑰に設定されている録音出力の状態を表示します。
録音出力から音声が出力されると緑色に点灯し、音声出力が定格レベルを超えると赤色に点灯します。

⑰ 録音出力用音量調節器［REC OUT］

録音出力用の音量調節器です。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

⑱ CPU OFF 切換スイッチ［CPU OFF］

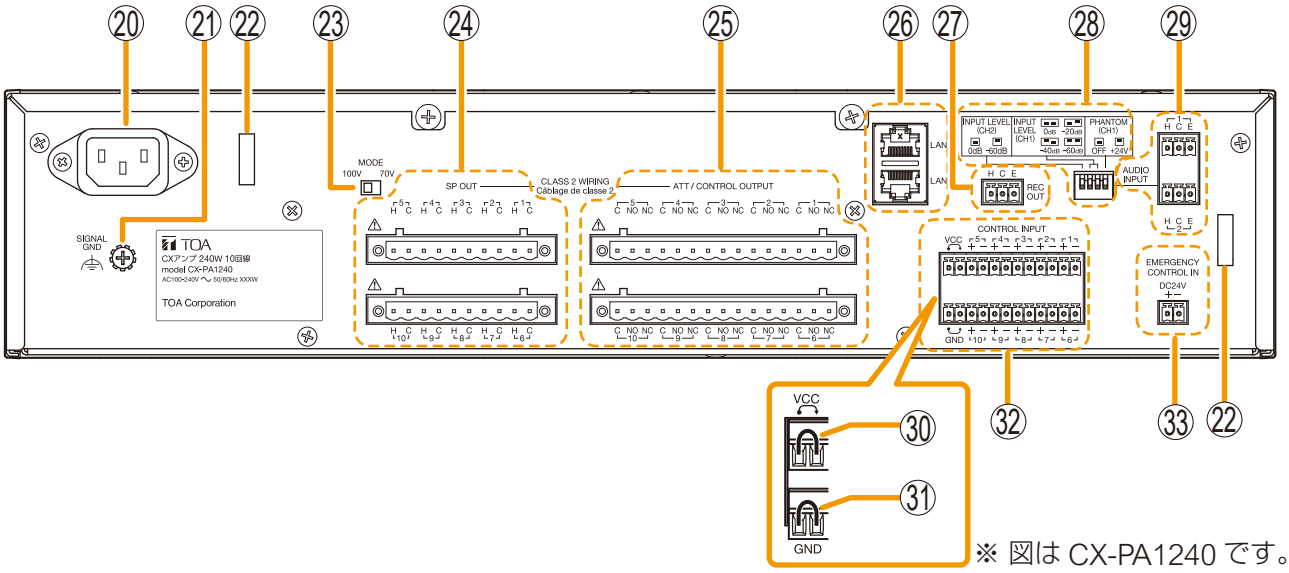
通常は下図のとおり、工場出荷時の設定で使用します。

このスイッチを矢印方向にスライドさせて CPU OFF 側に設定すると、CPU 制御を介さないアナログ制御で、音声入力端子㉙の音声入力 1 に接続された音源を使った一斉放送を行うことができます。
（☞ 別冊の操作説明書「CPU OFF 切換スイッチを使用した一斉放送」）

⑲ CPU OFF 表示灯（赤）

CPU OFF 切換スイッチ⑱を CPU OFF 側に設定しているときに、点灯します。

[後面]



※ 図は CX-PA1240 です。

⑳ AC インレット

付属の電源コードを接続します。

⚠ 警告

電源コードは付属品をお使いください。
付属品以外を使用すると、感電の原因となります。

ご注意

誘雷の恐れのある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

㉑ 機能アース端子［SIGNAL GND］

必ず接地してください。
※ 安全アースではありません。

㉒ コードクランプ

コードを固定するときに使用します。コードをコードクランプに挟み込み、固定してください。
（☞ P. 3-45「CX-PA1120/PA1240 の接続」）

㉓ 出力電圧切換スイッチ［MODE、100V/70V］

スピーカーの出力電圧を 100 V または 70 V に切り換えます。

ご注意

- このスイッチの切り換えは、電源オフにした状態で行ってください。電源オンの状態では切り換えできません。
- 電源オンの状態でスイッチを操作した場合、即時に設定は切り換わりませんが、その後電源をオフにし、再び電源をオンにすると設定が切り換わります。

㉔ スピーカー出力端子［SP OUT 1 ～ 10］

着脱式ターミナルブロック*1
ハイインピーダンス 100 系の場合
CX-PA1120：全回線合計で最大 120 W
CX-PA1240：全回線合計で最大 240 W
スピーカーを接続します。

㉕ アッテネーター／制御出力端子［ATT/CONTROL OUTPUT 1 ～ 10］

着脱式ターミナルブロック*1
リレー接点出力（c 接点）
許容電流：4 A
耐電圧　：AC125 V/DC24 V
この端子を使用すると、CX-1000 システムに接続された他の外部機器を制御できます。
あるいは、設定によりアッテネーター制御出力としても使用できます。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「音声出力の設定」）

㉖ ネットワーク接続端子［LAN A/B］

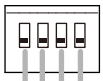
イーサネット RJ45 ジャック
100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。

㉗ 録音出力端子［REC OUT］

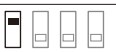
着脱式ターミナルブロック*1
音声信号は、最大 0 dB *2、10 kΩ、平衡型です。
録音機器やアンプなどの外部機器を接続できます。

㉘ 入力設定スイッチ［PHANTOM（CH1）、INPUT LEVEL（CH1）、INPUT LEVEL（CH2）］

音声入力 1、2 ㉙の入力レベルを切り換えます。
音声入力 1 のみ、ファンタム電源のオン／オフを設定します。



音声入力 1 のファンタム電源設定
音声入力 1 の入力レベル設定
音声入力 2 の入力レベル設定

音声入力	スイッチの設定	設定内容
音声入力 1		ファンタム電源オフ
		ファンタム電源オン
		入力レベル 0 dB *2
		入力レベル –20 dB *2
		入力レベル –40 dB *2
		入力レベル –60 dB *2
音声入力 2		入力レベル 0 dB *2
		入力レベル –60 dB *2

（工場出荷時の設定：すべて下側）

メ モ

ファンタム電源は DC24 V です。

㉙ 音声入力端子［AUDIO INPUT 1/2］

音声入力 1 ： –60/–40/–20/0 dB *2 切り換え、10 kΩ、電子平衡
音声入力 2 ： –60/0 dB *2 切り換え、10 kΩ、電子平衡

マイク、音源機器などを接続します。
入力設定スイッチ㉘により入力レベルが選択できます。
音声入力 1 は、ファンタム電源を供給する設定ができます。ANC センサーマイクの接続はこの端子を使用してください。
また、音声入力 1 の放送先パターンは自機の音声出力のみ設定できます。

㉚ 給電ジャンパー

工場出荷時は着脱式ターミナルプラグにジャンパーが装着されています。
（☞ P. 3-45「CX-PA1120/PA1240 の接続」）

㉛ 絶縁ジャンパー

工場出荷時は着脱式ターミナルプラグにジャンパーが装着されています。
（☞ P. 3-45「CX-PA1120/PA1240 の接続」）

㉜ 制御入力端子［CONTROL IN 1 ～ 10］

着脱式ターミナルブロック*1
無電圧メイク接点入力
開放電圧：DC24 V
短絡電流：5 mA
演奏機器などの制御出力を接続して、業務放送を行うときに使用します。

ご注意

制御入力端子 1 ～ 10 のー側端子は、相互に接続されています。

㉝ 非常断 24 V 入力端子［EMERGENCY CONTROL IN］

非常用放送設備の非常断 24 V 出力端子と接続します。
非常放送が起動し、DC24 V の供給が停止されたときに、本機のスピーカー端子㉔および録音出力端子㉗の音量を – ∞ dB *2 に減衰させることができます。

メ モ

この端子を使用するかどうかは CX-1000 設定ソフトウェアで設定できます。

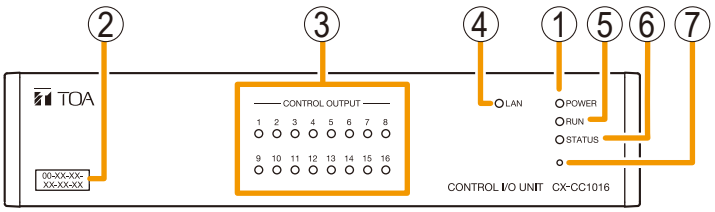
*1　付属の着脱式ターミナルプラグを使用して接続します。
着脱式ターミナルプラグの接続のしかたについては、P. 3-29 をお読みください。
*2　0 dB = 1 V

［機器の表示についての説明］

機器の表示	表示位置	説明
⏚	後面	機能アース端子を示します。 **ご注意** 安全アースではありません。
⚠	後面	記号 ⚠ がついている端子には高電圧がかかっていますので、触れると感電の原因となります。
～	後面	AC 電源を示します。

制御入出力ユニット CX-CC1016

[前面]



① 電源表示灯［POWER］（緑）

電源を入れると点灯します。

② MAC アドレス

本機の MAC アドレスです。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

③ 制御出力表示灯［CONTROL OUTPUT 1 ～ 16］（緑）

制御出力がオンのときに点灯します。

④ LAN 表示灯［LAN］（緑）

本機をネットワークに接続すると点灯し、データを送受信中は点滅します。

⑤ 作動表示灯［RUN］（緑）

本機が正常に動作しているか、示します。
（☞ 別冊の操作説明書「作動表示灯の状態」）

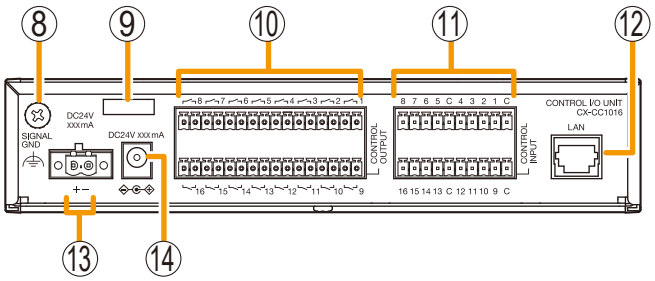
⑥ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）

本機のイベント状態を表示します。
（☞ 別冊の操作説明書「状態表示灯の状態」）

⑦ リセットキー

このキーを押すと、本機は再起動します。

[後面]



⑧ 機能アース端子［SIGNAL GND］

必ず接地してください。
※ 安全アースではありません。

⑨ コードクランプ

コードを固定するときに使用します。コードをコードクランプに挟み込み、固定してください。
（☞ P. 3-51「CX-CC1016 の接続」）

⑩ 制御出力端子［CONTROL OUTPUT 1 ～ 16］

着脱式ターミナルブロック*
リレー接点出力
耐電圧　：DC 30 V
許容電流：1 A
外部機器を制御するための出力端子です。
外部機器や外部システムと連携するときに使用します。

⑪制御入力端子［CONTROL INPUT 1 ～ 16］

着脱式ターミナルブロック*
無電圧メイク接点入力
開放電圧：DC24 V
短絡電流：5 mA
演奏機器などの制御出力を接続して、業務放送を行うときに使用します。

ご注意

制御入力端子 1 ～ 16 の C 端子 4 カ所は、相互に接続されています。

⑫ネットワーク接続端子［LAN］

イーサネット RJ45 ジャック
100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。

⑬DC 電源入力端子［DC24V］

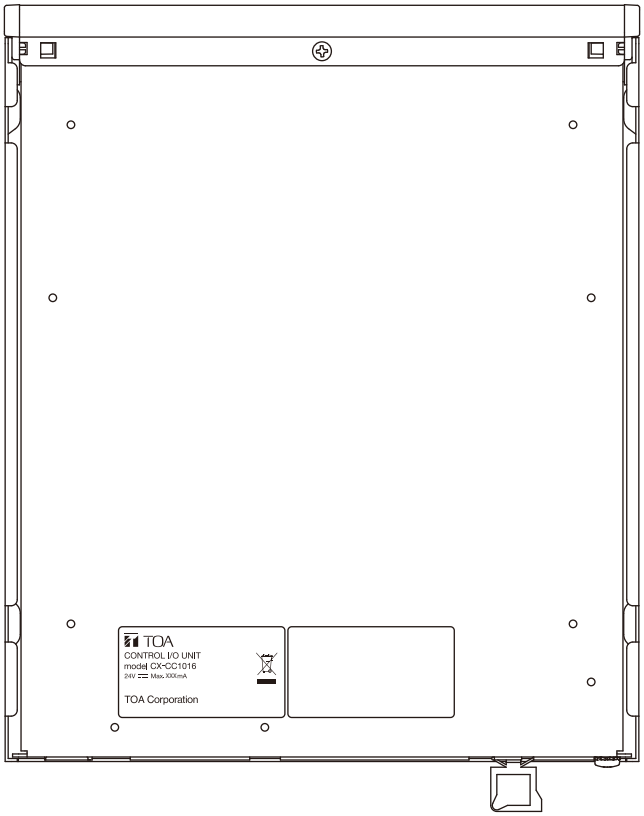
着脱式ターミナルブロック*
電源は 24 V を使用します。

⑭AC アダプター接続端子［DC24V］

別売の AC アダプター AD-246 を接続します。

* 付属の着脱式ターミナルプラグを使用して接続します。
着脱式ターミナルプラグの接続のしかたについては、P. 3-29 をお読みください。

［底面］



［機器の表示についての説明］

機器の表示	表示位置	説明
	後面	機能アース端子を示します。 **ご注意** 安全アースではありません。
	後面	AC アダプター入力端子の極性を示します。 センターピンがプラス、外側がマイナスです。
⎓	底面	DC 電源を示します。
	底面	リサイクルへの協力要請を示します。本機を一般の廃棄物と一緒に処理しないでください。

第３章

設置と接続のしかた

キャビネットラックに取り付けるとき

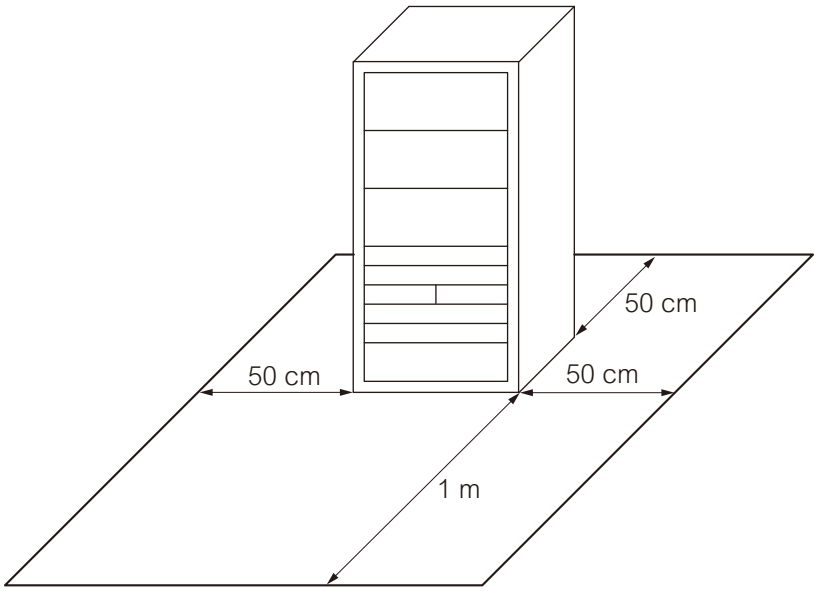
■ 使用可能なキャビネットラック

CX-1000 シリーズのキャビネットラックとして CR-273、CR-413 が使用できます。キャビネットラック CR-273、CR-413 の組み立ては、ラックに付属の工事説明書をお読みください。

※ 機器をキャビネットラックに取り付けるときは、キャビネットラックを横に倒した状態で行うと安全に作業ができます。

■ 設置スペース

キャビネットラックの周囲は、保守点検のために必要なスペースを確保してください。



CX-SM1000 の設置

システムマネージャー CX-SM1000 の設置方法には、キャビネットラックへの取り付け、卓上設置、壁への取り付けの 3 種類があります。

■ キャビネットラックへの取り付けかた

⚠注意　ラックマウント金具に付属のねじは当社のラック専用です。
他のラックには使用しないでください。

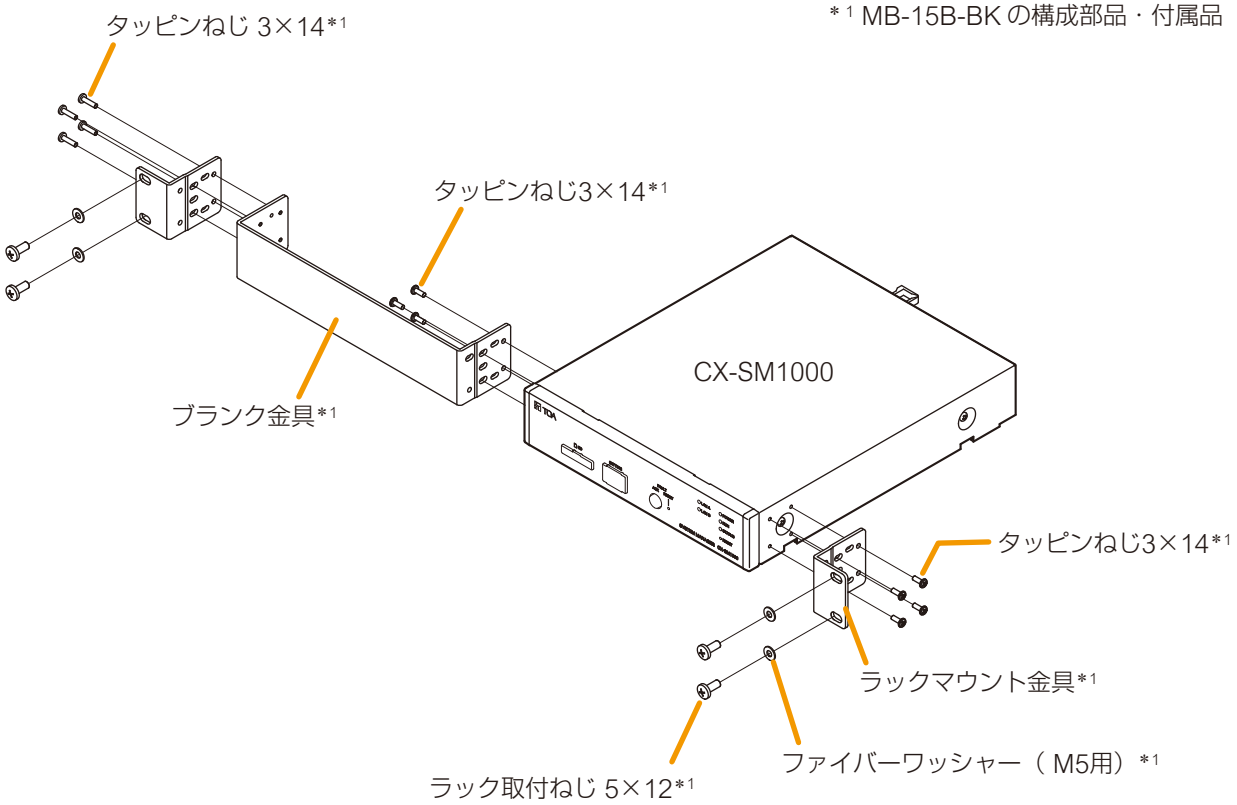
ご注意

ラックに取り付けるときは別売の金具セットを使用してください。

● ラックに 1 台取り付けるとき

別売のラックマウント金具セット MB-15B-BK を使用します。

*1 MB-15B-BK の構成部品・付属品



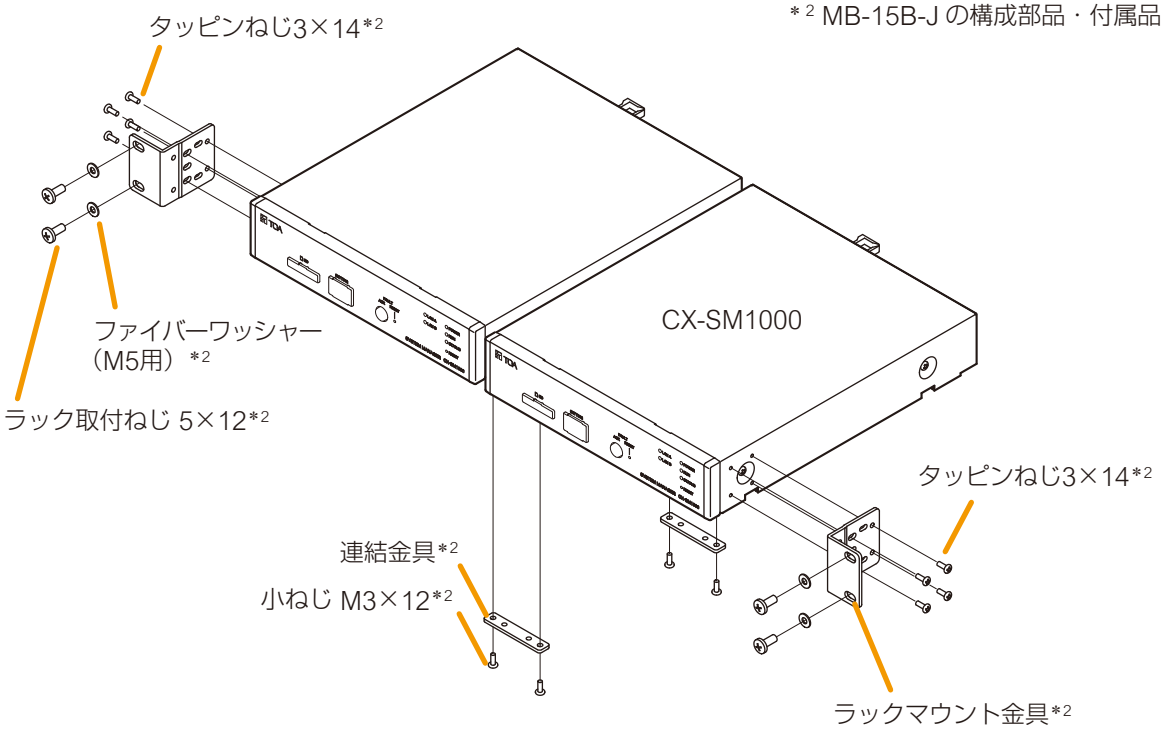
● ラックに 2 台取り付けるとき

別売のラック連結金具セット MB-15B-J を使用します。

ご注意

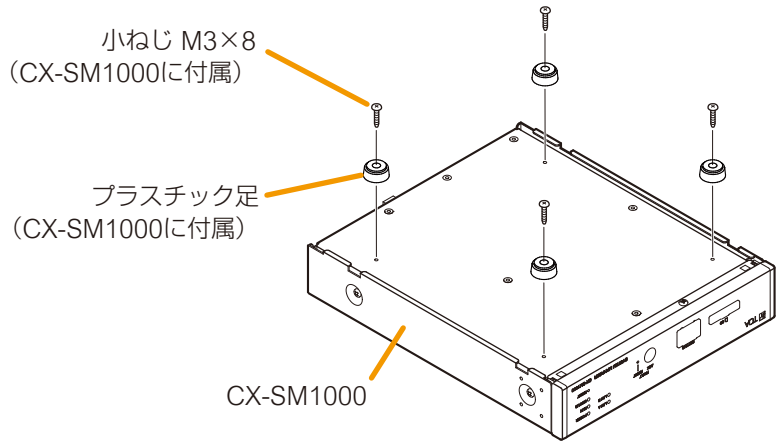
ラックへの取り付け時は、ゆっくり差し込んでください。
そうしないと、本機の下に取り付けた機器の上面に、小ねじの跡が付くことがあります。

*2 MB-15B-J の構成部品・付属品



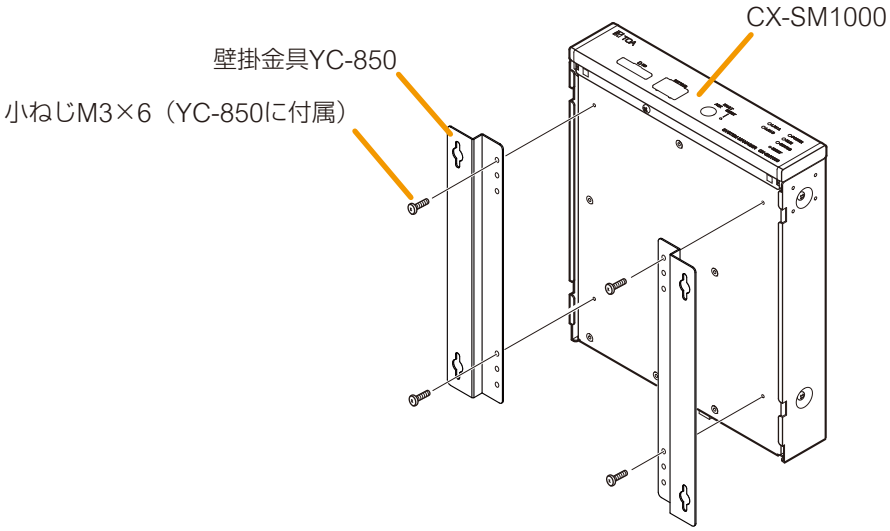
■ 卓上に置くとき

卓上に置いて使用するときは、付属のプラスチック足を CX-SM1000 の底面に取り付けてください。



■ 壁に取り付けるとき

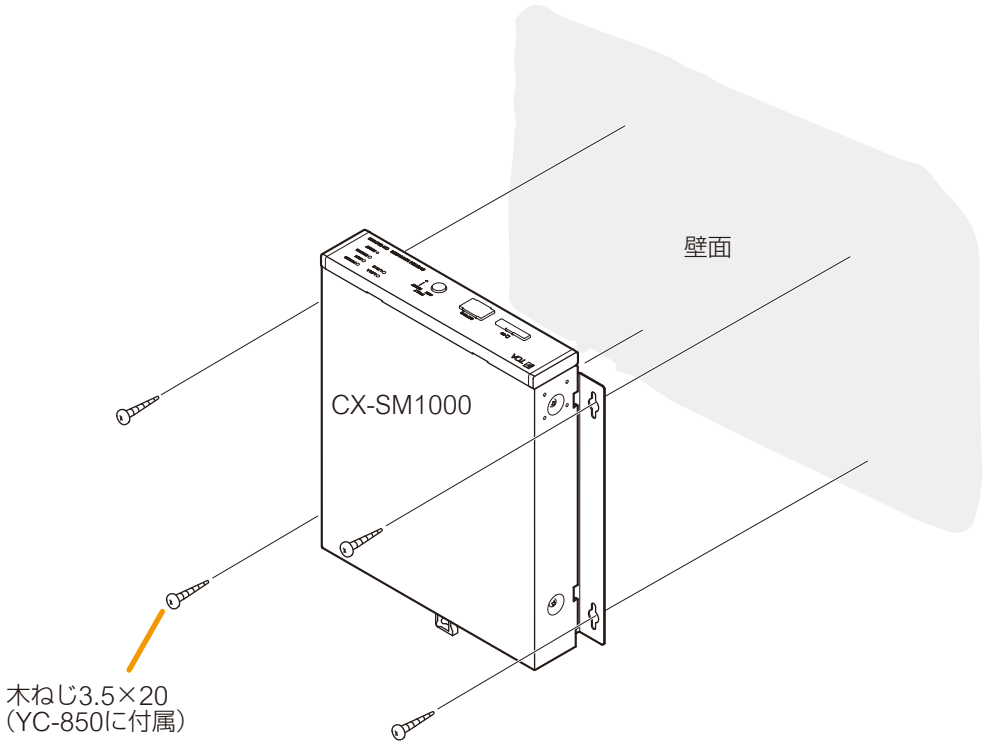
1 別売の壁掛金具 YC-850 を CX-SM1000 に取り付ける。



2 CX-SM1000 を壁に取り付ける。

前面パネル側を上にして取り付けてください。

> **⚠ 警告**
>
> 以下のことを守らないと、落下して、けがの原因となります。
> - 取付金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。
> - 壁面の材質に応じた取付ねじを使用してください。
>
> 壁掛金具 YC-850 には木ねじ 3.5 × 20 が付属されています。
> 必要に応じて、適切なねじを別途ご用意ください。



CX-OP1700 の設置

ビデオ多機能端末 CX-OP1700 の設置方法には、卓上設置、壁への取り付けの 2 種類があります。

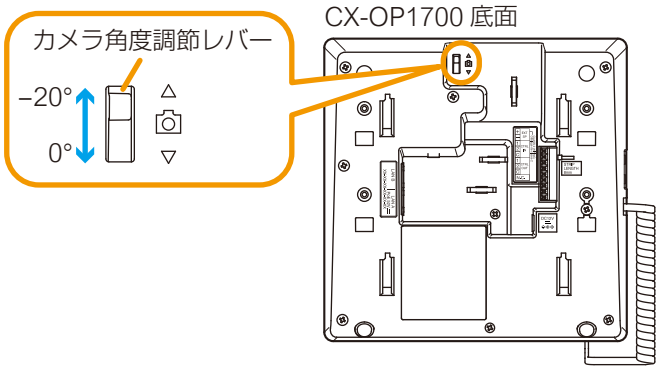
ご注意

CX-OP1700 から放送を行う場合は、拡声スピーカーとのハウリングを防ぐため、CX-OP1700 を拡声スピーカーからできるだけ遠ざけて設置してください。

■ カメラ角度の調節

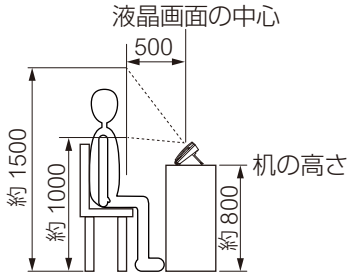
● 調節のしかた

設置場所に合わせて、カメラの角度を調節します。
カメラの角度は上下方向に –20 ～ 0° の範囲で調節できます。
カメラ角度調節レバーを使用して調節してください。

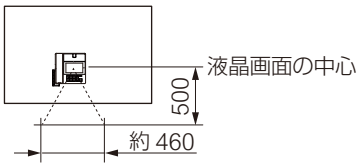


● 卓上設置時の撮像範囲（操作面を水平 45 °上向き、カメラ角度を –20 °にした場合の例）

[上下方向]



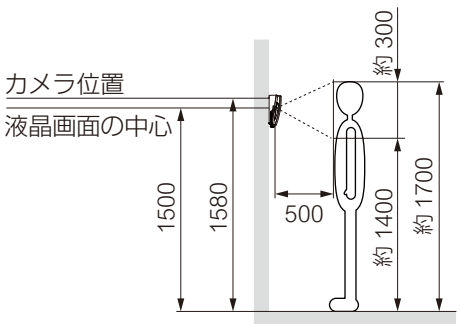
[左右方向]



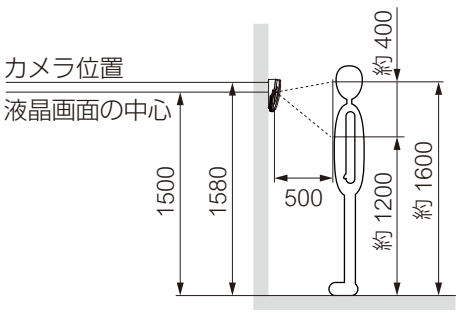
● 壁設置時の撮像範囲

[上下方向]

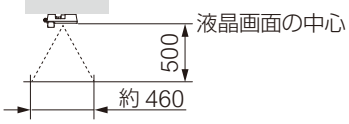
● カメラ角度 0° の場合



● カメラ角度 –20° の場合



[左右方向]



単位：mm

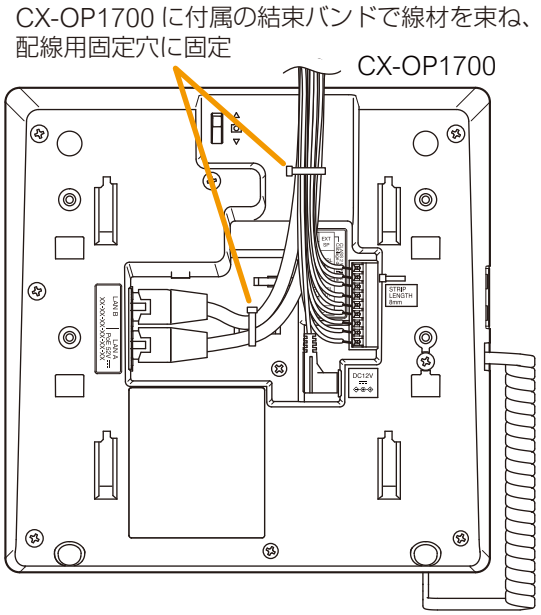
■ 卓上に置くとき

CX-OP1700 をそのまま卓上に置いて使用できます。
また、付属のスタンドを CX-OP1700 の底面に取り付けると、操作面を水平 45° 上向きまたは水平 60° 上向きに変更できます。操作面を水平 60° 上向きに変更した場合は、ハンドセットの落下防止のため、ハンドセットフックの向きを変更してください。（☞ P. 3-10「ハンドセットフックの向きの変えかた」）

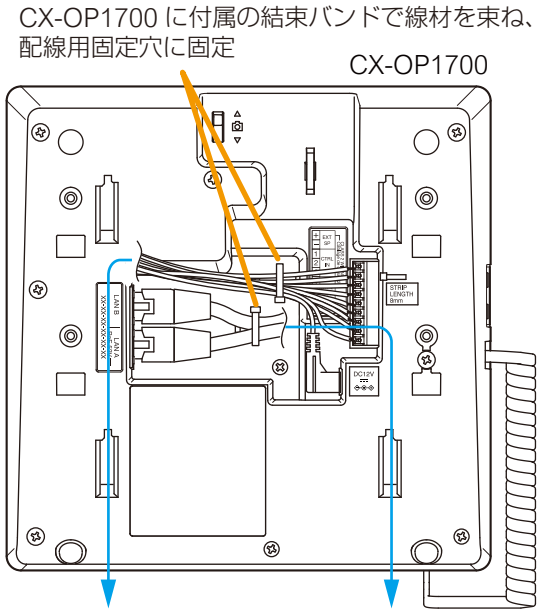
● 配線のしかた

CX-OP1700 の各端子に接続した後、下図のようにケーブルを束ねて固定してから引き出してください。

［スタンドを使用しない場合］



［スタンドを使用する場合］



● スタンドの取り付けかた

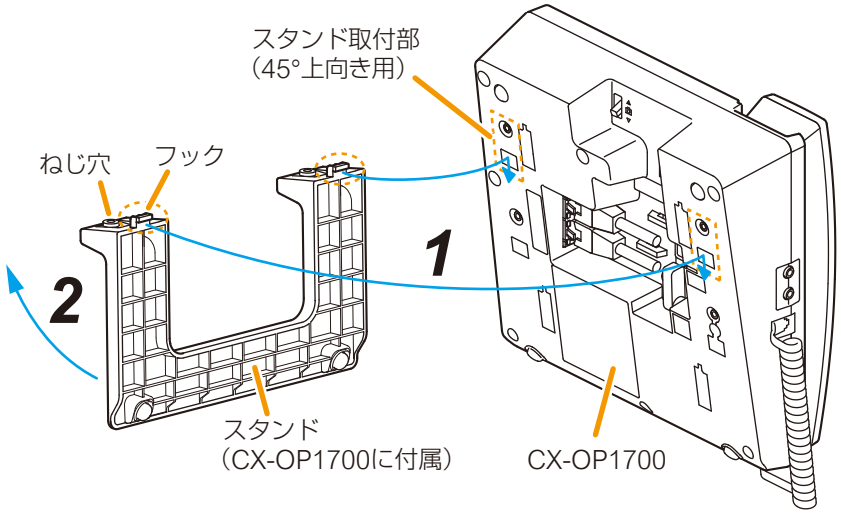
ケーブルを接続した後、付属のスタンドを取り付けてください。

1 **付属のスタンドのフック部を CX-OP1700 底面のスタンド取付部の角穴にひっかける。**

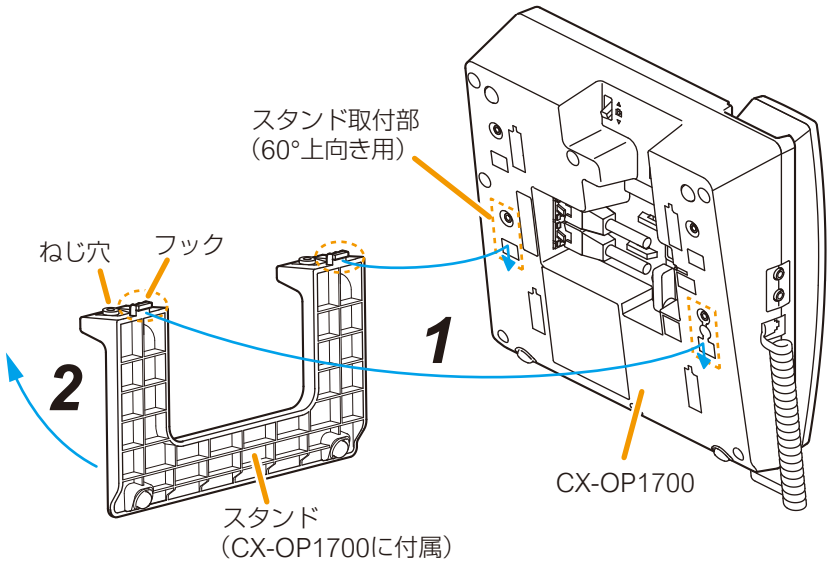
操作面を水平 45° 上向きにするときと水平 60° 上向きにするときで使用するスタンド取付部の位置が異なります。

2 **スタンドを角穴にひっかけたまま回転させ、スタンドのねじ穴部を CX-OP1700 底面のねじ取付位置に合わせる。**

[操作面を水平 45° 上向きにするとき]

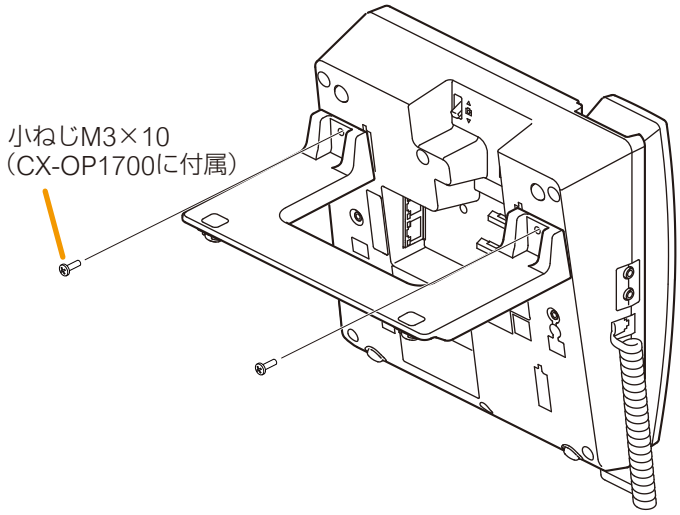


[操作面を水平 60° 上向きにするとき]

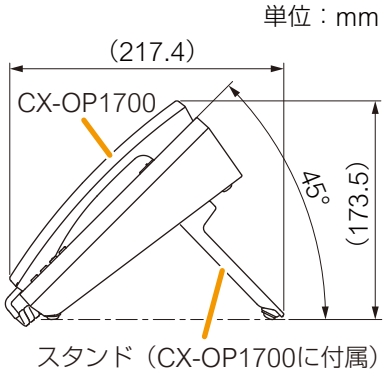


3 スタンドを CX-OP1700 底面に付属のねじ 2 本で固定する。

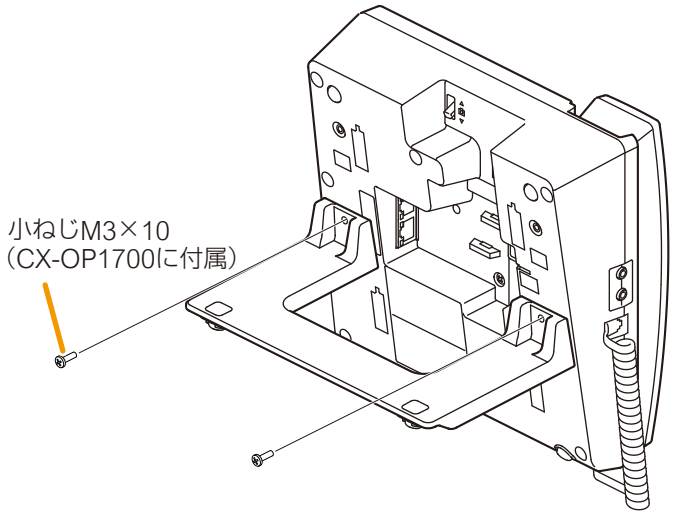
［操作面を水平 45˚ 上向きにするとき］



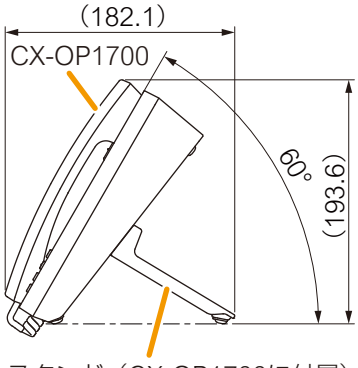
［取付完成図（45˚ 上向き）］



［操作面を水平 60˚ 上向きにするとき］



［取付完成図（60˚ 上向き）］



※（　）内は参考寸法値

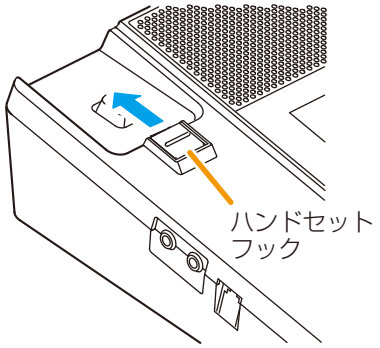
● ハンドセットフックの向きの変えかた

付属のスタンドを使用して操作面を水平 60° 上向きに変更した場合は、ハンドセットの落下防止のため、ハンドセットフックの向きを変えてください。

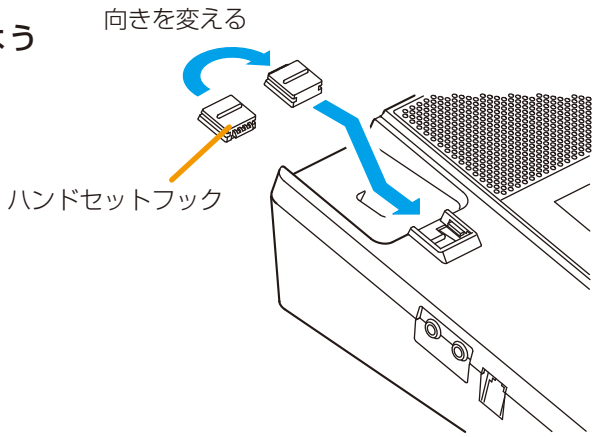
ご注意

ハンドセットフックの向きを変更した場合は、ハンドセットをハンドセットフックに引っ掛けて固定しているので、ハンドセットを使用するときは、上側にスライドさせてから取り上げるようにしてください。

1 **ハンドセットフックをスライドさせて引き抜く。**



2 **ハンドセットフックの爪が上向きになるように、向きを入れ換えて差し込む。**



■ 壁に取り付けるとき

● ハンドセットフックの向きの変えかた

壁に取り付けて使用するときは、ハンドセットの落下防止のため、ハンドセットフックの向きを変えてください。ハンドセットフックの向きの変えかたは、スタンド使用時と同じです。（前項参照）

ご注意

ハンドセットフックの向きを変更した場合は、ハンドセットをハンドセットフックに引っ掛けて固定しているので、ハンドセットを使用するときは、上側にスライドさせてから取り上げるようにしてください。

● 壁への取り付けかた

壁掛金具 YC-1001 を使って壁に取り付けます。

1 壁掛金具 YC-1001 を壁に取り付ける。

設置場所に応じて、ねじを 2 本以上使用して壁に取り付けてください。
YC-1001 には、壁直付け用としてタッピンねじ 3.5 × 25（2 本）が付属されています。

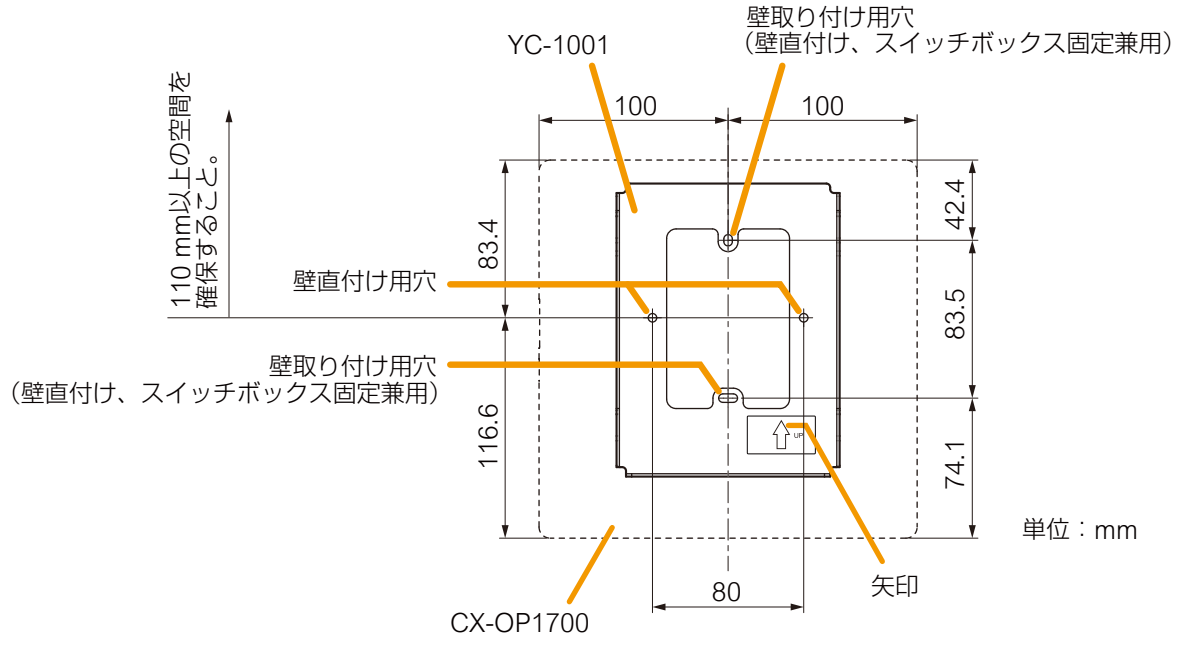
⚠ 警告

- 取付金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。
  十分な強度がないと落下して、けがの原因となります。
- 取付金具は、ねじを必ず 2 本以上使用して壁に取り付けてください。

ご注意

- YC-1001 の壁直付け用穴より上側に 110 mm 以上の空間を設けて設置してください。
  空間を設けないと、CX-OP1700 を取り付けることができません。
- 下図に示す壁直付け用穴 2 カ所または壁取り付け用穴 2 カ所を使用して、しっかりと固定してください。
- ラベルに印刷されている矢印の先を上方向に向けて設置してください。

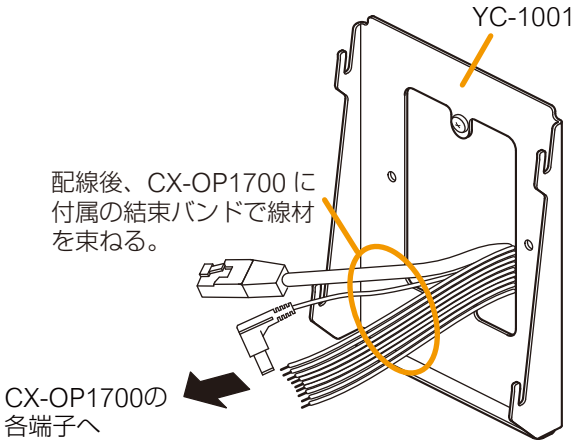
[取付寸法図]



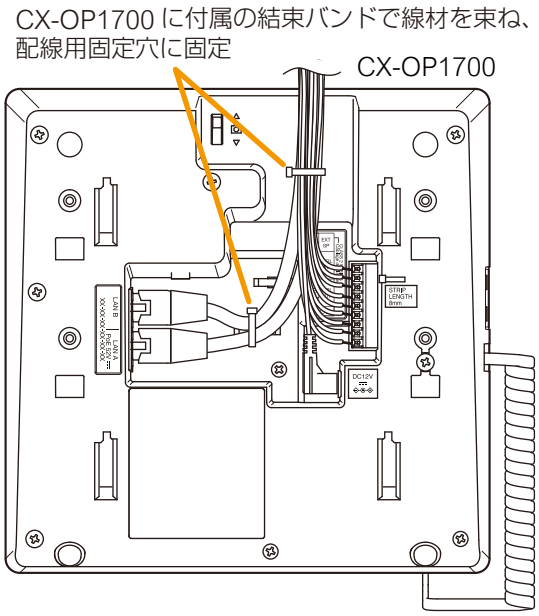
2 接続ケーブルを CX-OP1700 に接続する。

ケーブルの配線には、壁の中を通す方法と CX-OP1700 の上方向から露出配線する方法があります。
プッシュ式ターミナルへの接続のしかたは P. 3-31 をお読みください。

［壁の中を通して配線するとき］
壁側から YC-1001 の開口部を通して表側に引き出し、各端子に接続してください。



［露出配線するとき］
ケーブルを CX-OP1700 の各端子に接続した後、CX-OP1700 と YC-1001 のすき間を通して引き出してください。

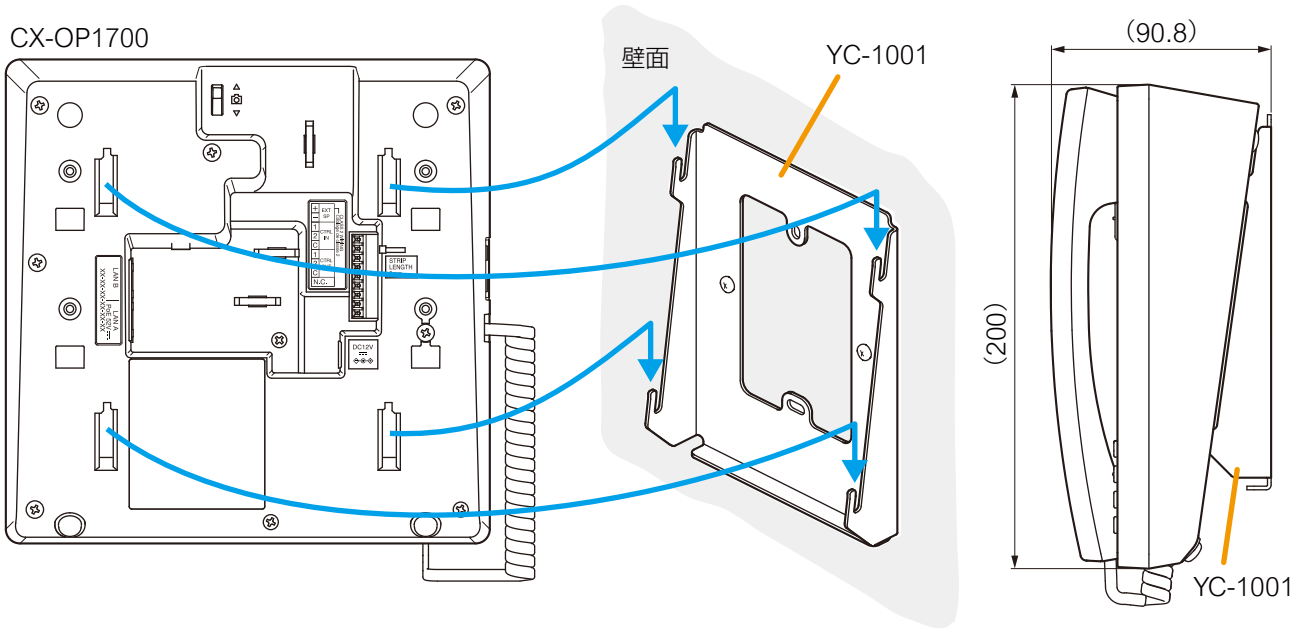


3 CX-OP1700 を YC-1001 に取り付ける。

CX-OP1700 の壁掛金具取付穴 4 カ所を YC-1001 の突起部 4 カ所に合わせ、4 カ所ともしっかりと奥まで挿入してください。

［取付完成図］

単位：mm



※（　）内は参考寸法値

ご注意
取り付け後、4 カ所すべてが正しく挿入され、緩みやがたつきがないことを確認してください。

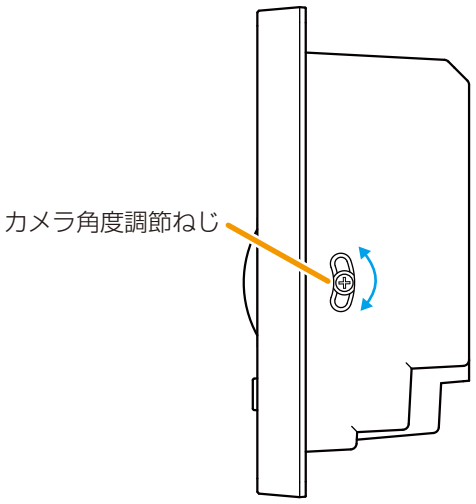
CX-CL1750/CL1550 の設置

ビデオドア端末 CX-CL1750、ドア端末 CX-CL1550 の設置方法には、3 個用スイッチボックスを使用した壁への埋め込み、露出ボックスを使用した壁への取り付けの 2 種類があります。

■ カメラ角度の調節（CX-CL1750 のみ）

● 調節のしかた

設置場所に合わせてカメラの角度を調節します。
カメラの角度は上下方向に –20 ～ +20° の範囲で調節できます。
カメラ角度調節ねじを緩めてカメラの角度を調節した後、ねじを締めてから付属の保護シールを貼り付けてください。

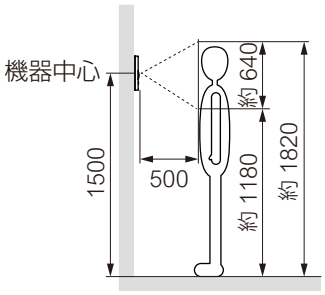


CX-CL1750 右側面

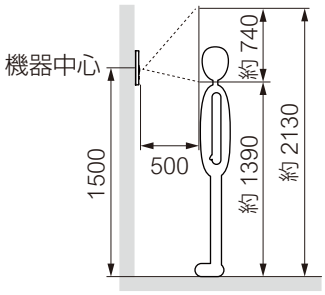
● 撮像範囲と取り付け位置

[上下方向]

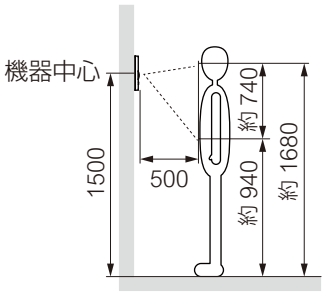
● カメラ角度 0° の場合



● カメラ角度 +20° の場合

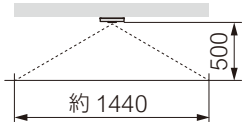


● カメラ角度 –20° の場合



単位：mm

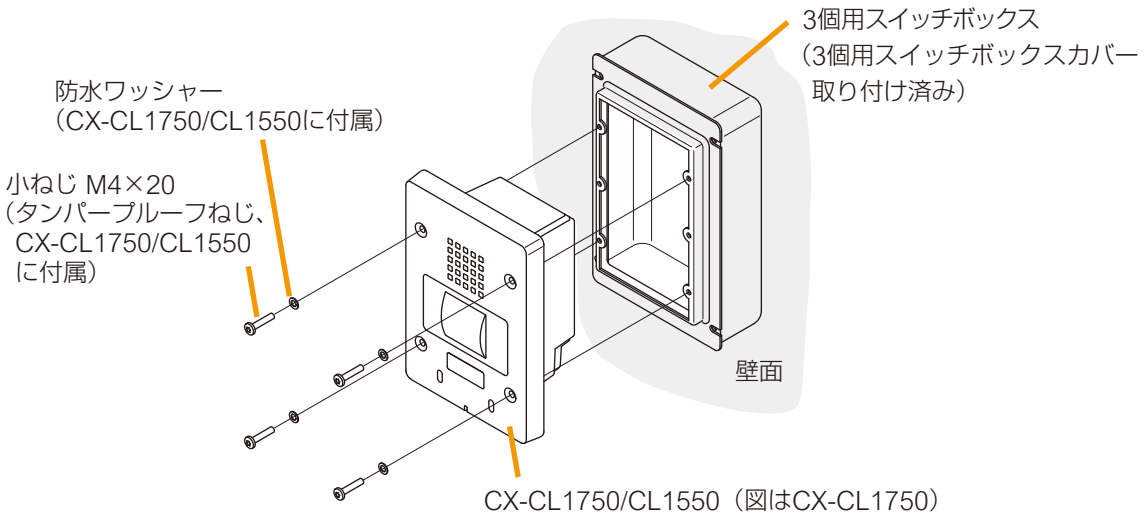
[左右方向]



単位：mm

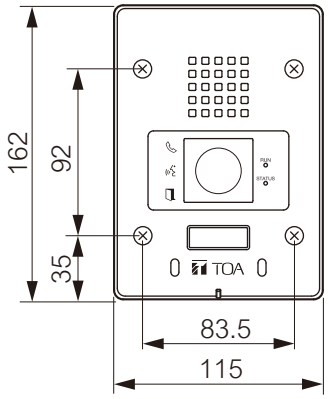
■ 3 個用スイッチボックスを使用して壁に埋め込むとき

壁に取り付けた JIS 規格の 3 個用スイッチボックスに CX-CL1750/CL1550 を取り付けます。

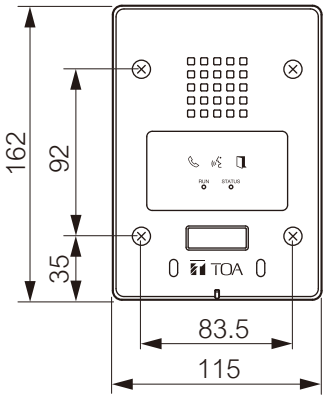


[取付完成図]

単位：mm

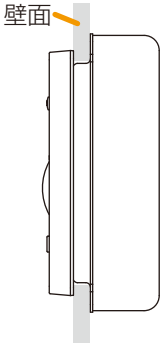


CX-CL1750

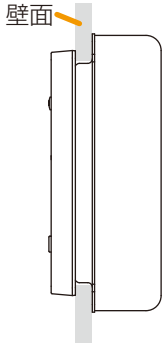


CX-CL1550

[取付完成時の断面図]



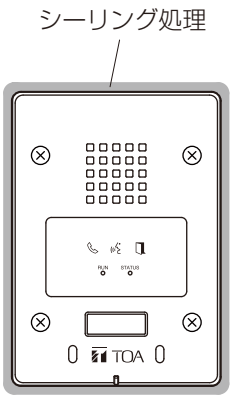
CX-CL1750



CX-CL1550

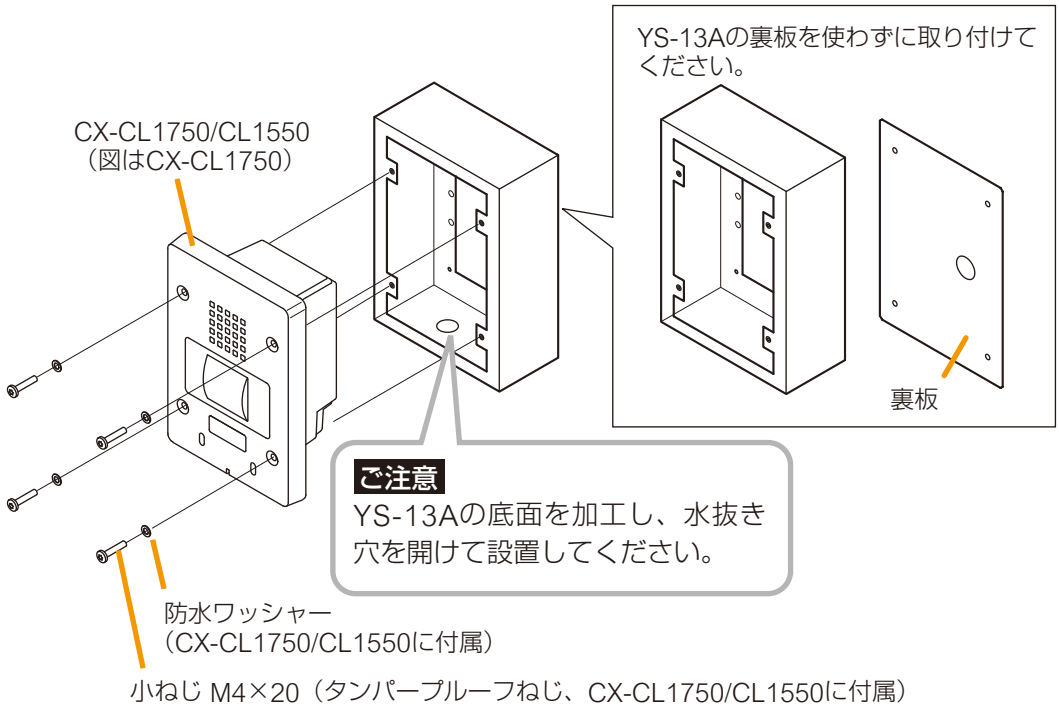
ご注意

- スイッチボックスおよび後面の機能アース端子（☞ P. 3-36「CX-CL1750/CL1550 の接続」）の両方を必ず接地してください。
- 屋内や常時雨風が直接かからない軒下などへ設置してください。また、水のかかる可能性がある場所に設置するときは、フロントカバー外周をシーリング処理してください。また、機器を取り付けるボックスには水抜き穴を設けてください。



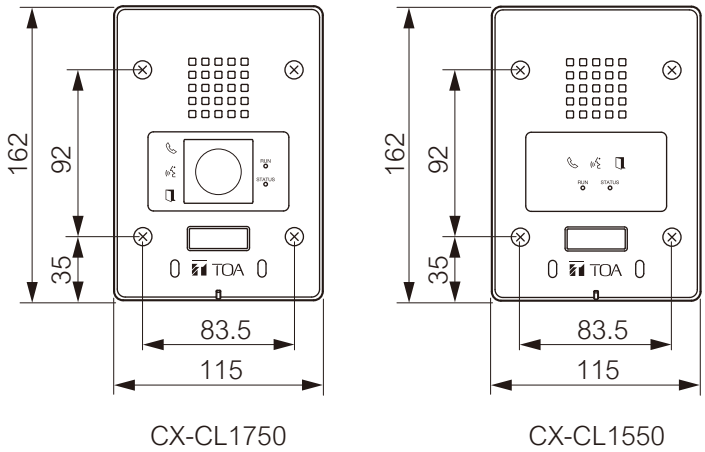
■ 露出ボックスを使用して壁に取り付けるとき

壁に取り付けた露出ボックス YS-13A に CX-CL1750/CL1550 を取り付けます。



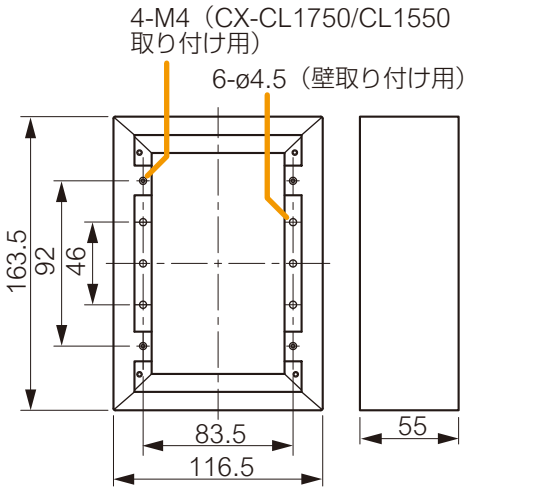
［取付完成図］

単位：mm



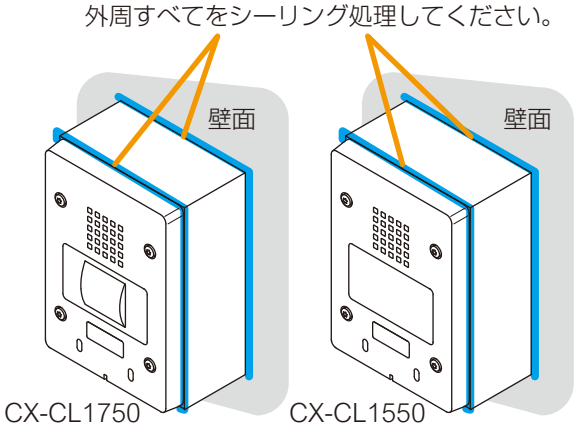
［YS-13A 外観寸法図］

単位：mm



ご注意

屋内や常時雨風が直接かからない軒下などへ設置してください。また、水のかかる可能性がある場所に設置するときは、フロントカバー外周およびボックスと壁面の間の外周をシーリング処理してください。



CX-OP1500 の設置

標準端末 CX-OP1500 の設置方法には、卓上設置、壁への取り付けの 2 種類があります。

ご注意

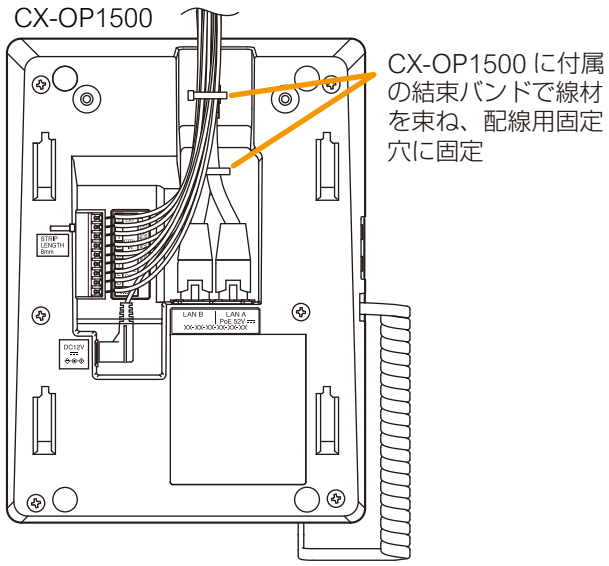
CX-OP1500 から放送を行う場合は、拡声スピーカーとのハウリングを防ぐため、CX-OP1500 を拡声スピーカーからできるだけ遠ざけて設置してください。

■ 卓上に置くとき

CX-OP1500 をそのまま卓上に置いて使用できます。
また、付属のスタンドを CX-OP1500 の底面に取り付けて卓上に置くと、操作面を水平 15 ˚ 上向きに変更できます。

● 配線のしかた

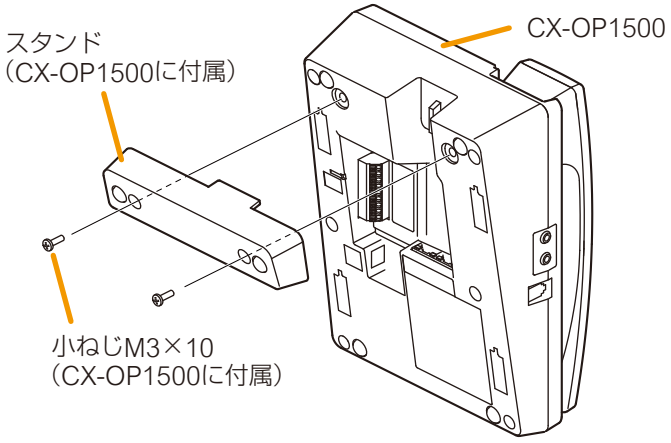
CX-OP1500 の各端子に接続した後、下図のようにケーブルを束ねて固定してから引き出してください。



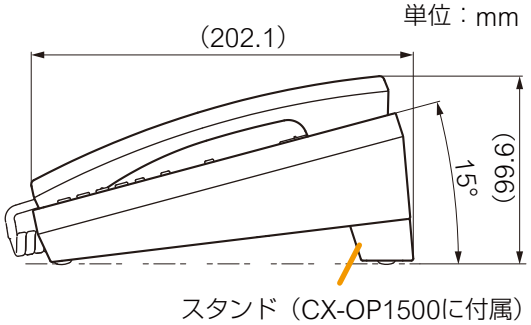
● スタンドの取り付けかた

手順：付属のスタンドを CX-OP1500 底面に取り付ける。

CX-OP1500 底面のスタンド取付穴に、付属のねじ 2 本で取り付けます。



[取付完成図]



※（　）内は参考寸法値

■ 壁に取り付けるとき

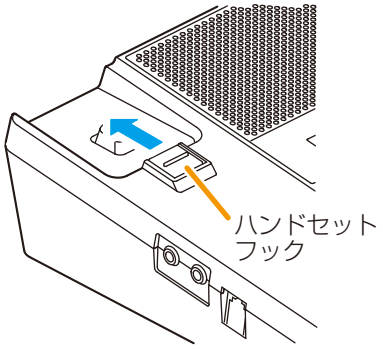
● ハンドセットフックの向きの変えかた

壁に取り付けて使用するときは、ハンドセットの落下防止のため、ハンドセットフックの向きを変えてください。

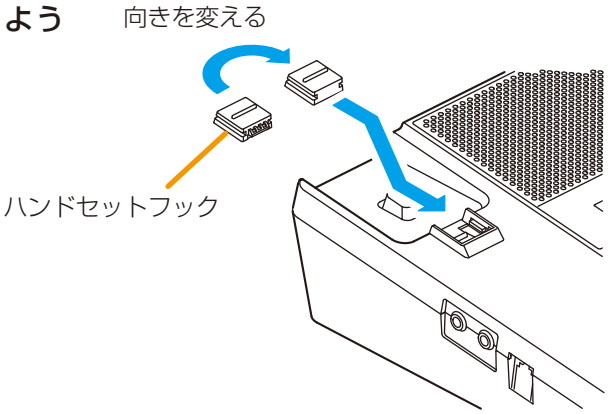
ご注意

ハンドセットフックの向きを変更した場合は、ハンドセットをハンドセットフックに引っ掛けて固定しているので、ハンドセットを使用するときは、上側にスライドさせてから取り上げるようにしてください。

1 ハンドセットフックをスライドさせて引き抜く。



2 ハンドセットフックの爪が上向きになるように、向きを入れ換えて差し込む。



● 壁への取り付けかた

壁掛金具 YC-1001 を使って壁に取り付けます。

1 壁掛金具 YC-1001 を壁に取り付ける。

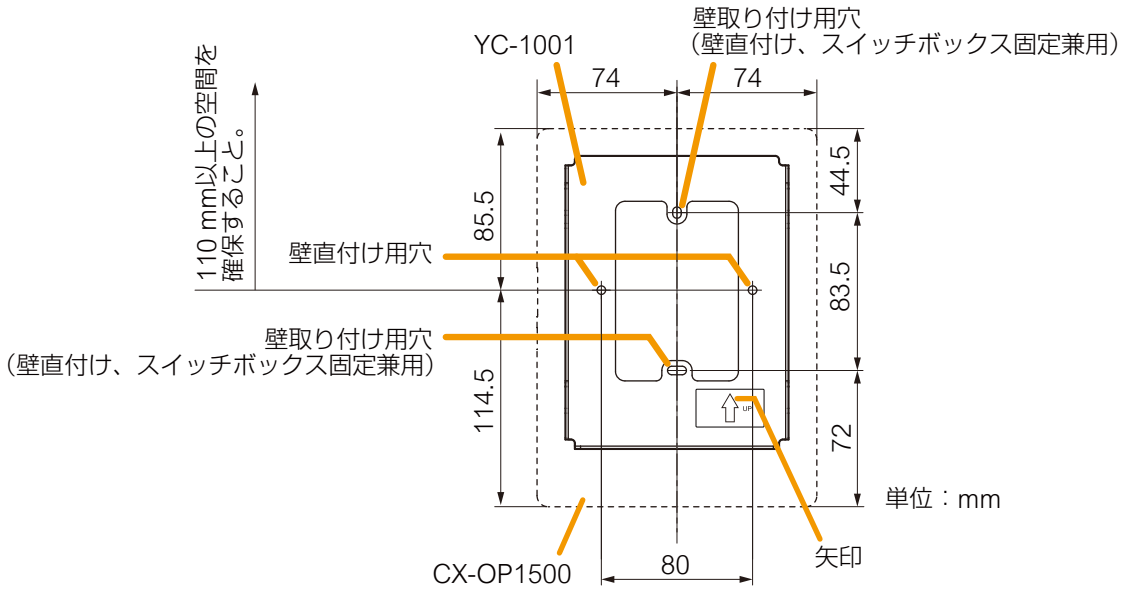
設置場所に応じて、ねじを 2 本以上使用して壁に取り付けてください。
YC-1001 には、壁直付け用としてタッピンねじ 3.5 × 25（2 本）が付属されています。

⚠ 警告

- 取付金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。
  十分な強度がないと落下して、けがの原因となります。
- 取付金具は、ねじを必ず 2 本以上使用して壁に取り付けてください。

ご注意

- YC-1001 の壁直付け用穴より上側に 110 mm 以上の空間を設けて設置してください。
  空間を設けないと、CX-OP1500 を取り付けることができません。
- 下図に示す壁直付け用穴 2 カ所または壁取り付け用穴 2 カ所を使用して、しっかりと固定してください。
- ラベルに印刷されている矢印の先を上方向に向けて設置してください。

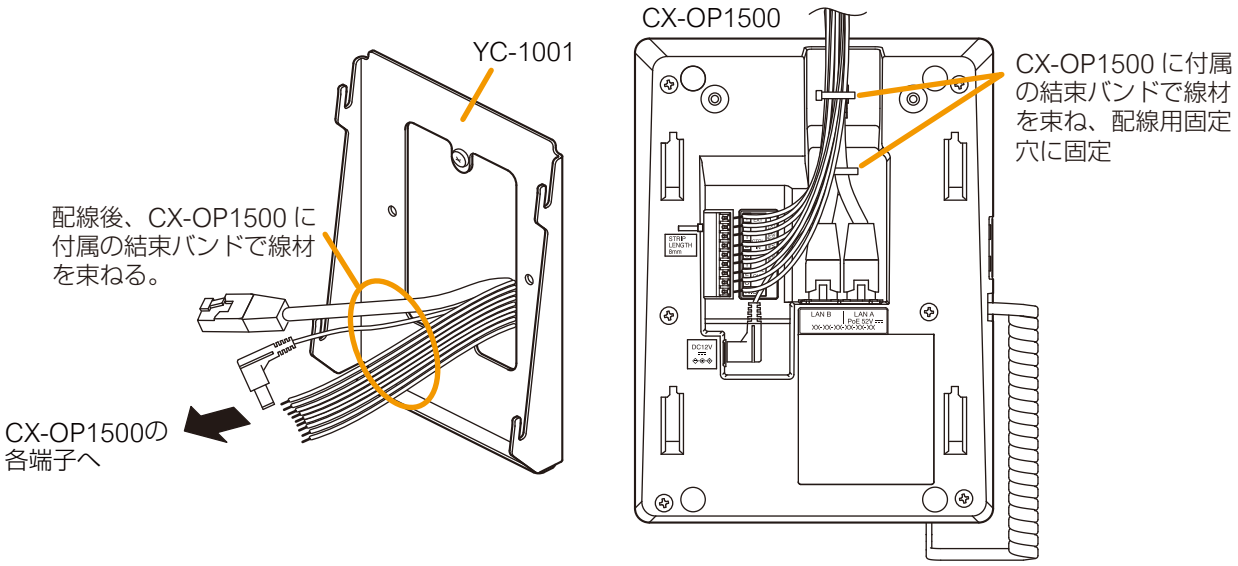


2 接続ケーブルを CX-OP1500 に接続する。

ケーブルの配線には、壁の中を通す方法と CX-OP1500 の上方向から露出配線する方法があります。
プッシュ式ターミナルへの接続のしかたは P. 3-31 をお読みください。

［壁の中を通して配線するとき］
壁側から YC-1001 の開口部を通して表側に引き出し、各端子に接続してください。

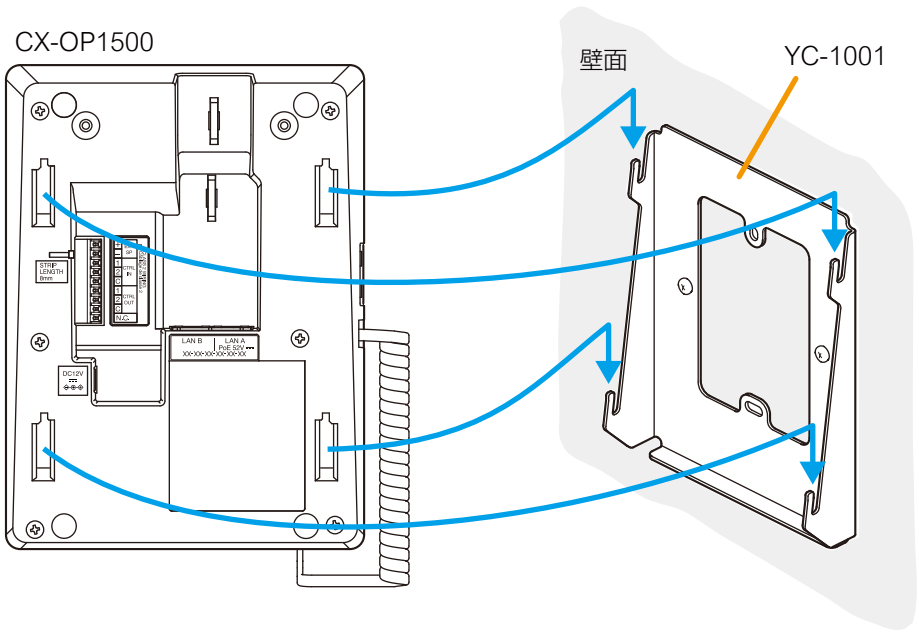
［露出配線するとき］
ケーブルを CX-OP1500 の各端子に接続した後、CX-OP1500 と YC-1001 のすき間を通して引き出してください。



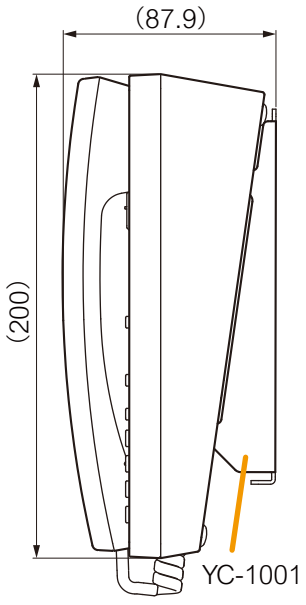
3 CX-OP1500 を YC-1001 に取り付ける。

CX-OP1500 の壁掛金具取付穴 4 カ所を YC-1001 の突起部 4 カ所に合わせ、4 カ所ともしっかりと奥まで挿入してください。

［取付完成図］



単位：mm



※（　）内は参考寸法値

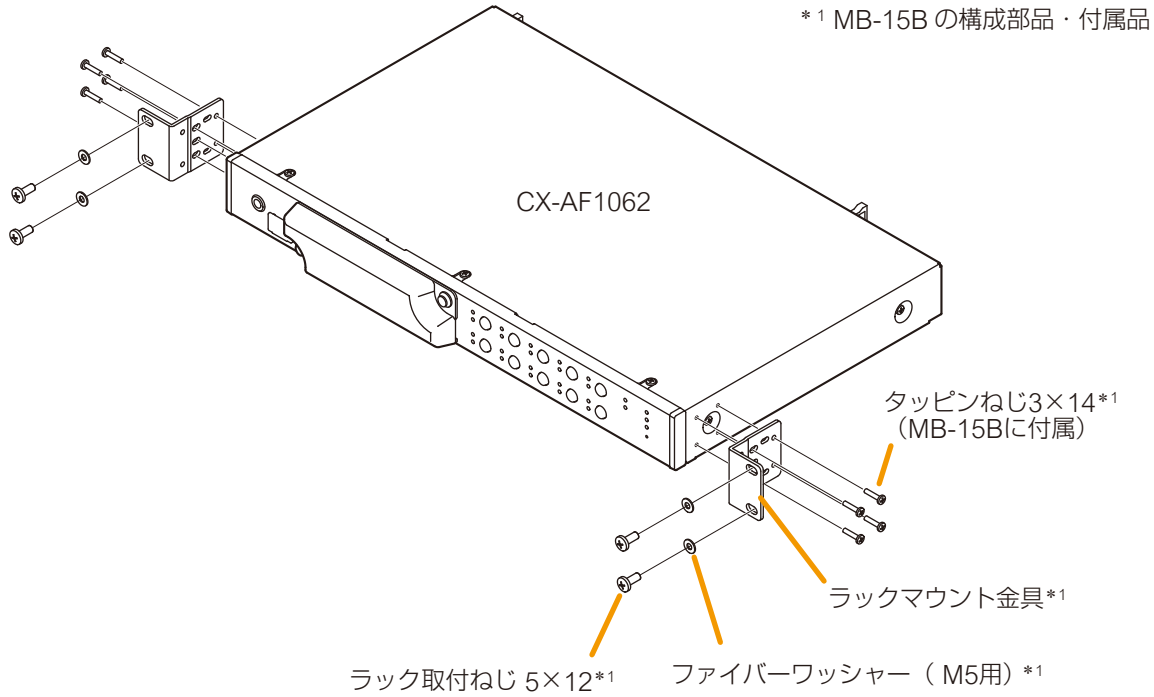
ご注意
取り付け後、4 カ所すべてが正しく挿入され、緩みやがたつきがないことを確認してください。

CX-AF1062 の設置

音声インターフェース 6 入力 2 出力 CX-AF1062 の設置方法には、キャビネットラックへの取り付け、卓上設置、壁への取り付けの 3 種類があります。

■ キャビネットラックに取り付けるとき

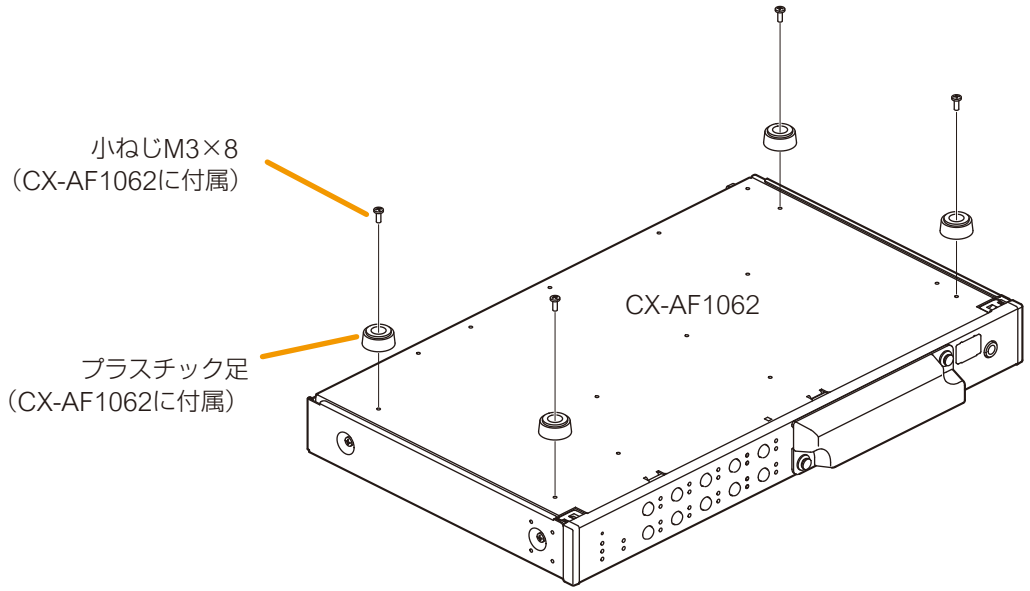
別売のラックマウント金具 MB-15B を使用します。



⚠注意　ラックマウント金具に付属のねじは当社のラック専用です。
他のラックには使用しないでください。

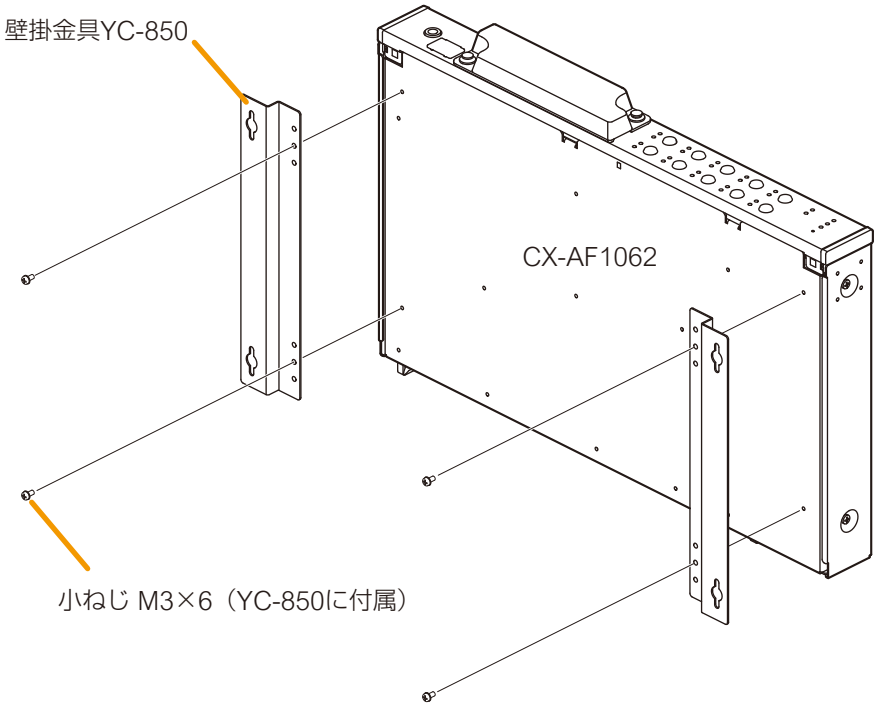
■ 卓上に置くとき

卓上に置いて使用するときは、付属のプラスチック足を CX-AF1062 の底面に取り付けてください。



■ 壁に取り付けるとき

1 別売の壁掛金具 YC-850 を CX-AF1062 に取り付ける。



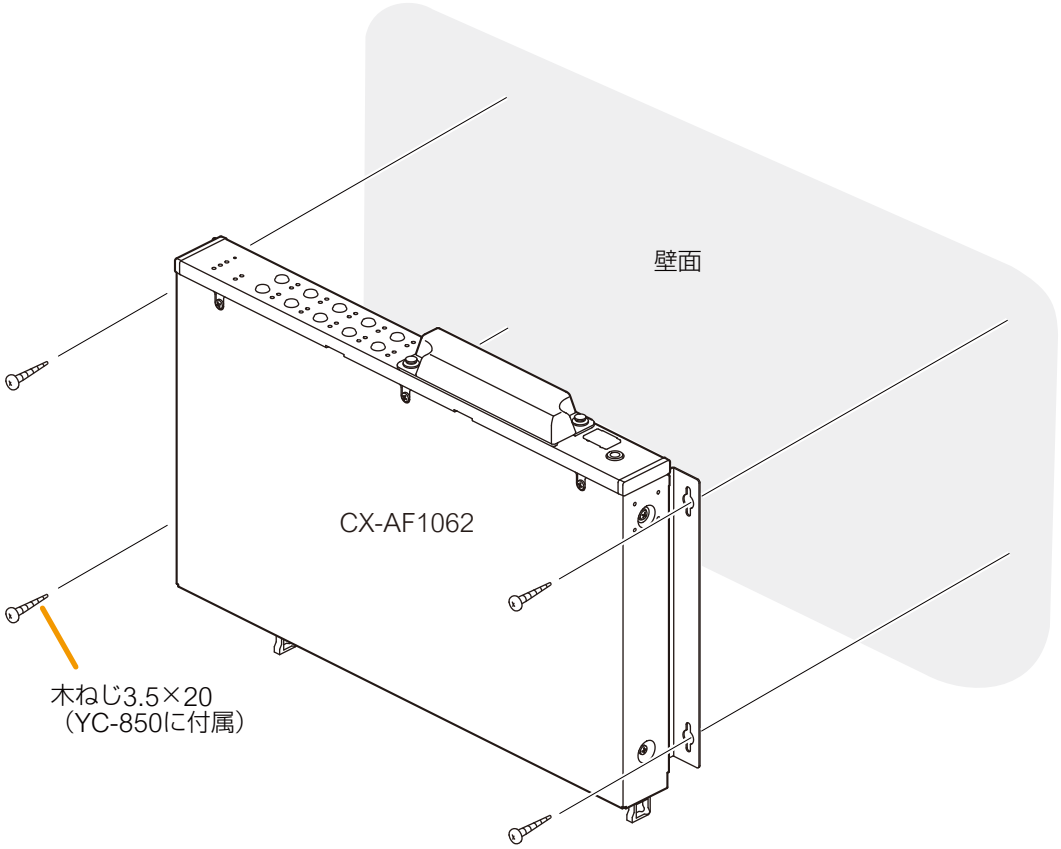
2 CX-AF1062 を壁に取り付ける。

前面パネル側を上にして取り付けてください。

⚠ 警告

以下のことを守らないと、落下して、けがの原因となります。

- 取付金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。
- 壁面の材質に応じた取付ねじを使用してください。
  壁掛金具 YC-850 には木ねじ 3.5 × 20 が付属されています。
  必要に応じて、適切なねじを別途ご用意ください。



ご注意

壁取付時には、ホーンジャックをキャップやテープでふさぐなどの対策を取り、ほこりが入らないようにしてください。

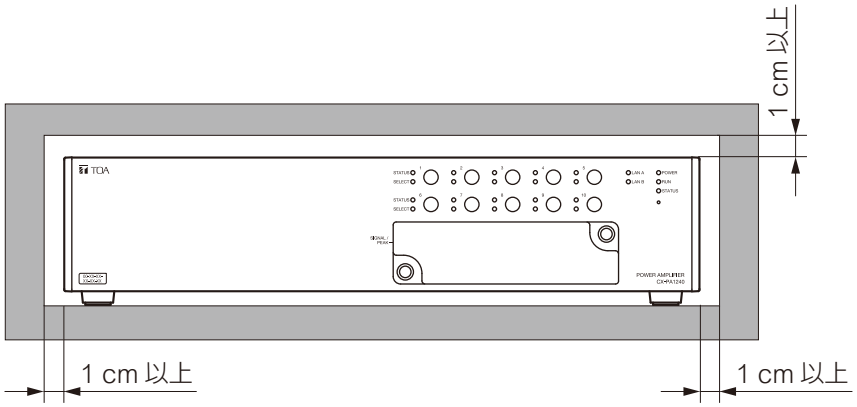
CX-PA1120/PA1240 の設置

アンプ 120/240W 10 回線 CX-PA1120/PA1240 の設置方法には、キャビネットラックへの取り付け、卓上設置、壁への取り付けの 3 種類があります。

■ 設置上のご注意

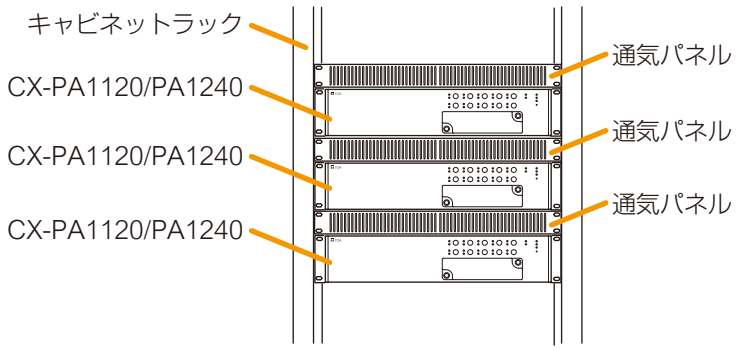
⚠注意　本機の通風口をふさがないでください。
ふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- 機器内部の温度が極端に高くならないようにするために、下図のように、CX-PA1120/PA1240 の左右および上面に対して、1 cm 以上離してください。



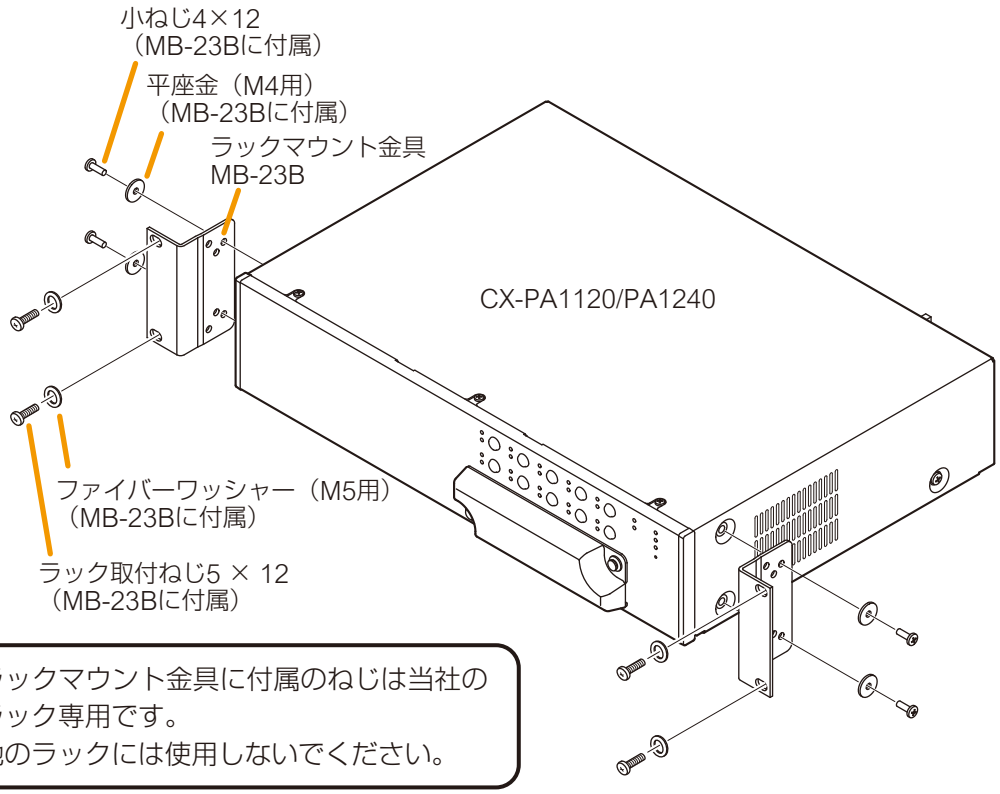
- CX-PA1120/PA1240 をラックに取り付ける場合は、機器 1 台につき上側に 1U サイズ*以上の通気パネル PF-013B などを取り付けてください。

  * 1U サイズ = 44.5 mm（基準サイズ）



■ キャビネットラックに取り付けるとき

別売のラックマウント金具 MB-23B を使用します。



⚠注意

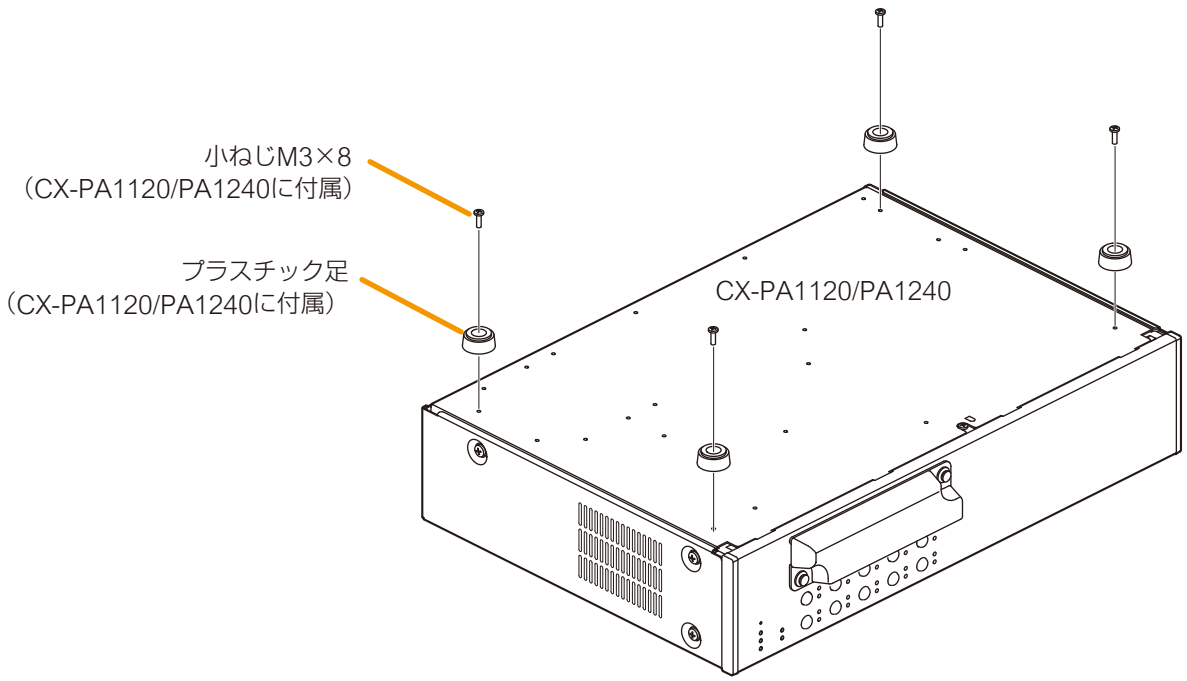
ラックマウント金具に付属のねじは当社のラック専用です。
他のラックには使用しないでください。

■ 卓上に置くとき

卓上に置いて使用するときは、付属のプラスチック足を CX-PA1120/PA1240 の底面に取り付けてください。

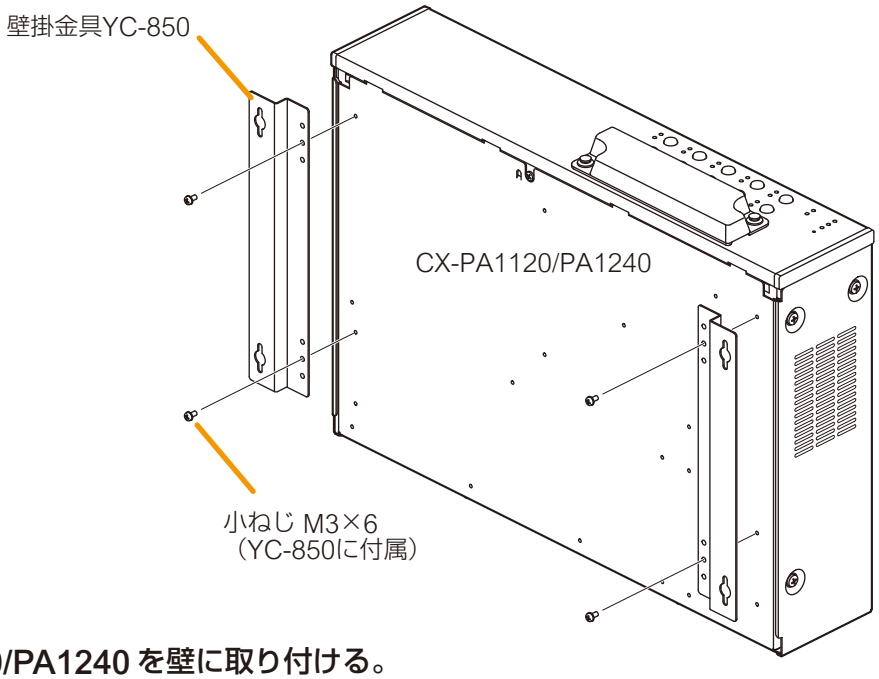
ご注意

下図に示す取付穴以外には取り付けないでください。



■ 壁に取り付けるとき

1 別売の壁掛金具 YC-850 を CX-PA1120/PA1240 に取り付ける。



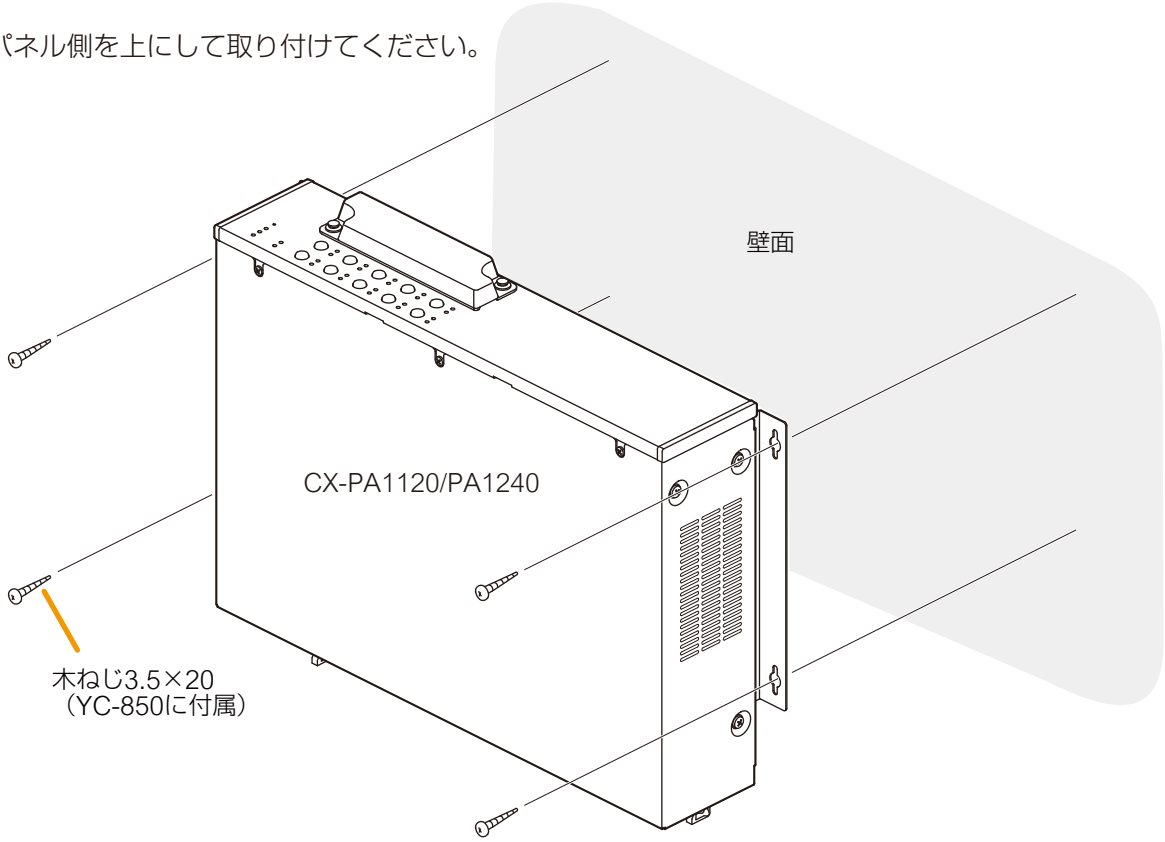
2 CX-PA1120/PA1240 を壁に取り付ける。

⚠ 警告

以下のことを守らないと、落下して、けがの原因となります。

- 取付金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。
- 壁面の材質に応じた取付ねじを使用してください。
  壁掛金具 YC-850 には木ねじ 3.5 × 20 が付属されています。
  必要に応じて、適切なねじを別途ご用意ください。

前面パネル側を上にして取り付けてください。



CX-CC1016 の設置

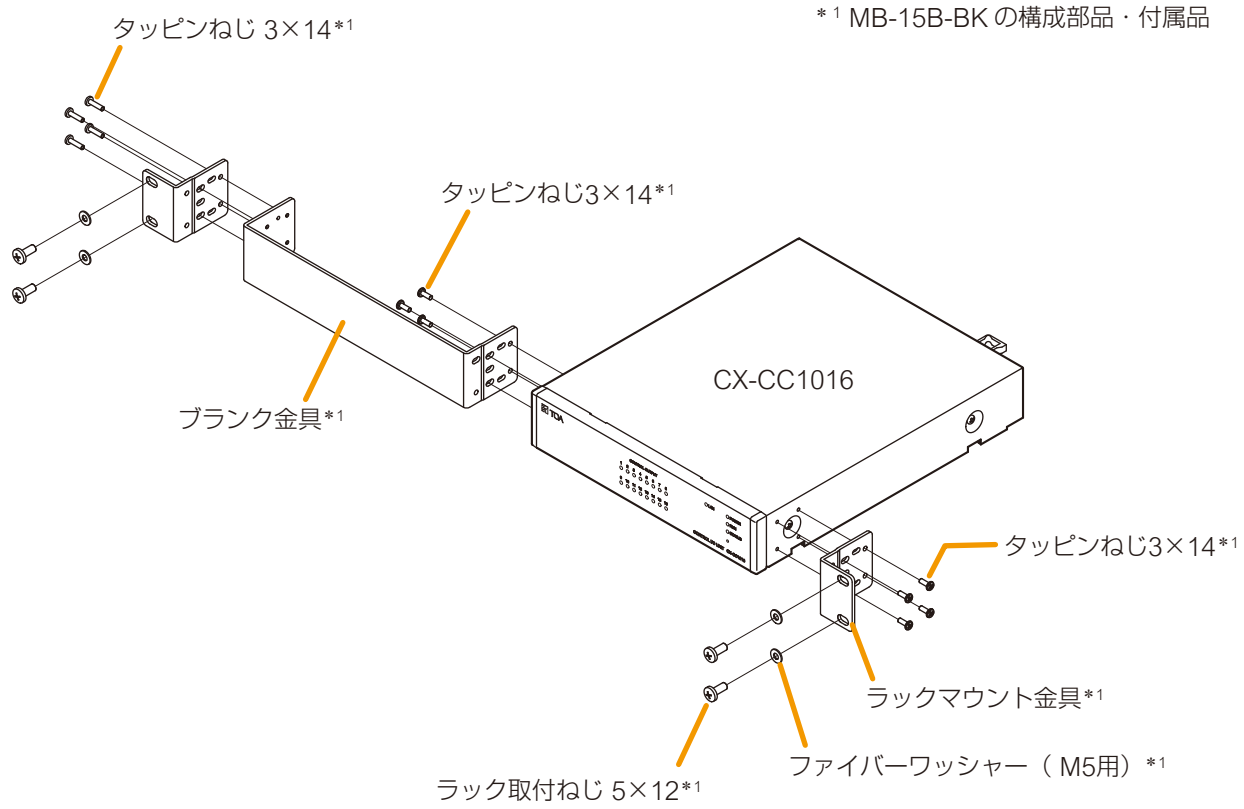
制御入出力ユニット CX-CC1016 の設置方法には、キャビネットラックへの取り付け、卓上設置、壁への取り付けの 3 種類があります。

■ キャビネットラックに取り付けるとき

● ラックに 1 台取り付けるとき

別売のラックマウント金具セット MB-15B-BK を使用します。

*1 MB-15B-BK の構成部品・付属品



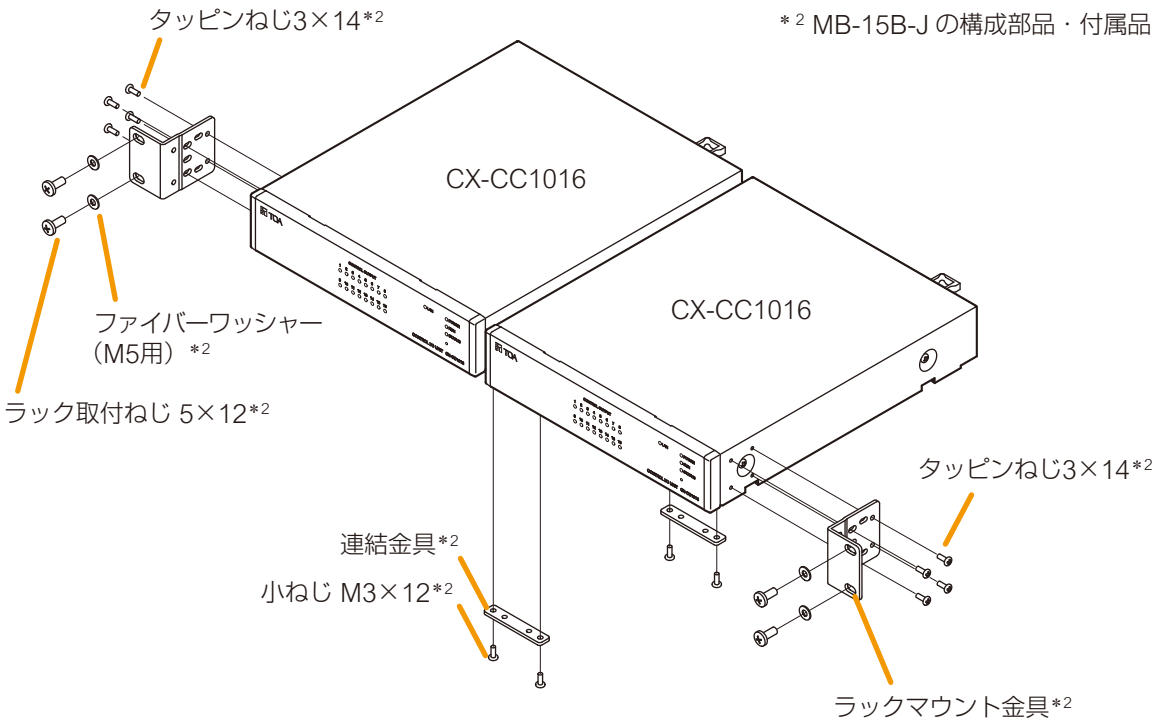
⚠注意　ラックマウント金具に付属のねじは当社のラック専用です。
他のラックには使用しないでください。

● ラックに 2 台取り付けるとき

別売のラック連結金具セット MB-15B-J を使用します。

ご注意

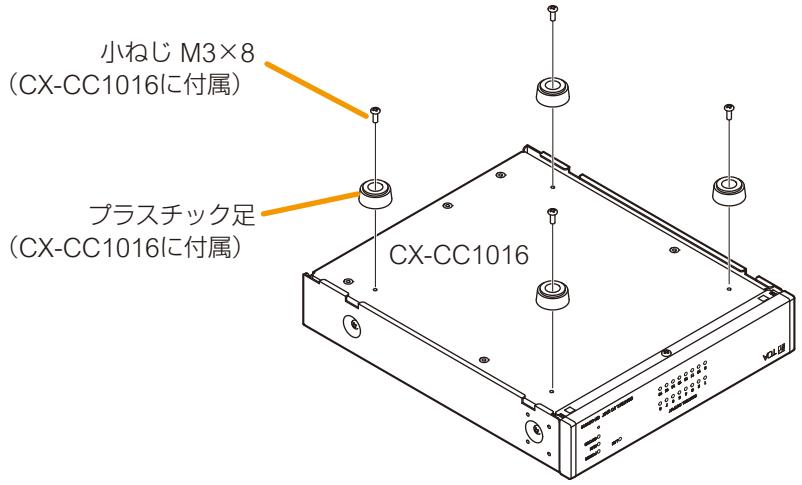
ラックへの取り付け時は、ゆっくり差し込んでください。
そうしないと、本機の下に取り付けた機器の上面に、小ねじの跡が付くことがあります。



⚠注意　ラックマウント金具に付属のねじは当社のラック専用です。
他のラックには使用しないでください。

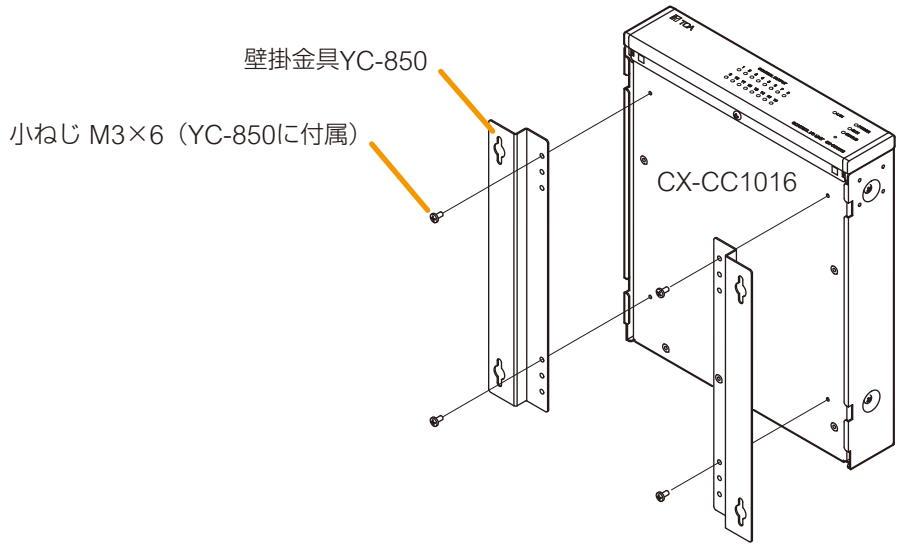
■ 卓上に置くとき

卓上に置いて使用するときは、付属のプラスチック足を CX-CC1016 の底面に取り付けてください。



■ 壁に取り付けるとき

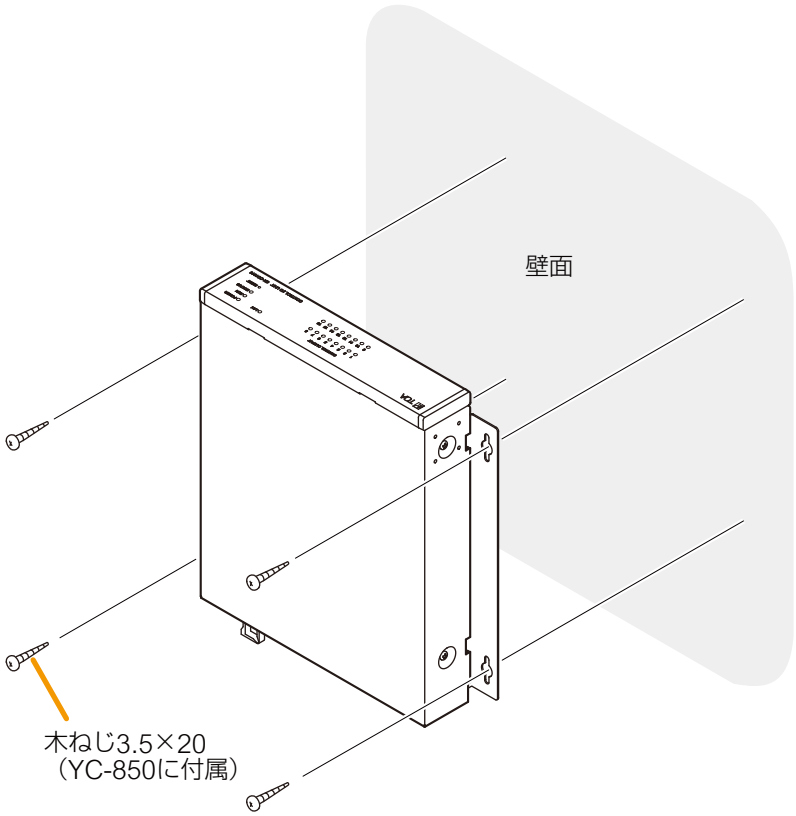
1 別売の壁掛金具 YC-850 を CX-CC1016 に取り付ける。



2 CX-CC1016 を壁に取り付ける。

前面パネル側を上にして取り付けてください。

> **⚠ 警告**
>
> 以下のことを守らないと、落下して、けがの原因となります。
> - 取付金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。
> - 壁面の材質に応じた取付ねじを使用してください。
>
> 壁掛金具 YC-850 には木ねじ 3.5 × 20 が付属されています。
> 必要に応じて、適切なねじを別途ご用意ください。



接続のしかた

■ 着脱式ターミナルプラグの接続のしかた

● 線材の選定と準備

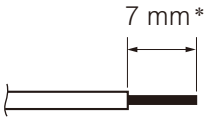
- 点検のできない天井裏や床下などに配線するときは、屋外線を使用してください。
  ただし、熱気などによる障害の恐れがないときは、屋内線を使用することができます。

- 線材のサイズは次のとおりです。

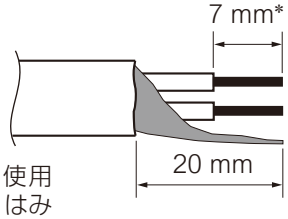
端子	電源入力端子、スピーカー出力端子、アッテネーター／制御出力端子	左記以外の端子
導体線経	ø0.6 ～ 1.6 mm	ø0.6 ～ 1.2 mm
AWG	AWG24 ～ 14 相当	AWG24 ～ 16 相当

- 線材のむきしろ

［単線、より線］



［シールド線］



* 絶縁スリーブ付き棒端子を使用する場合は8 mm以上とし、はみ出た分はカットしてください。

ご注意

より線、シールド線を使用するときは、むきしろ部分にはんだめっきをしないでください。
線材を締め付けたときに、はんだスズが破砕し接触抵抗が高くなるため、接続部の温度が異常に上昇することがあります。

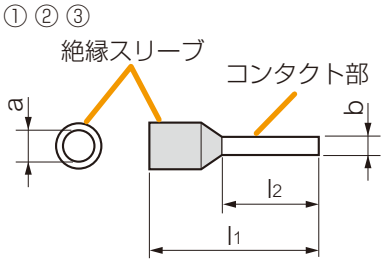
- より線を使用する場合、先端を棒端子で圧着してください。
- 1 つの端子に 2 本の線材を接続する場合や信号線を接続する場合などに、心線がばらけるのを防ぐためには、絶縁スリーブ付き棒端子で圧着してください。

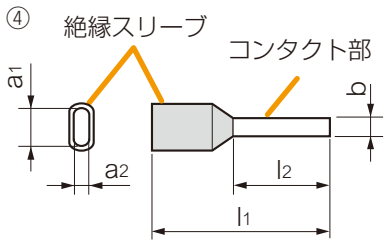
推奨棒端子：制御線用（フェニックス・コンタクト製）

	品番	a	b	l_1	l_2
①	AI 0,34-8 TQ	2 mm	0.8 mm	12.5 mm	8 mm
②	AI 0,5-8 WH	2.5 mm	1.1 mm	14 mm	8 mm

推奨棒端子：電源線用（フェニックス・コンタクト製）

	品 番	a	a_1	a_2	b	l_1	l_2
③	AI 1,5 – 8 BK	3.4 mm	—	—	1.8 mm	14 mm	8 mm
④	AI-TWIN 2X 1,5 – 8 BK	—	6.6 mm	3.6 mm	2.3 mm	16 mm	8 mm





● 接続のしかた

1 着脱式ターミナルプラグに線材を接続する。

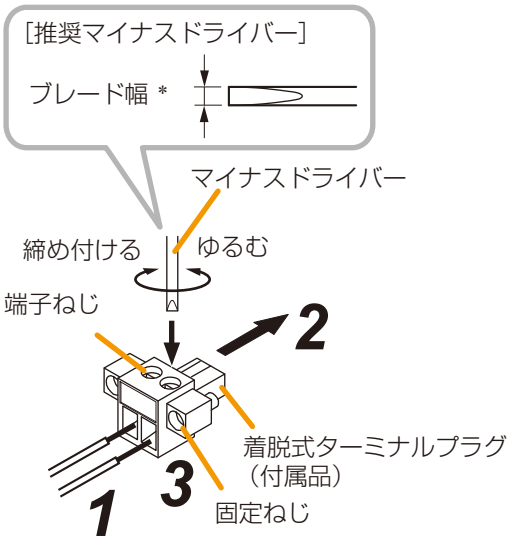
1-1 端子ねじをゆるめて、線材を差し込む。

1-2 端子ねじをしっかりと締め付ける。

線材を引っ張って抜けないことを確認してください。
抜けたら、端子ねじをゆるめてやり直してください。

2 着脱式ターミナルプラグを機器側のターミナルブロックに差し込む。

3 固定ねじ付きのプラグの場合は、固定ねじを締め付ける。



ご注意

- 手順の 1 と 2 を逆にしないでください。端子ねじを締め付けるときに、内部基板のコネクターピンに力が加わり、接触不良になるおそれがあります。
- ターミナルプラグを抜くときは、まっすぐ引き抜いてください。斜め方向に無理に引き抜くと、ターミナルプラグまたはターミナルブロックの破損の原因となります。

* 電源入力端子、スピーカー出力端子、アッテネーター／制御出力端子の場合 ：3.5 mm 程度
それ以外の端子の場合 ：2.5 mm 程度

■ プッシュ式ターミナルの接続のしかた

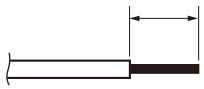
● 線材の選定と準備

- 点検のできない天井裏や床下などに配線するときは、屋外線を使用してください。
  ただし、熱気などによる障害の恐れがないときは、屋内線を使用することができます。

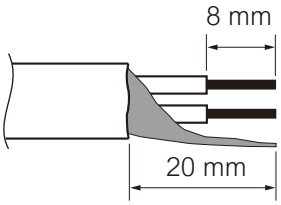
- 線材のサイズは次のとおりです。
  単線の場合　：銅単線 ø0.4 ～ 1.1 mm（AWG26 ～ 17）
  より線の場合：使用する棒端子の適用線径に従います。

- 線材のむきしろ

［単線、より線］



［シールド線］



ご注意

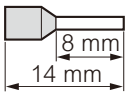
より線、シールド線を使用するときは、むきしろ部分にはんだめっきをしないでください。
線材を締め付けたときに、はんだスズが破砕し接触抵抗が高くなるため、接続部の温度が異常に上昇することがあります。

メ モ

むきしろを測るときに、各端末のストリップゲージを利用すると便利です。

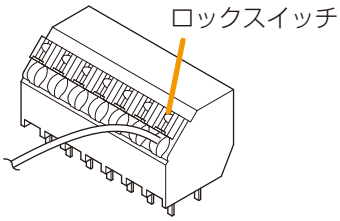
- より線を使用する場合、先端を棒端子で圧着してください。

［推奨棒端子］

メーカー	型番	仕様	線径
Weidmuller	H0,75/14T HBL		AWG18
フェニックス・コンタクト	AI 0.75-8 BU – 320027		

● 接続のしかた

手順：ロックスイッチを押しながら、線材を被覆の根元まで差し込み、そのままロックスイッチから手を離す。



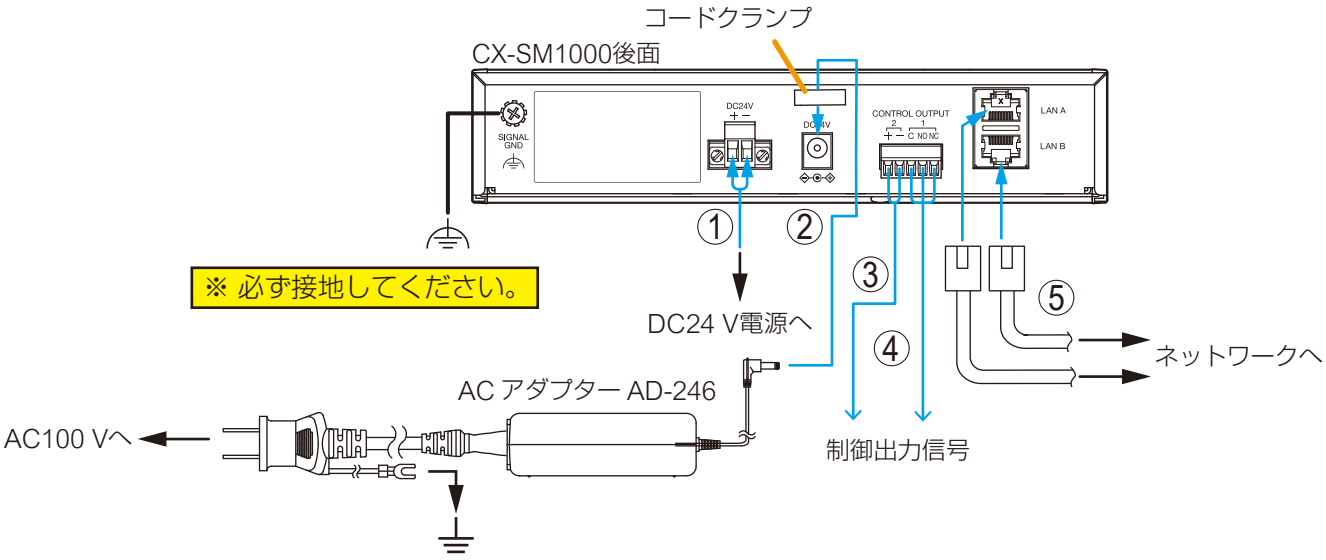
ご注意

ロックスイッチは、必要以上に強く押さないでください。

メ モ

線材を外すときは、ロックスイッチを押したまま、線材を引き抜きます。

■ CX-SM1000 の接続



① DC 電源入力端子の接続

DC24 V 電源を使用する場合は、この端子に接続します。（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた ☞ P. 3-29）

ご注意

- DC 電源は 400 mA 以上のものを用意してください。
- DC 電源入力端子への入力電圧範囲は、DC21.6 ～ DC26.4 V です。
  範囲外の電圧を入力しないでください。
  誤動作または故障の原因となることがあります。
- 誘雷の恐れがある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

メ モ

本端子と AC アダプター接続端子の両方に電源供給すると、電圧の高い方から電源が供給されます。

② AC アダプター接続端子の接続

AC アダプターを使用する場合は、別売の AC アダプター AD-246 を接続します。
コードをコードクランプに挟み込み、固定してください。

メ モ

本端子と DC 電源入力端子の両方に電源を供給すると、電圧の高い方から電源が供給されます。

③ 制御出力端子 2 の接続

制御する外部機器と接続して使用します。
［仕様］
オープンコレクター出力（極性あり）
耐電圧　：DC30 V
許容電流：100 mA

④ 制御出力端子 1 の接続

制御する外部機器と接続して使用します。
［仕様］
リレー接点出力（c 接点）
耐電圧　：DC 30 V
許容電流：1 A

⑤ ネットワーク接続端子の接続

100BASE-TX のネットワークに接続します。
この接続には、カテゴリー 5 規格以上のケーブルを使用してください。

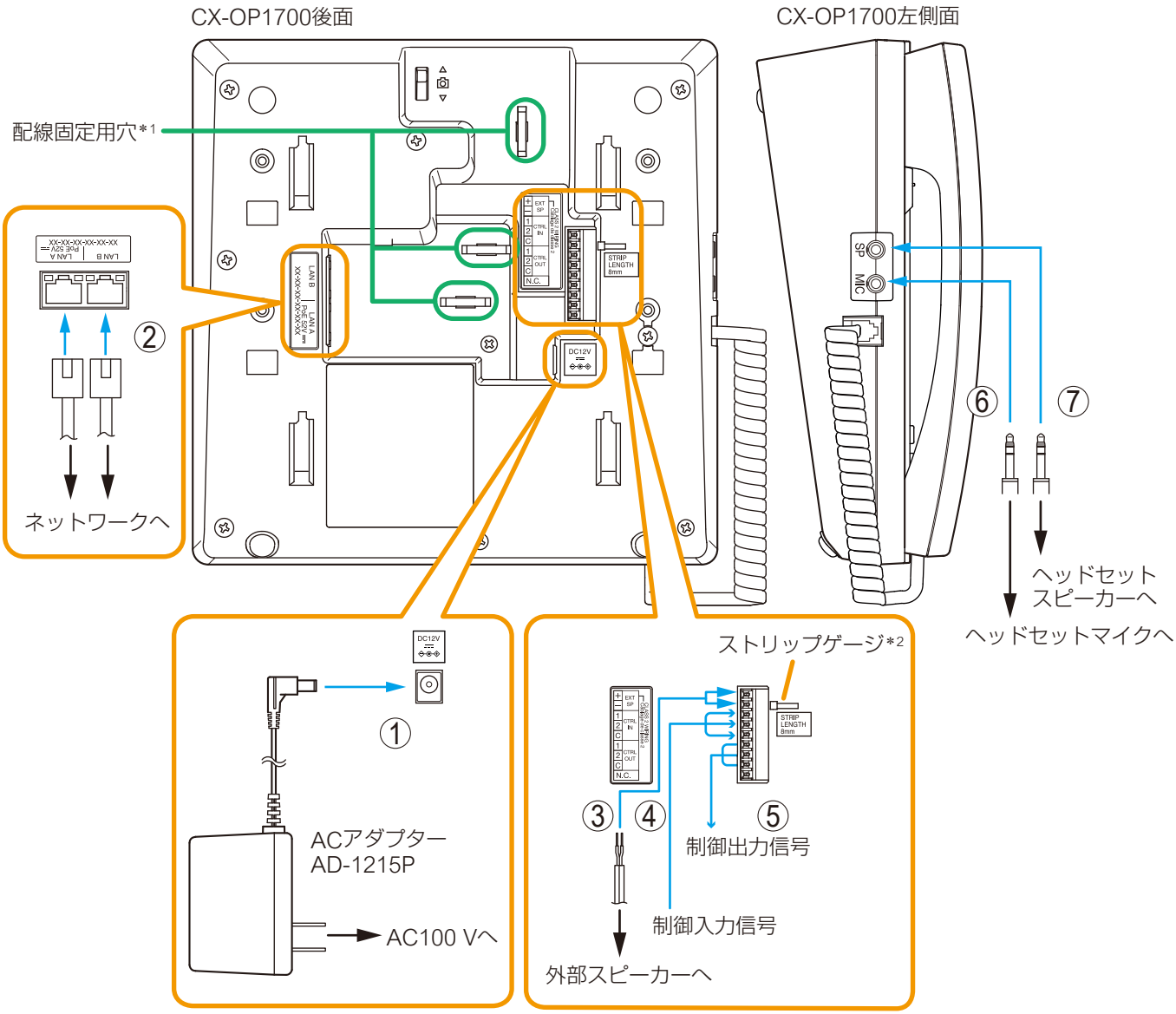
ご注意

スイッチングハブと LAN A/B を使用して LAN の二重化構成を行う場合、RSTP 準拠のスイッチングハブを使用してください。
RSTP 非準拠のスイッチングハブを使用すると、パケットのループが発生する可能性があります。

メ モ

二重化が必要ない場合は、LAN A または LAN B のみ接続してください。

■ CX-OP1700 の接続



*1 CX-OP1700 に付属の結束バンドを使用し、線材を束ねて配線固定用穴に固定してください。（☞ P. 3-7、P. 3-12）

*2 スピーカー線および制御線の線材のむきしろは、ストリップゲージを利用して測ると便利です。

① AC アダプター接続端子の接続

別売の AC アダプター AD-1215P を接続します。

② ネットワーク接続端子の接続

100BASE-TX のネットワークに接続します。
LAN A のみ PoE 給電に対応しており、LAN A を IEEE802.3af 準拠の PoE（Power over Ethernet）対応スイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。
この接続には、カテゴリー 5 規格以上のケーブルを使用してください。

ご注意

スイッチングハブと LAN A/B を使用して LAN の二重化構成を行う場合、RSTP 準拠のスイッチングハブを使用してください。
RSTP 非準拠のスイッチングハブを使用すると、パケットのループが発生する可能性があります。

メ モ

二重化が必要ない場合は、LAN A または LAN B のみ接続してください。

③外部スピーカー出力端子の接続

外部スピーカー（8 Ω、2 W 以上）を接続します。（プッシュ式ターミナルの接続のしかた☞ P. 3-31）
外部スピーカーを使用するには、CX-1000 設定ソフトウェアでの設定が必要です。
CX-1000 設定ソフトウェアでの設定のしかたは、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「音声出力の設定」をお読みください。

④制御入力端子の接続

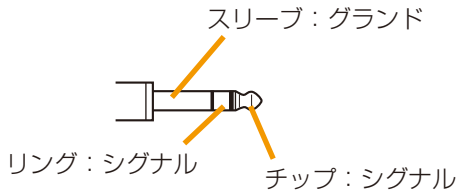
スイッチ、センサーなどの外部機器を接続します。（プッシュ式ターミナルの接続のしかた☞ P. 3-31）
［仕様］
無電圧メイク接点入力
開放電圧：DC12 V
短絡電流：5 mA

⑤制御出力端子の接続

表示器などの外部機器を接続します。（プッシュ式ターミナルの接続のしかた☞ P. 3-31）
［仕様］
オープンコレクター出力（極性あり）
耐電圧　：DC30 V
許容電流：100 mA

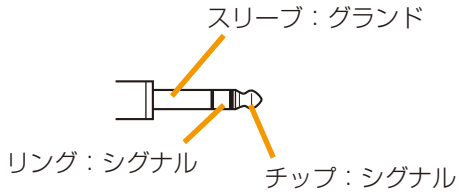
⑥ヘッドセット用マイク接続端子の接続

ø3.5 ミニジャックです。
ヘッドセットマイクを接続します。

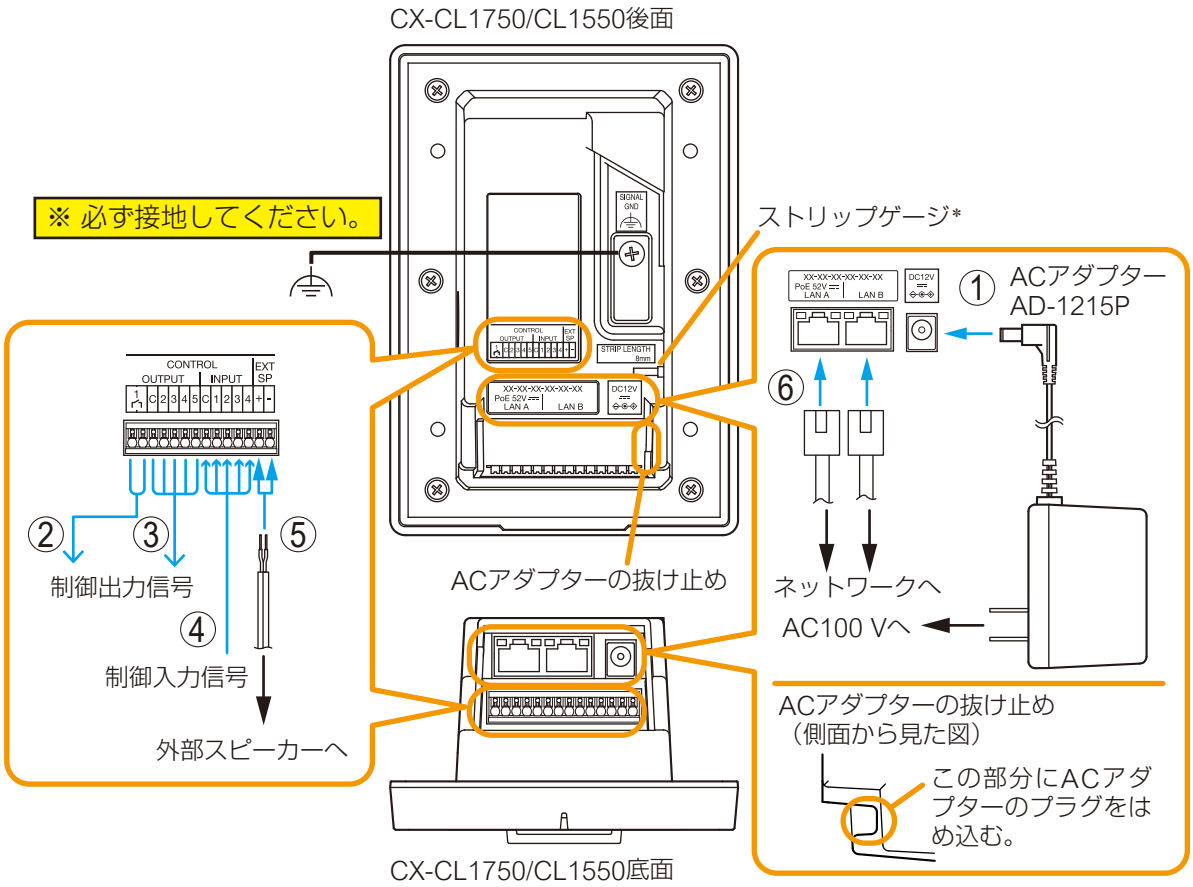


⑦ヘッドセット用スピーカー接続端子の接続

ø3.5 ミニジャックです。
ヘッドセットスピーカーを接続します。



■ CX-CL1750/CL1550 の接続



* スピーカー線および制御線の線材のむきしろは、ストリップゲージを利用して測ると便利です。

① AC アダプター接続端子の接続

別売の AC アダプター AD-1215P を接続します。
AC アダプターのプラグが抜けないように、側面の抜け止めにはめ込んで固定してください。

② 制御出力端子 1 の接続

電気錠などの外部機器を接続します。（プッシュ式ターミナルの接続のしかた☞ P. 3-31）
［仕様］
リレー接点出力
耐電圧　：DC30 V
許容電流：1 A

③ 制御出力端子 2 ～ 5 の接続

表示器などの外部機器を接続します。（プッシュ式ターミナルの接続のしかた☞ P. 3-31）
［仕様］
オープンコレクター出力（極性あり）
耐電圧　：DC30 V
許容電流：100 mA

④ 制御入力端子の接続

スイッチ、センサーなどの外部機器を接続します。（プッシュ式ターミナルの接続のしかた ☞ P. 3-31）

［仕様］

無電圧メイク接点入力

開放電圧：DC12 V

短絡電流：5 mA

⑤ 外部スピーカー出力端子の接続

外部スピーカー（8 Ω、2 W 以上）を接続します。（プッシュ式ターミナルの接続のしかた ☞ P. 3-31）

外部スピーカーを使用するには、CX-1000 設定ソフトウェアでの設定が必要です。

CX-1000 設定ソフトウェアでの設定のしかたは、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「音声出力の設定」をお読みください。

⑥ ネットワーク接続端子の接続

100BASE-TX のネットワークに接続します。

LAN A のみ PoE 給電に対応しており、LAN A を IEEE802.3af 準拠の PoE（Power over Ethernet）対応スイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。

この接続には、カテゴリー 5 規格以上のケーブルを使用してください。

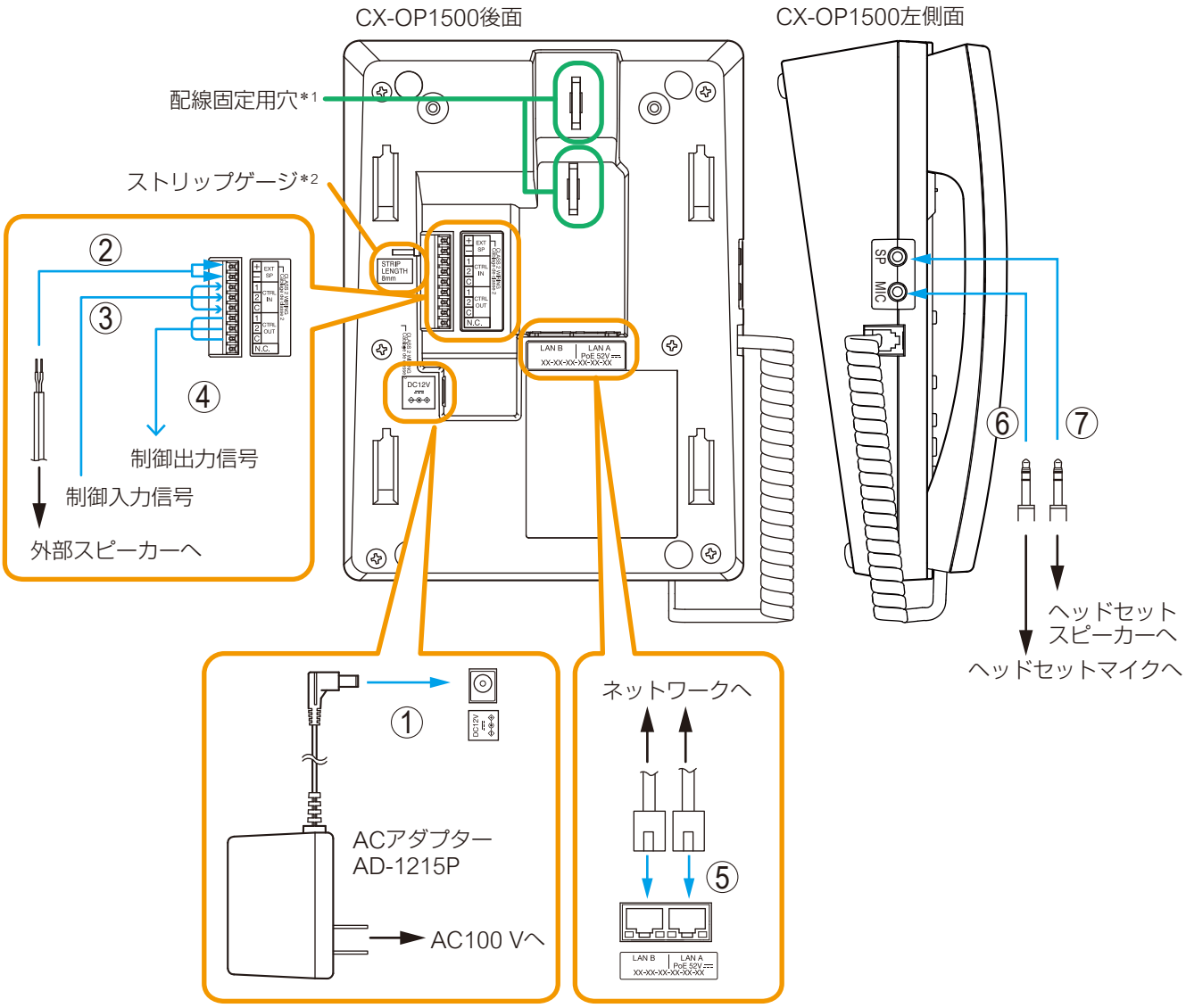
ご注意

- スイッチングハブと LAN A/B を使用して LAN の二重化構成を行う場合、RSTP 準拠のスイッチングハブを使用してください。
  RSTP 非準拠のスイッチングハブを使用すると、パケットのループが発生する可能性があります。
- LAN ケーブルの爪折れ防止カバーの形状によっては、LAN コネクタに正常に挿抜できない場合があります。
  LAN ケーブルが正常に挿抜可能か確認の上ご使用ください。

メ モ

二重化が必要ない場合は、LAN A または LAN B のみ接続してください。

■ CX-OP1500 の接続



*1 CX-OP1500 に付属の結束バンドを使用し、線材を束ねて配線固定用穴に固定してください。(☞ P. 3-16、P. 3-19)

*2 スピーカー線および制御線の線材のむきしろは、ストリップゲージを利用して測ると便利です。

① AC アダプター接続端子の接続

別売の AC アダプター AD-1215P を接続します。

② 外部スピーカー出力端子の接続

外部スピーカー（8 Ω、2 W 以上）を接続します。(プッシュ式ターミナルの接続のしかた ☞ P. 3-31)
外部スピーカーを使用するには、CX-1000 設定ソフトウェアでの設定が必要です。
CX-1000 設定ソフトウェアでの設定のしかたは、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「音声出力の設定」をお読みください。

③制御入力端子の接続

スイッチ、センサーなどの外部機器を接続します。（プッシュ式ターミナルの接続のしかた☞ P. 3-31）
［仕様］
無電圧メイク接点入力
開放電圧：DC12 V
短絡電流：5 mA

④制御出力端子の接続

表示器などの外部機器を接続します。（プッシュ式ターミナルの接続のしかた☞ P. 3-31）
［仕様］
オープンコレクター出力（極性あり）
耐電圧　：DC30 V
許容電流：100 mA

⑤ネットワーク接続端子の接続

100BASE-TX のネットワークに接続します。
LAN A のみ PoE 給電に対応しており、LAN A を IEEE802.3af 準拠の PoE（Power over Ethernet）対応スイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。
この接続には、カテゴリー 5 規格以上のケーブルを使用してください。

ご注意

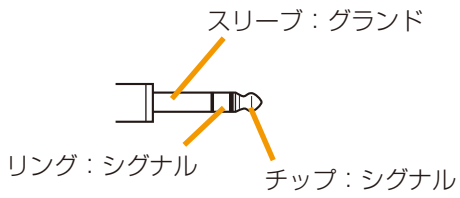
スイッチングハブと LAN A/B を使用して LAN の二重化構成を行う場合、RSTP 準拠のスイッチングハブを使用してください。
RSTP 非準拠のスイッチングハブを使用すると、パケットのループが発生する可能性があります。

メ モ

二重化が必要ない場合は、LAN A または LAN B のみ接続してください。

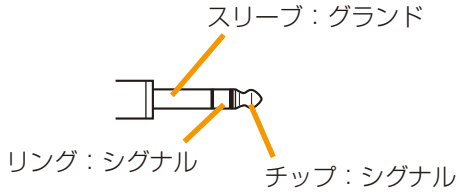
⑥ヘッドセット用マイク接続端子の接続

ø3.5 ミニジャックです。
ヘッドセットマイクを接続します。

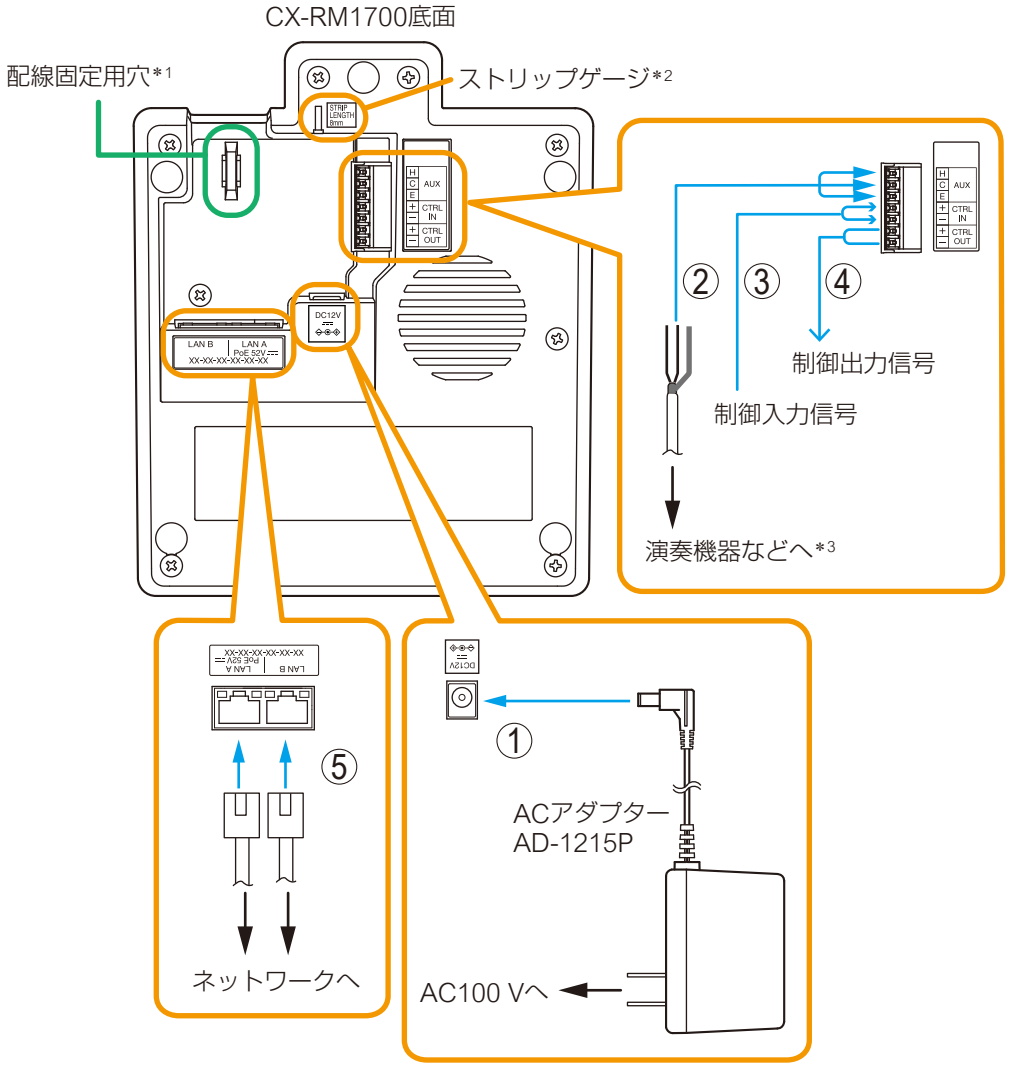


⑦ヘッドセット用スピーカー接続端子の接続

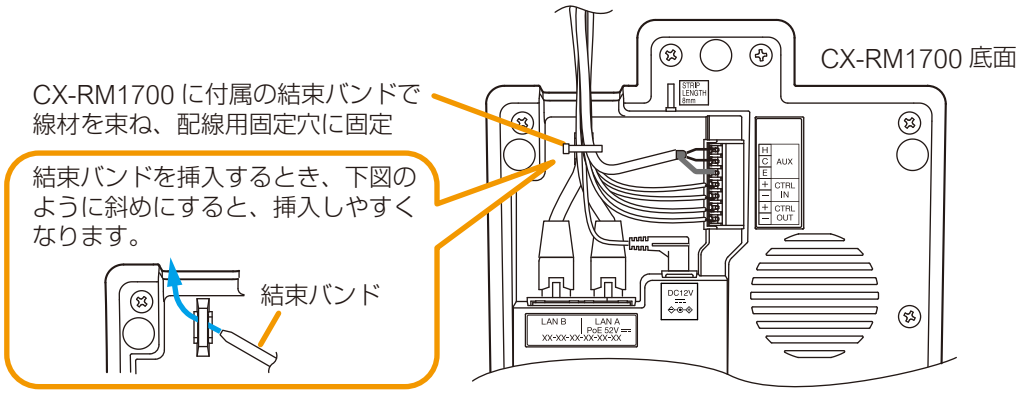
ø3.5 ミニジャックです。
ヘッドセットスピーカーを接続します。



■ CX-RM1700 の接続

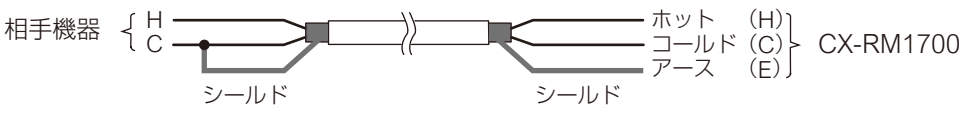


*1 CX-RM1700 に付属の結束バンドを使用し、線材を束ねて配線固定用穴に固定してください。



*2 音声線および制御線の線材のむきしろは、ストリップゲージを利用して測ると便利です。

*3 相手機器が不平衡入出力のときは、下図のように接続してください。



① AC アダプター接続端子の接続

別売の AC アダプター AD-1215P を接続します。

② AUX 入力端子の接続

マイク、演奏機器などを接続します。（プッシュ式ターミナルの接続のしかた☞ P. 3-31）

［仕様］

ラインレベル入力設定時：–20 dB *4

マイクレベル入力設定時：–60 dB *4

600 Ω、トランス平衡

*4 0 dB = 1 V

③ 制御入力端子の接続

スイッチ、センサーなどの外部機器を接続します。（プッシュ式ターミナルの接続のしかた☞ P. 3-31）

［仕様］

無電圧メイク接点入力

開放電圧：DC12 V

短絡電流：5 mA

④ 制御出力端子の接続

表示器などの外部機器を接続します。（プッシュ式ターミナルの接続のしかた☞ P. 3-31）

［仕様］

オープンコレクター出力（極性あり）

耐電圧　：DC30 V

許容電流：100 mA

⑤ ネットワーク接続端子の接続

100BASE-TX のネットワークに接続します。

LAN A のみ PoE 給電に対応しており、LAN A を IEEE802.3af 準拠の PoE（Power over Ethernet）対応スイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。

この接続には、カテゴリー 5 規格以上のケーブルを使用してください。

ご注意

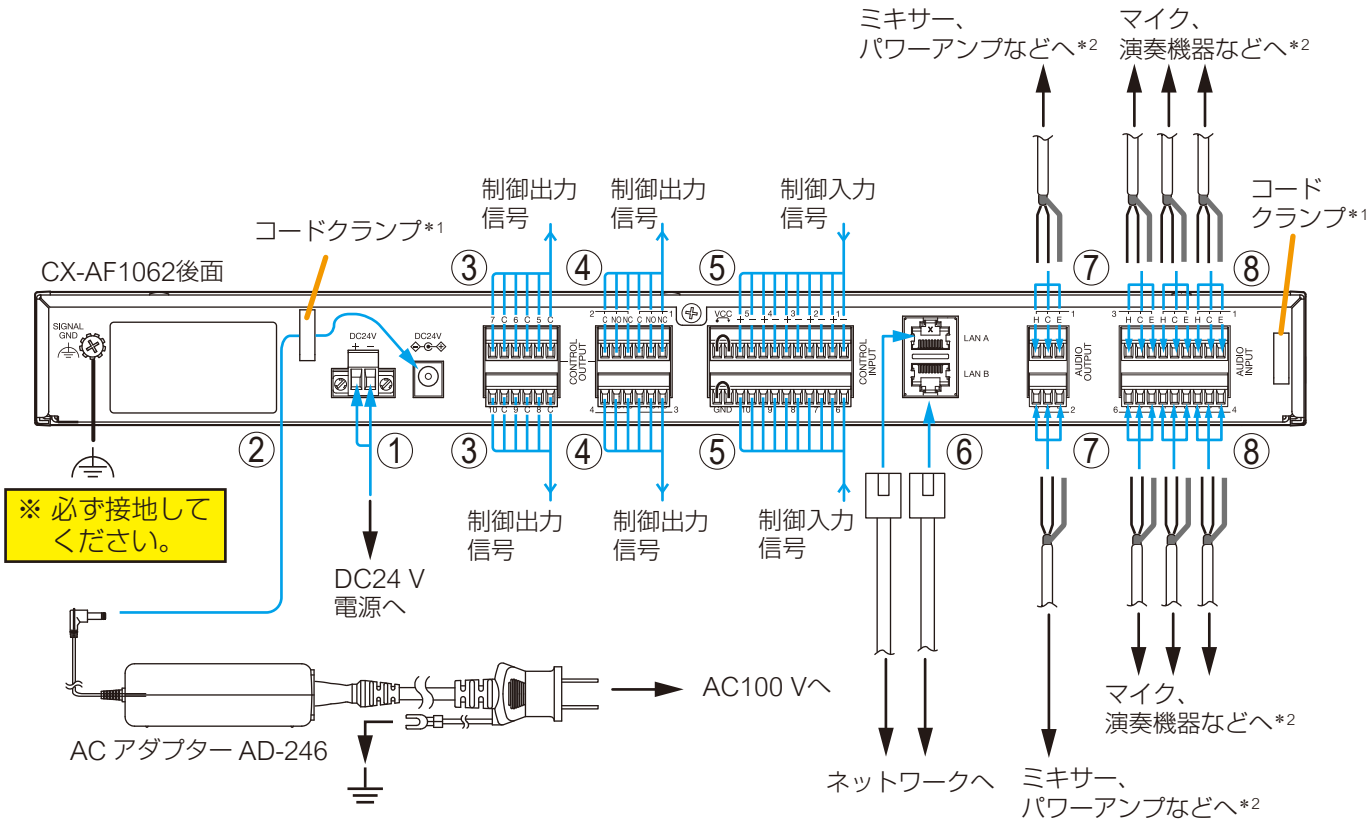
スイッチングハブと LAN A/B を使用して LAN の二重化構成を行う場合、RSTP 準拠のスイッチングハブを使用してください。

RSTP 非準拠のスイッチングハブを使用すると、パケットのループが発生する可能性があります。

メ モ

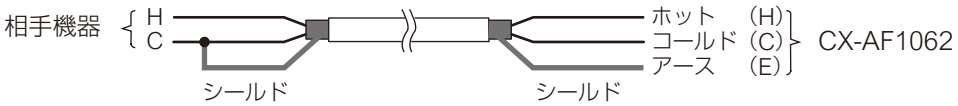
二重化が必要ない場合は、LAN A または LAN B のみ接続してください。

■ CX-AF1062 の接続



*1 線材の固定に使用してください。

*2 相手機器が不平衡入出力のときは、下図のように接続してください。



①DC 電源入力端子の接続

DC24 V 電源を使用する場合は、この端子に接続します。（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた☞ P. 3-29）

ご注意

- DC 電源は 400 mA 以上のものを用意してください。
- DC 電源入力端子への入力電圧範囲は、DC21.6 ～ DC26.4 V です。
  範囲外の電圧を入力しないでください。
  誤動作または故障の原因となることがあります。
- 誘雷の恐れがある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

メ モ

本端子と AC アダプター接続端子の両方に電源を供給すると、電圧の高い方から電源が供給されます。

②AC アダプター接続端子の接続

AC アダプターを使用する場合は、別売の AC アダプター AD-246 を接続します。
コードをコードクランプに挟み込み、固定してください。

メ モ

本端子と DC 電源入力端子の両方に電源を供給すると、電圧の高い方から電源が供給されます。

③ 制御出力端子 5 ～ 10 の接続

表示器などの外部機器を接続します。（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた ☞ P. 3-29）

［仕様］

オープンコレクター出力（極性あり）

耐電圧　：DC30 V

許容電流：100 mA

④ 制御出力端子 1 ～ 4 の接続

リレー接点出力（c 接点）

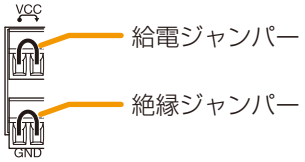
耐電圧　：DC30 V

許容電流：1 A

⑤ 制御入力端子の接続

スイッチ、センサーなどの外部機器を接続します。（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた ☞ P. 3-29）

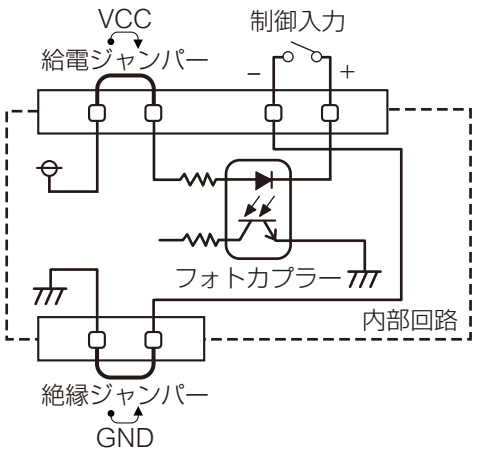
工場出荷時は、着脱式ターミナルプラグに給電ジャンパーと絶縁ジャンパーが装着されています。



給電ジャンパー装着状態では、制御入力端子 1 ～ 10 の回路に機器内部から電源を供給します。給電ジャンパーを外すと、内部電源が切り離されますので、外部から電源を供給します。

絶縁ジャンパー装着状態では、制御入力端子 1 ～ 10 のマイナス端子が電源（アース）に接続されています。絶縁ジャンパーを外すと、マイナス端子が本機から切り離され、絶縁されます。

［給電ジャンパーと絶縁ジャンパーのはたらき］



［仕様］

無電圧メイク接点入力

開放電圧：DC24 V

短絡電流：5 mA

⑥ ネットワーク接続端子の接続

100BASE-TX のネットワークに接続します。
この接続には、カテゴリー 5 規格以上のケーブルを使用してください。

ご注意

スイッチングハブと LAN A/B を使用して LAN の二重化構成を行う場合、RSTP 準拠のスイッチングハブを使用してください。
RSTP 非準拠のスイッチングハブを使用すると、パケットのループが発生する可能性があります。

メ モ

二重化が必要ない場合は、LAN A または LAN B のみ接続してください。

⑦ 音声出力端子の接続

ミキサー、パワーアンプなどを、2 心シールド線で接続します。
（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた ☞ P. 3-29）
前面の音量調節器カバー内にある音声出力用音量調節器で音声出力 1 と 2 の音量を個別に調節できます。
［仕様］
最大 0 dB *3、10 kΩ以下、平衡型
ラインレベルの音声信号を出力します。
H ：ホット
C ：コールド
E ：アース（シールド）

⑧ 音声入力端子の接続

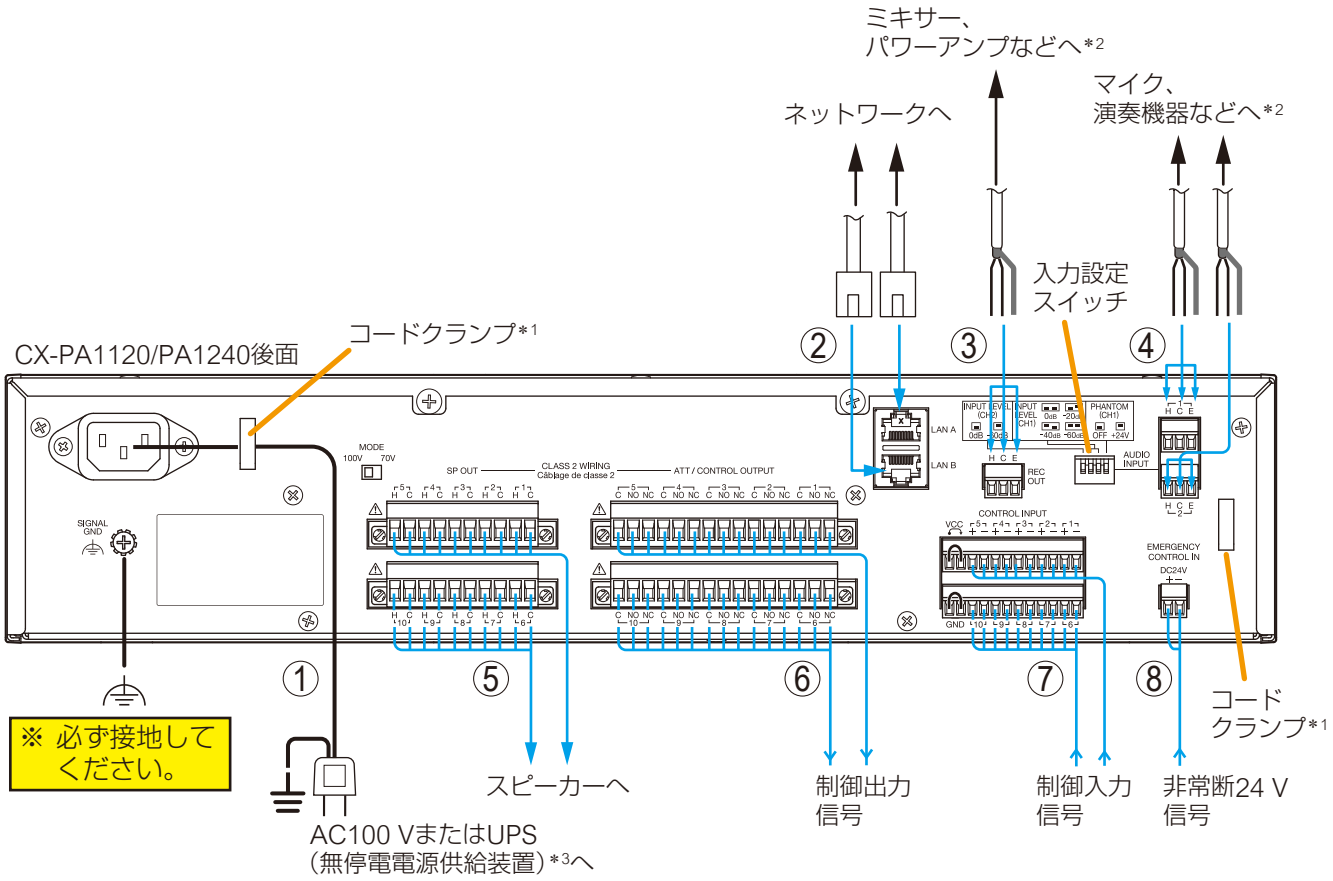
演奏機器を接続して放送することができます。（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた ☞ P. 3-29）
音声入力 1 ～ 3 は前面の入力レベル設定スイッチで入力信号レベルの切り換えが可能です。また、前面の音量調節器カバー内にある音声入力用音量調節器で音声入力 1 ～ 6 の音量を個別に調節できます。
［仕様］
音声入力 1 ～ 3：–60/0 dB *3 切り換え、600 Ω、トランス平衡
音声入力 4 ～ 6：0 dB *3、10 kΩ、電子平衡
H ：ホット
C ：コールド
E ：アース（シールド）

ご注意

前面パネルにある音声入力端子 1 にホーンプラグが差し込まれているときは、後面の音声入力端子 1 からの入力は切断されます。

*3 0 dB = 1 V

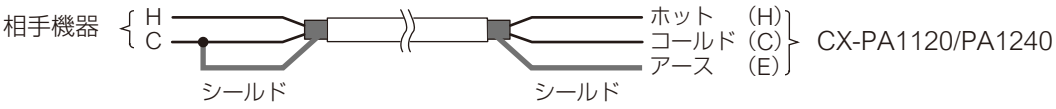
■ CX-PA1120/PA1240 の接続



警告　必ず電源のアース接続をしてください。

*1 線材の固定に使用してください。

*2 相手機器が不平衡入出力のときは、下図のように接続してください。



*3 システムを構成する機器の消費電力の合計とバックアップしたい時間から、適切な UPS を選定します。
常時インバーター給電方式の UPS を使用してください。
（参考）
アンプ 120 W 10 回線 CX-PA1120：180 W（定格）
アンプ 240 W 10 回線 CX-PA1240：330 W（定格）

① 電源の接続

付属の電源コードで、AC100 V または UPS（無停電電源供給装置）*3 に接続します。

電源コードの取り扱いについて

付属の電源コードは、CX-PA1120/PA1240 の専用品です。
これ以外の機器に使用しないでください。

ご注意

誘雷の恐れがある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

② ネットワークの接続

100BASE-TX のネットワークに接続します。
この接続には、カテゴリー 5 規格以上のケーブルを使用してください。

ご注意

スイッチングハブと LAN A/B を使用して LAN の二重化構成を行う場合、RSTP 準拠のスイッチングハブを使用してください。
RSTP 非準拠のスイッチングハブを使用すると、パケットのループが発生する可能性があります。

メ モ

二重化が必要ない場合は、LAN A または LAN B のみ接続してください。

③ 録音出力端子の接続

ミキサー、パワーアンプなどを、2 心シールド線で接続します。
（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた ☞ P. 3-29）
［仕様］
0 dB *4、10 kΩ、平衡
ラインレベルの音声信号を出力します。
H ：ホット
C ：コールド
E ：アース（シールド）

④ 音声入力端子の接続

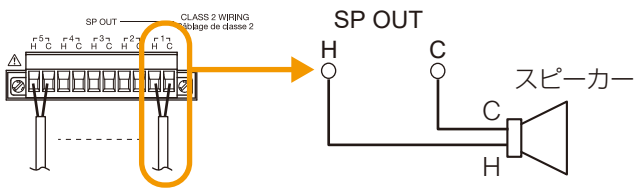
演奏機器を接続して放送することができます。
音声入力 1、2 は音声入力端子左側の入力設定スイッチで入力信号レベルの切り換えが可能です。（☞ P. 2-26）
また、前面の音量調節器カバー内にある音声入力用音量調節器で音声入力 1、2 の音量を個別に調節できます。
音声入力 1 は、ファンタム電源の供給設定ができます。ANC のセンサーマイクを使用する場合は音声入力 1 に接続してください。
また、音声入力 1 の放送先パターンは自機の音声出力のみ設定できます。
（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた ☞ P. 3-29）
［仕様］
音声入力 1：–60/–40/–20/0 dB *4 切り換え、10 kΩ、電子平衡
音声入力 2：–60/0 dB *4 切り換え、10 kΩ、電子平衡
H ：ホット
C ：コールド
E ：アース（シールド）

ご注意

ジッタバッファの設定が「低遅延」のとき、音声入力 1 は ANC マイクのみ使用可能、音声入力 2 は使用不可となります。詳しくは、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」「音声入力の設定」をお読みください。

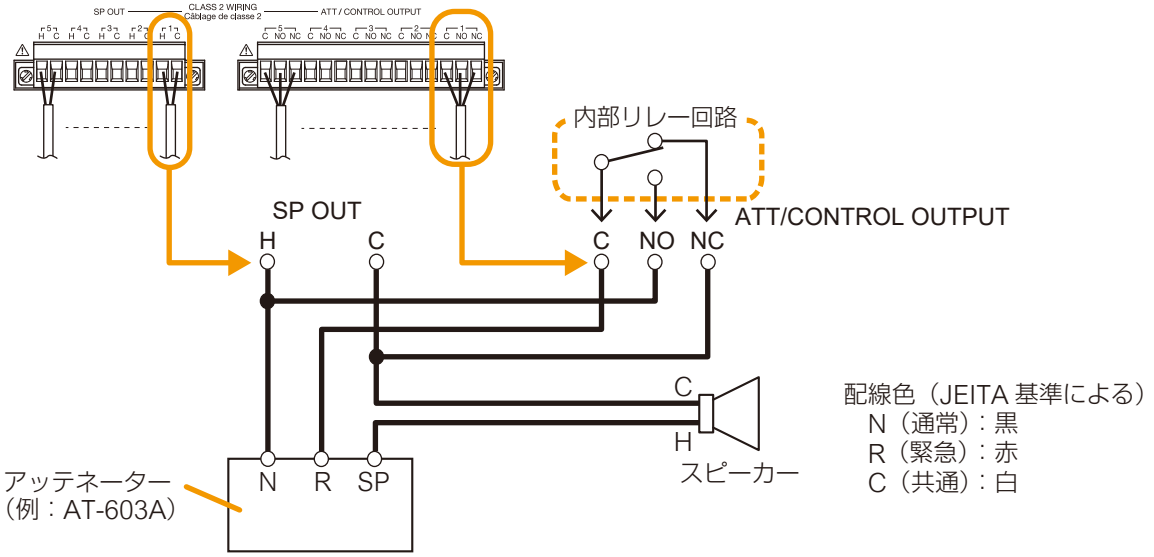
⑤ スピーカー出力端子の接続

スピーカーを接続します。（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた ☞ P. 3-29）
（1）2 線式配線の場合は、下図のように接続してください。

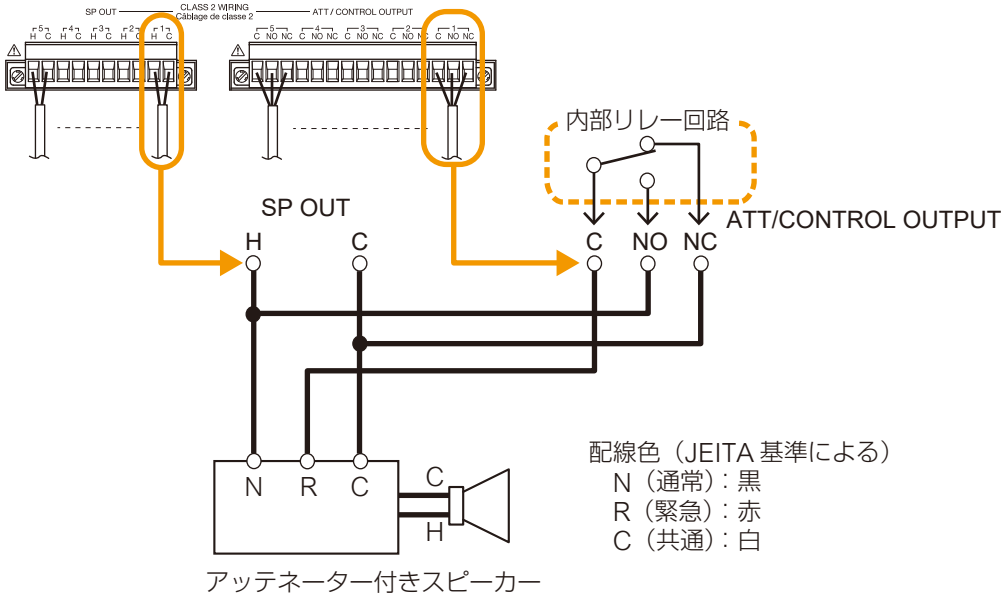


*4 0 dB = 1 V

（2）3 線式配線の場合、アッテネーターを設けるときは、アッテネーター／制御出力端子も使用して、下図のように接続してください。
また、この接続で使用するアッテネーター／制御出力端子については、CX-1000 設定ソフトウェアでアッテネーター制御出力として使用するための設定をしてください。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「音声出力の設定」）

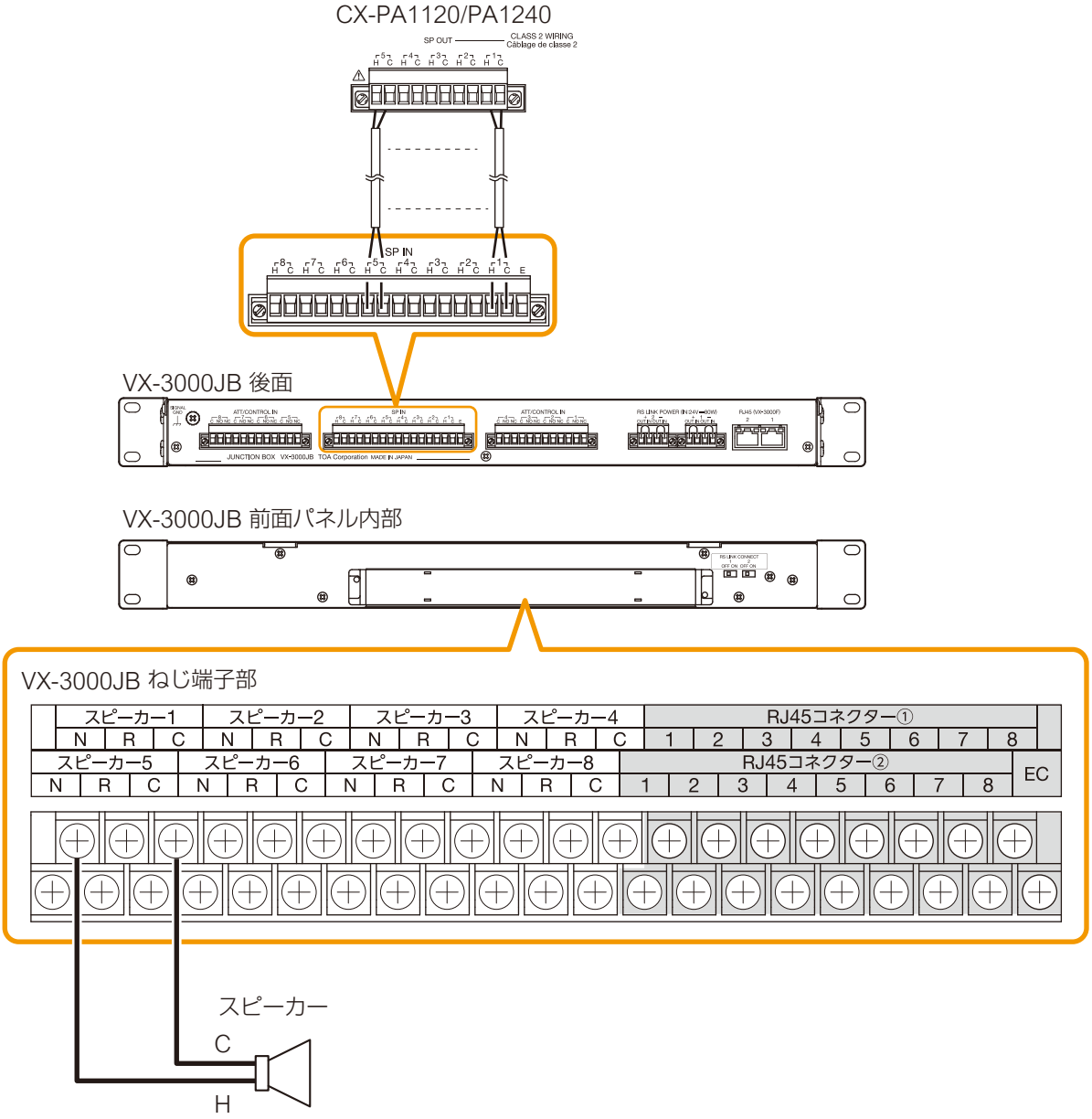


（3）3 線式配線の場合、アッテネーター付きスピーカーを使用するときは、アッテネーター／制御出力端子も使用して、下図のように接続してください。
また、この接続で使用するアッテネーター／制御出力端子については、CX-1000 設定ソフトウェアでアッテネーター制御出力として使用するための設定をしてください。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「音声出力の設定」）



（4）2 線式配線で VX-3000JB を使用する場合

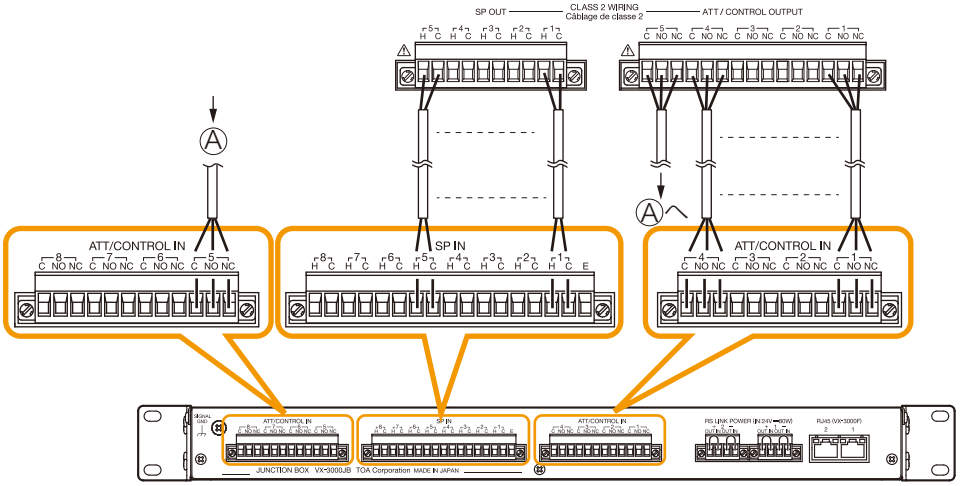
- CX-PA1120/PA1240 後面のスピーカー出力端子（SP OUT）と、VX-3000JB 後面のスピーカー入力端子（SP IN）の対応する番号同士を接続します。
- VX-3000JB 前面パネル内部のスピーカー回線接続端子（N、C）から、スピーカーを接続します。



（5）3 線式配線で VX-3000JB を使用する場合

- CX-PA1120/PA1240 後面のスピーカー出力端子（SP OUT）と、VX-3000JB 後面のスピーカー入力端子（SP IN）の対応する番号同士を接続します。
- CX-PA1120/PA1240 後面のアッテネーター／制御出力端子（ATT/CONTROL OUT）と、VX-3000JB 後面のアッテネーター制御入力端子（ATT/CONTROL IN）の対応する番号同士を接続します。
- VX-3000JB 前面パネル内部のスピーカー回線接続端子（N、C）から、スピーカーを接続します。
- この接続で使用するアッテネーター／制御出力端子については、CX-1000 設定ソフトウェアでアッテネーター制御出力として使用するための設定をしてください。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「音声出力の設定」）

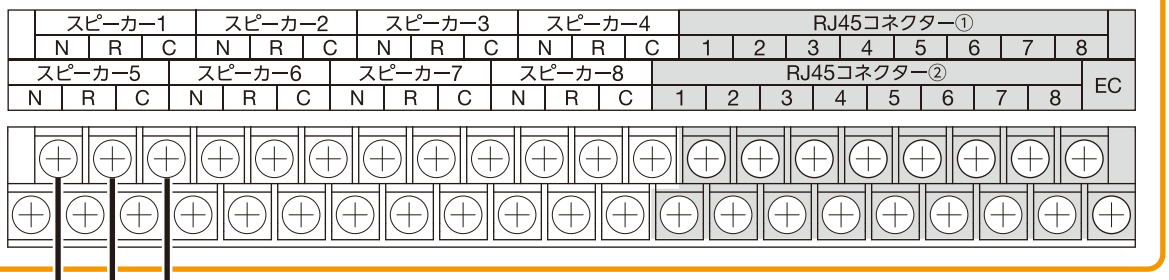
CX-PA1120/PA1240

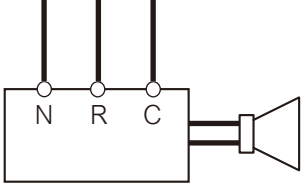


VX-3000JB 後面

VX-3000JB 前面パネル内部

VX-3000JB ねじ端子部





アッテネーター付きスピーカー

配線色（JEITA 基準による）
N（通常）：黒
R（緊急）：赤
C（共通）：白

⑥ アッテネーター／制御出力端子の接続

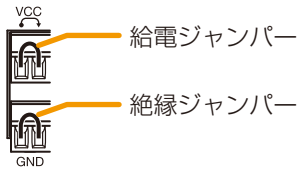
この端子を使用すると、CX-1000 システムに接続された外部機器を制御できます。
あるいは、設定によりアッテネーター制御出力としても使用できます。（☞ P. 3-46「⑤ スピーカー出力端子の接続」の（2）、（3）、（5）の場合）
（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた ☞ P. 3-29）
［仕様］
リレー接点出力（c 接点）
許容電流：4 A
耐電圧　：AC125 V/DC24 V

ご注意

ATT 制御設定が OFF の場合でも、CPU OFF スイッチによる一斉放送を行う場合は、操作を行った CX-PA1120/PA1240 のアッテネーター／制御出力の全チャンネルは ON になります。外部機器の制御として使用する場合はご注意下さい。

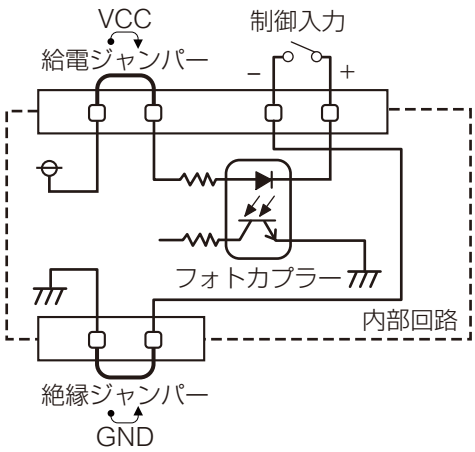
⑦ 制御入力端子の接続

スイッチ、センサーなどの外部機器を接続します。（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた ☞ P. 3-29）
工場出荷時は、着脱式ターミナルプラグに給電ジャンパーと絶縁ジャンパーが装着されています。



給電ジャンパー装着状態では、制御入力端子 1 ～ 10 の回路に機器内部から電源を供給します。給電ジャンパーを外すと、内部電源が切り離されますので、外部から電源を供給します。
絶縁ジャンパー装着状態では、制御入力端子 1 ～ 10 のマイナス端子が電源（アース）に接続されています。絶縁ジャンパーを外すと、マイナス端子が本機から切り離され、絶縁されます。

［給電ジャンパーと絶縁ジャンパーのはたらき］

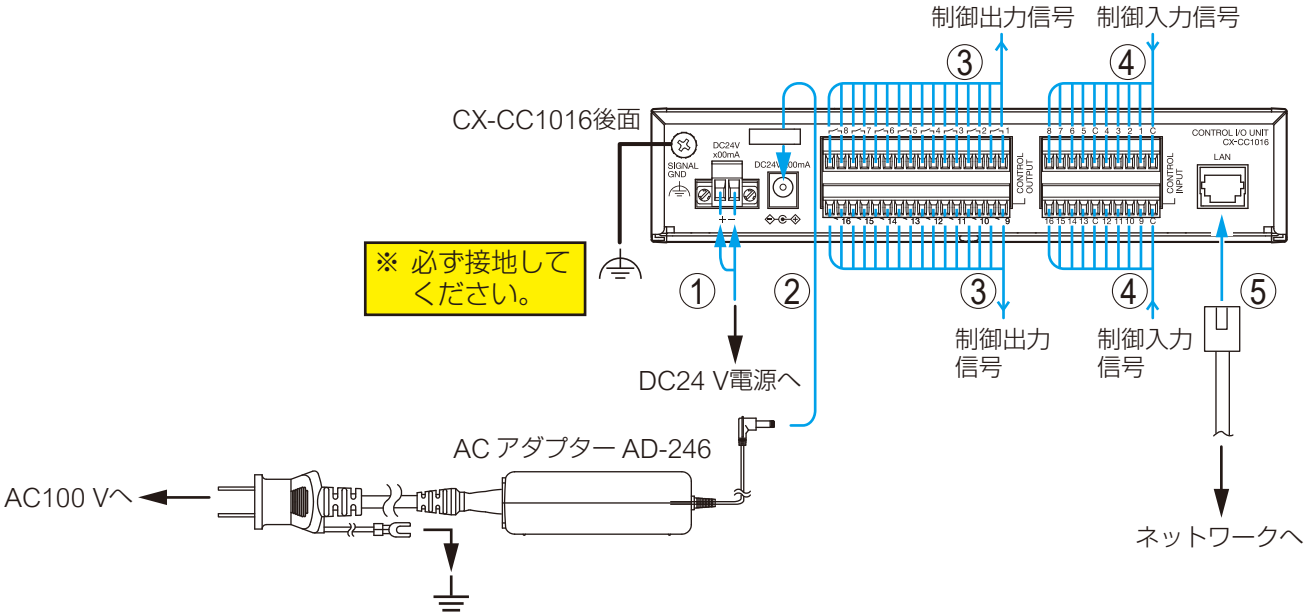


［仕様］
無電圧メイク接点入力
開放電圧：DC24 V
短絡電流：5 mA

⑧ 非常断 24 V 入力端子

非常用放送設備の非常断 24 V 出力端子を接続します。（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた ☞ P. 3-29）

■ CX-CC1016 の接続



① DC 電源入力端子の接続

DC24 V 電源を使用する場合は、この端子に接続します。（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた ☞ P. 3-29）

ご注意

- DC 電源は 400 mA 以上のものを用意してください。
- DC 電源入力端子への入力電圧範囲は、DC21.6 ～ DC26.4 V です。
  範囲外の電圧を入力しないでください。
  誤動作または故障の原因となることがあります。
- 誘雷の恐れがある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

メ モ

本端子と AC アダプター接続端子の両方に電源供給すると、電圧の高い方から電源が供給されます。

② AC アダプター接続端子の接続

AC アダプターを使用する場合は、別売の AC アダプター AD-246 を接続します。
コードをコードクランプに挟み込み、固定してください。

メ モ

本端子と DC 電源入力端子の両方に電源を供給すると、電圧の高い方から電源が供給されます。

③ 制御出力端子の接続

表示器などの外部機器を接続します。（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた ☞ P. 3-29）
［仕様］
リレー接点出力
耐電圧　：DC30 V
許容電流：1 A

④ 制御入力端子の接続

スイッチ、センサーなどの外部機器を接続します。（着脱式ターミナルプラグの接続のしかた ☞ P. 3-29）
［仕様］
無電圧メイク接点入力
開放電圧：DC24 V
短絡電流：5 mA

⑤ ネットワーク接続端子の接続

100BASE-TX のネットワークに接続します。
この接続には、カテゴリー 5 規格以上のケーブルを使用してください。

第４章

付　録

付属品一覧

機種	付属品
CX-SM1000	プラスチック足 …… 4
	小ねじ M3 × 8 …… 4
	着脱式ターミナルプラグ（2P） …… 1
	着脱式ターミナルプラグ（5P） …… 1
CX-OP1700	スタンド …… 1
	小ねじ M3 × 10 …… 2
	結束バンド …… 2
CX-CL1750	小ねじ M4 × 20（タンパープルーフねじ） …… 4
	防水ワッシャー …… 4
	保護シール …… 2
CX-OP1500	スタンド …… 1
	小ねじ M3 × 10 …… 2
	結束バンド …… 2
CX-CL1550	小ねじ M4 × 20（タンパープルーフねじ） …… 4
	防水ワッシャー …… 4
CX-RM1700	結束バンド …… 1
CX-AF1062	プラスチック足 …… 4
	小ねじ M3 × 8 …… 4
	着脱式ターミナルプラグ（2P） …… 1
	着脱式ターミナルプラグ（12P） …… 2
	着脱式ターミナルプラグ（9P） …… 2
	着脱式ターミナルプラグ（6P） …… 4
	着脱式ターミナルプラグ（3P） …… 2
CX-PA1120、CX-PA1240	電源コード（2 m） …… 1
	プラスチック足 …… 4
	小ねじ M3 × 8 …… 4
	着脱式ターミナルプラグ（15P） …… 2
	着脱式ターミナルプラグ（10P） …… 2
	着脱式ターミナルプラグ（12P） …… 2
	着脱式ターミナルプラグ（3P） …… 3
	着脱式ターミナルプラグ（2P） …… 1
CX-CC1016	プラスチック足 …… 4
	小ねじ M3 × 8 …… 4
	着脱式ターミナルプラグ（2P） …… 1
	着脱式ターミナルプラグ（16P） …… 2
	着脱式ターミナルプラグ（10P） …… 2
YC-1001（CX-OP1500/OP1700 用壁掛金具）	タッピンねじ 3.5 × 25 …… 2

商品に関するお問い合わせ

お客様相談センター
受付 9:00～17:00
（土日、祝日除く）

固定電話 **0120-108-117**
携　帯 **0570-064-475**（有料）
F A X **0570-017-108**（有料）
IP電話はご利用いただけません。

個人情報の取扱方針は、弊社ホームページをご覧ください。（https://www.toa.co.jp/privacy.htm）

価格・在庫・修理・カタログに関するお問い合わせ

取扱店または営業所へご連絡ください。
最寄り営業所は TOA ホームページでご確認ください。
（https://www.toa.co.jp/）

TOA株式会社

202609